念佛大行者德本上

井上 豐太郎著

念佛

大

行

者

德

本上会阁

藏

稿

録トスル名号等ノ口ノコル及関係文献筆寫出版ノ時附但尚年表増補遺蹟巡拜記事仝年五月二十五日畧脱稿昭和十九年一月十二日起稿

0

念佛大行者徳本上人

井上 豐太郎 著

緒言

を てな わ 知はい れ ら な わ ねらこ れ ばなのは な い故 如 ら 。に何 な徳徳 な い。本本る 上上場 人人合 ののをに 故一忘 在 に生不 つ て 本 退はも 上 轉 な 徳 人 のら本 傳 勇な上 は 猛い人 要 精 の 求 進念行 せ は佛に らる `の 斈 無行び る。 限 者 のなそ りの 光 輝と実 をて践 も毛に つ嫌 あ 尊す ゃ いるか もこら とね の ででば るあな 事っら

のにる徳 故 上大 本 に梓要上上 現でを人人 代己盡がの 青にし法傳 年 流て然記 布ゐ上に 子 少 る人 つ 女に一之修 勅い T わ・般以御は よに上伝 み 入蛇に福 づ 手 足 倣 田 ^ら困をは行 い 難加ん誠 で ゅ と上 あらう。 ・ るす人 の必との 文要の徳体も意本 まな気行 たい込者 古かで傳 と執三 稚 に思筆巻 てわしが 読れたあ る徳 IJ み 易 本 し併行大 ع し者 畧 云 此 伝 を へ書 で つ ぬ慶あ < る 応 し 又 年 て 木間己ゐ

Ξ 他と傳此 日云にの のひ則故 修がるに 補た ے を い 章 ヽ ま 0 に . つことに 甚 節 一 だを部 軽別の つ小 率 す のて冊 る。 譏 讀 子 をみ を 免や作 れす つ < て、 た い がわ大 か念 一り佛 先やの パガイ て て く 行 の記者 畧 述 徳 叙し本 をた上 人 以 て唯傳 Ξ 完 لح 了れ題 と業す 餘 の大 大 技 体 方でを 十 行 子 分 者

昭和十九年五月二十五日

第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	第	
九	十八章	七	六	五	四	Ξ	=	_										一章	目
本上人	徳本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	本上人	頂山籠	苦 行	家以	ひ 立		次
奇	所詠道歌	一 枚	悟り	善 供	極 樂	生之	関東	徳 川	仙 洞	関東	紀藩	郷	攝津	:	:	:	:		
:	:			:		行		家	に		授	益		:	:	:	:	:	
:		:	:	:		造	:	御連枝	す	:		:	:	:	:	:		:	
	:	:	:		•	:	:	方 御	御 授	:	:	:	:	:		:	:		
	:	:	:		:	:	:	授 戒		:	:	:	:	:	:	:	:	:	
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	

井上 豐太郎

第二十七章	第二十六章	第二十五章	第二十四章	第二十三章	第二十二章	第二十一章	第二十 章
徳本上人遺蹟巡拜	徳本上人文献解説	徳本上人の法弟子	徳本上人の書(筆蹟	徳本上人の肖像 ・	徳本上人筆名号石	徳本上人と東溟和尚	徳本上人の説教 :
:	:	:	\sim	:	:	ع	÷
•	•	•		•	•	の	•
:	:	:		:	:		:
						襌	
•	•	•	•	•	•	問	•
•	:	:	•	•	:		•
			:	:		答	:
	•	•	•	•	•		
•	•	•	•	•	•	_	•
	:	:	:	:	:	:	:
•	•	•	•	•	•	•	•
•	•	•	•	•	•	•	•
:	:	:	:	:	:	:	:
	•	•	•	•	•	•	
•	•	•	•	•	•	•	•
	:	:	:	:	:	:	:
•	•	•	•	•	•	•	•
:	:	:	:	:	:	:	:
:	:	:	:	:	:	:	:

井 上 豐 太 郎 著

意り持 `5 を 以其主 て思の 記想伝 事 経 記 す験を るを撰 に如す 非実る れに場 ば味合 、得に 以し て、 眞 其 撰 相周者 を囲は 世・其 に環の 伝 境 伝 う · 記 る時せ 事代ら 能・る わ境べ ず遇き を先 傳 明 賢 記確偉 のに人 本把の 旨握人

し半事神み急での古のるにな著若で徳に なはあはをなあ筆来行が机い名し居本叛 い、り之感るるに高業、上筈な眞り上く周蹟な `をずの °な僧を相僅で所に `人事到にる い生又語る余奇る善慕當少あだ徳到はとな浸人 つ前不ら事り跡事知ふかのるけ本る近なるり格 ての思ずで、をお識篤も資 °で上処代る注きの 溢奇議と、肝信ほの信知料然も人にが 美跡底云わ心じく伝のれをるあの南生 でにのひれの・`記人な基にる眞無ん 、ら記奇そにあい礎わい伝阿だ いっも釈現事端のあらととれて記彌一 ほてあ迦代にを奇たわ思しら、を陀個 どでるも人粗感蹟りれふて勿其物仏の のあ °正のなずをてての `忙のせ六傑 、、で此の地ん字僧 事るわ法感るるあ がに覺は事ぐ尤わあ伝身のと名で `るもれる記 、遺す号 あ徳徳不に伝 る本本思ピ記所事困ら。を之跡るの其 °上上議タの謂甚難の_讀記はをな `足 故人人なり体信だを欲者す到探ら刻跡 にのがしとに仰多感し幸次底索ば石わ・ 本生百と来はのきずてに第のし `の五 書前年云ぬづ本にる及之でぞ・少建畿 にの後ふもれ道過のばを `ん文く立 `でぎはざ許事で献とせ東 於奇の。の て跡今然が又あて、りせ己うをもら海 もを日る多何ろ`之し。にべ調これ 若は、にいとう事等所他簡か査のた東 干な尚現のなけ実のをに便らし上る山 のれ人実でしれの伝補後或ざた人を 奇て々にあにど記記ふ進はる後行見北 ` に は る 事 も 述 は 所 の 之 事 で 脚 る 陸 。実 `に慨あうをなな巡次の を徳盻随 叙本灸分孔に之疎ねるち畧るけ錫第各 述上す怪子副をな其で、伝がれので方 す人る力もわある道あ或と故は地 `面 るは所乱怪ざぐこのろは名に `の從に こ存の神力るると人う徳づ、出裡っ及 と在大の乱憾に之達。本く茲来のてん

あう徳で此佛行上久古徳及ば出徳は るか本あ淨宗等の無来本び ざ家本止 土たに座限大上難 るの上む 宗る相襌の上人き大時人を の法當と斈根に大難己は得 人然の云ぶの斈悟行に法な にの苦い可人ぶ徹 . 徳 教 行 、きにべ底大年上 本儀を相処非きの苦期人 上は豫當がざは境行 で 程の存れ ・に を 人 あ 自し難在ばそ 到 ഗ 成 枚 つ らて行す 如 `の し 起 易居をる成常で 遂所請 き 行 行 以の遂 人 ゐ げ謂 IJ てで不のる 道 た斈に 者 のと日其あ能企の 事問 で にの所 あ よな謂 る。 。 っき て 人文 も程に飢き た ` で不 謂 る仝と在 る ・大 自 あ知 実 つ寒難てに行 わ•難 様 し 然 るの 践 渋の 尼 の まの鍛又は耐 を此 • 効 こ 行錬天枯ゆ 叡の入 大 の 業が台木る苦を予宗寒行行 ع 発 斈 道 大 に し 問の 以 奇豫定等巖業 を てな輩 て 定さにのを成 ききに 知 せれあ生成 問人近 の 遂 る ざてり活遂 るゐしとし 十がい 事 し べ ع たる 年 人 L る も云た の何で 宗 称 で 廻い る 旨 点 斈 人 あ で然峯 . 処 で ŧ て 僧 つ る ある行樹に 可 あ 。の企 7 るに念 る て な 下 念佛石永 に及其 IJ

上 をはあわま人 るれこの わと悟 れに道 は素は 此ば 点ら其 にし残 於いさ て見れ 識 て 実をゐ に示る 云し道 ひて歌 知居に IJ れ ょ ざ つ る実て 尊に知 宗 行る に者事 ふのが れ面出 目 来 そのる の偉次 偉 大 第 容さで にを ひ示悟 れし道 ふての ゐ深 たる さ < のと なで云

る

所はで す 参 後 る な照に ら し解 ん て説 記す を 自 述る す諸 らる文 信 次 献 ず 第に る で依 次 拠 比す で あ 的外 正 確 徳 を本 期上 し人 の 且出 つ生 地の 方 地 色た を る 織筆 り者 込の ん地 た方 処に に伝 唱 特さ

い

が名徳 よ蓮本 び社上 な號人 し譽は立 烝たも諱ち 称 同を 号じ徳 で く本 あ僧名 る。階連 の者性 名 號 称 譽 0 称 阿 阿 爾爾 陀陀 佛 佛 はと あ號 まし りた に 化 此 益徳 が本 廣は 大 剃 な髪 の後 での 僧 後侶 進と のし 善て 智の 識名 連ず

を 三之 通 称 を +助 ع 굸 ふ た 和 歌 山 縣 日 高 郡 志 賀 村 大 字 志 賀 字 久 志 元 久 志 村

家の 太 ع 굸 소 地 氏 の 女 某 ح 둜

Ξ

ら上と徳人じの事三後下わのい夫追に明三の で 手 う午願夫本区わ・は唯あ を 年夫百 出 畠 るの子代の姓 家山とがあに りれの氏 云れ う。 な東徳 が 其 き海本其 家 長 職先 今粟が源系名 を を祖 日散 を 尚 の行武の隠 ع 武 め天 此 禰業 天 如 し 次 て た皇 点檀を皇何 を がに わ郷論には田 久 重がず出封伏 視子るづ建氏 明 応 で、 すと上とのを といふ。 るいに 云 時 名 う にふ格 代 乘 Ш 及と別事わ•る 久俊 の尾 夏 張 ば同のは格 河守塩 別久 ぬじ意 紀 < 味ま こ 俊 内 政 州 わ・こ現よ 玉 長 ひなと代 IJ 正 の 落 といに で七 覺 裔 唯 人 小し 畏わ●代 寺 で とな くたれ の あの 百 あ 姓天と三皇え 城 多 ま後 り、 る くりが で ح 太陛ば Ш あ重 굸 う。 IJ 視即中 夫 下 日 死 のの蓮がすち し 倅赤宗たべ上かた き 人〈 子のい 事のれそは 十た開 助る祖併柄先住の寛 出に日しで考ん時政 蓮 此も三で政 家 の上がらな太

四 す で 足 IJ る

人い本のや正を太徳のれ事 人飾でにふ夫と別 其迄はふし偉はかあ上た婦称隔こ っ人所の ` 間 重瞳のと生母に 從や瞳が奇いん或男 ふだ夜子 な 蓮 0 母上のき 人花事 蓮 知る・ 花は を を を生のな 由夢 まむげ 見れ夢 き てたを て 又 時 見 生にて夫る香上婦 、気人窃 時室をに に妊 Ξ 香 満 み 宝 ` 1= 気ち 生 宝祈 蓮曆請 じ たの八し と花年て 云が戌 うは寅男 がじの子 如め六を て月授 き 奇開二 け く十賜 媏 は時二 わ ع 日 b 後同午ん

家伝果 るて人眼眞 然にに実たを IJ うて 否の重端 マークリか お が合 < 或 多 つ はいて は之後・ の事雙 粉は つ ` 飾 の で昔瞳 なかに いらは か云常 とひに も伝常 思へ人 わらに れれ異 ざ てり るゐた にる る あ所輝 らでき ざあを るるも もがっ て し徳い ば本た

五

今

ŧ

な

六 で出徳 あ家本く 上子りすの其がふ上粉 る 歳には小財わ会 部百時所 いの姓殆に 時往仕ん か生事 ۲ ら寺に 둜 に從ふ 小 於 事に て 足 ゃ IJ 剃 ら 髪 又ぬ れ 得他小 がたと 度の百 し 姓 いふ た農 で のの の が家貧 いとわりる。たりのとも、 し < 暮 奉し 七公て 第で 歳にい のい居 あ 時 った る。 て事 で あゐで るたあ か事 る らもか あ ら 子る 沢と 徳 山の本 の事が

八 七 が 7 に 申 ഗ 友 阿 で 彌 た あ 陀 ഗ っ 仏 ع 隣 唱 家 歳 え の ഗ たと 児 時 童 で 云ふ、 あ が 病 つ た と 死 し ŧ 云云う。 たにつき、 如 か 月 人 +の 五 死 夜 لح ഗ い 明 う 月 事 を を な

`はおなよ ڵڂ う ろ にい 念ろ ら 佛説 れ を た申き ع さか さ れ た れ ح て 둜 う無常 上 迅 人速 後の 年 旨 此を 時 感 のじ 事さ をと 忘り わ. ` れ ずそ ħ よか くら 側後 近は の誰 人す にす

九 あ本の っ上時 てのの出 、又のわ・後頃家 、光 し に て れてゐ つ て 当 も 時 るたと云ふ。、指を屈めて 阿 其 彌 遊陀 の戯仏 わった 間 号 印 にせ を もら 結ぶ 常れ にる に 佛 程 擬 事 え り え の 念 樹 眞 佛 似の 下 を行 石 喜者 上 に びと 在 し 笠て つ を有 て は頭名 、にに わのな れせる わってだ

る々随父げ徳佛はけ徳そむ知 て本な 時 母 次或随に勤上り御 第は所請行人な地て人のも母 で気にわを既ど藏 あ味日れなに云さ幼後 悪課たし八つん年年 つ たく念が 歳 思佛 つを許近 頃 た修さ隣に戯に在 りせれのな らな人る 又れい達と 奇たのに 特とでも朝不云其念タ 思ふ儘佛佛 儀がとを 前 `なすに の 事かつヽ 参 にるためり 考次がら 瞑 へ第 `れ目 たな十た端 りる歳と 坐 。故の云 兎に頃う鉦 角近か を 異隣ら九打 常のわ・歳ち 児此珠の叩 と有数春い し様を出て てを袂家念 注見にし佛 目聞入たを さすれき申 れるて旨でし

出

つ筋を 人た肉異六本 此はを何事労に月上 時わ動し二人 +が以 者て 今せす頃行のゐ七財前 尚ずるか者一る日部 、にら傳人のでの 、かにでで あ往 あある生 るか寺 らの の随 大 で つ 他 圓 さ あての大 れ る此小徳 虫大たのというでは、大きのでは、たらのでは、たら るの歳時に 通 出まかつ IJ 家でらい で 以の小て あ 前間僧剃 る。ののに髪 徳上なし 本人った のわっての `大が 行 蹟一き が介く上 又のな人 頗小つ廿 る百た七 特姓の歳 異のと即 な忰わりち もで 天 のあ余明 り程四 で あ 趣年

上 へ草 と年事移栽 も十は動培の 日 春高却 故時草の三 油記 老 のを)間にか !屋 (大 の 上口に 居 な殺屋 って くさず なず家 ッ、 -ケ ゐ っ 筋 る で 所 田 で ま所 媏 っに氏 た集 とめに いて 下 ふ念男 一佛 奉 つを 公 の申を 奇す し 蹟にて を ゐ 伝そた への頃 て虫 る 他

ഗ + 間 を 日 其 期 間 人 わりに لح 定 三宝 め て 念に 誓 2 を 申て さ 朝 夕 二 た 朝 早時 くの • 勤 夜 行 お式 そを 自 < 迄 定 し 仕 事 各

て人

を上

をじ火ぞ年大実自の勿遺わる閑 ら因れ□?ら 厳業し度縁 経 とわ を草 たや鞋 わ・こてに四 とーも誠 て作 つ て 、欽千む空にて の し べ過 も睡 を しせ亦眠 僧 儘を し 廃 を 侶 で順 さ の睡む す あ 睡 礼 な る う 眠る げ 眠 道 ちす な事 を者 つ 千 万 かれ。當かれ。當かれ。常 1= となど たと ŧ の一に + の一に + かれ。即ちには即ち 둜 う施 ふに 実なせ 山『常中ち 1. は誠の夜勤 大 子此た 居め火に心 なての誦に 根 のわ・+ いゐ諸経善 で る 行遂七 し法 0 あ 状に歳 世てを るこのくられたっている。の遺事消時ば至は 追誡を息をなま 随を思せ失らで夜 しそふよわな殆わ・ がのて 。しいん横 たま早睡む ∘ど臥

四

右た重土問淨法りに即に物み焚の或きヽく眠る佛かすの 参入伝のと宗上にる法其取きにくの行践 考信な宗かの人入迄然行り善暖 0 、上者出知る上冬をたすを初に 常人のこ人る以夜第 ゆ上なを見か崇幾を生後と き き人り一てた教百求をに 給目寒、飲干む空に 請語 る贈ふ見気廻慕の 、其文言の示 たて申すに、行 いべしこれ参 か見えずない とも申すに、行 とも申すに、行 なり給うた。 など別に、紀 でと別に、紀 などの行者と関 こられ肌乳まりべき、一キュイをりたこ 上ら御り覺人せ仁てし たりと云ふ。こ 肌) き 人、 よんの暖 南起 ろこ °相 ま 云ふ。この行者のこびて之を受けれてれるでは、とくよみて味るのに異る、いいのでは、 さ 龍 請 ず 公が領民. で あ っ 3に下し頌ちったと云う。 た とい 、に住後、家 のけ得 上押し後 う。 一人に合いて ち 。に か と し 人 し し た 徳 贈 た と し つ 口 る本りだ云人かよ き い を て 、化 父上た < IJ 家 母 人 る 状は副読ー益入の と其りみ枚すり中 を後物行のベ来を 遷がく刷き IJ さ 、間りいてし 守化

五

分

ŧ

之を

_ 斈

び

行

ふべ

き

で

あ

七 六 にる相宗答土然袋至ち まのる旨選要のれ で方形の擇旨一て常人何し識 でが奥願悉起に一假に あに念し請か枚名 る至佛た文け起法 り集もわ• ` 請の 此得かで其 まなとも で此得との 五 文 き生淨言 を 物要土の 引 で集宗示 相 用 のす 宗 诵 な て 乘 IJ 둜 おこう。 つ を の在た極僅 は浄書むか 土きる半 大宗物に 紙 体にに足 IJ 葉 のて眠る の 假 一 行 を含 名 枚わ晒蓄 起れらあ交 請るす る IJ 文授必文の の戒要章法 要のなで語 旨名くあ で を目 し IJ あ 解に て る 大 が し五淨原

も枚 起 詰 し女

邪淨両の信な修 لح を 土手無ぜ りと 申 し ろ 知ん 申して 樵川建ふの以の人此すて念 てとは 外 事 が心印もたにのひ心が す。 がと 奥 候 な を <u>^</u> らに 深 は < さ 12 き 皆 往 ŧ 同代 事 決 生 IJ ろ じ の を 定 す 7 う 法 存 をよ し ぜて ぞ す て ば南 ع 念 智 < 無思佛 者 者 尊 阿ひに の 彌と の 振 斈 あ陀 IJ あ 沙 すと 舞 は仏て ら 汰 を れに 申 ず ŧ せ み てす ずして に往外唯 さ 、 して 唯知 は生に往 する別極 ず れ の 本ぞの樂 向 愚 願と仔の の に鈍 に お細た 念 念 の 洩 も候め 佛 身 れふはに ŧ す に 候 うずは べ な べち 南 し して L に 但 無 證 ے し 叼 の 尼 も三 彌 入 り心陀 斈 に道 候 四佛問

を宗を 安 起 行 此. 枚 に 至 極 世 IJ 源 空 が 所 存 こ の 外 に 全 < 別 義 を 存 ぜ ず 滅 後 ഗ

義 正が 月爲 パニ十三日 を 記 し 畢 W ゅ。

八

判

全にを父 文 服 殺 母 父左す し状 る たは Ξ る徳 ع た は じ る 其 大め に 홭 罪 て きた 排 る を ٦ 紀 領 民と 州 を 12 悟 う 般 に らけ ずて 布 `. 告 し 全 紀 < て 藩 孝孝々 道主 道 をのと 何 諭 L たて 告 る入か国 し た を る し 知たらる 文 章 ず、 で 砌 あ つ頑能 て強野 12 12 其 罪 父

٦ ع 母の に如 孝 度 を 守 IJ ^ IJ < だ IJ 奢 ら ず し て 面 Þ 家 職 を 勤 め 正 直 を 本 ح す る

<

九 あし徳 る て本 亡 つ 上誰 く人 た ŧ を 病なは存 لح 其 じ 乞. の つ 云ひ床て十た ふににゐ九る 出臥る歳 事 至 な かすのの 孝 ける れ 時 で ど、 の あ ゃ 父 事 を 往 徳る ع 還 亡 本 둜 Þ 約わ●安 わ 相 +実 永 し な 心 余に五た け 得 故 里 朝年 三に、 れ 候 ഗ 夕 ばなら 様 月 山 の に、 = 路 父 看 1病怠り 十五日 の三太 を 病 な 必 怠 に ず 下 日な父夫 Þ く三は 皈 太 全 IJ 教 夫 < 月 てには徳 申 拾六本 聞 数十出 < て度 七 家 可 人も歳後 手和での ŧ を歌亡 道 < 譽 頼山 んのな を つ知 だ医 事師た がのとず

に徳な許 本か 又 わ・ 小 青 福年 期 の 12 大 入 日 る 如 に 來 從 に い 祈 渞 心 て、 日 増 に 日 増 ŧ 長 速 L に出 て、 家 暇 の あ 素 願 る 毎 を に 達 鐘 L 巻 得 道 る や成 寺 う にの 觀 乞 い世

音

天 志 珍 休 で山 一のな谷 処 消 上て 人 のひ 生た 地す よら り念 わ●佛 二称 里 名 位に あ余 り念 な 又か 小つ 池た のと 西云 福ふ は道 今 成 は寺 同は

、髪中、な法大之る徳此伝 を `人かけニ村姫の 和に己出らて年のの如 、のて小生あ茲尚由れ家徳ゐの凡縁き 松寺るにのなわの本る春そ く何 願 上 は許 徳 じじめ剃を 卒じ人上 本 里 出 わの人上位 て髪許家い身廿 よ辺五 出しさの മ いに歳 素 家てれ 後 いよ切実とたる端が出現の春の事で 願を し日た に 頃る 剃 許され 侶のに と素よ こなり、家習現しはじょいであり、事 な願り た 、上人よ即ちたしとあって、 を IJ 財 達 上人 部 家は Ļ じめ、其瀬次淨 往 朝 は タ 生 俗師即 妹に然る 念匠 をの る る に の 土 於 母宗 に な の 四 れ 一 年 可 許 も 秘 し 時 旨 て字六 聟を を 折に 持 念を月佛も廿 乞わ の 之味 もを到大 ら見し のら七 る 円 、に、あ 行い日 い聞た 大 う に 事 す いけ財 ると 和 そて部母 とに思尚 の親を 至わに む徳往もつっれ 事本生今がてる 重 とと寺わせ ` 。相

本れ人た澄が短月和にを 上たをる月察冊堂尚再得徳の本財つ名円をべ本の 人る師人なせー主の興な本処山部たし大否く上頃受明賀清日 らら葉累人、い上と仝ののて徳む りんれに樂爲淨が人し村往で わ・、てととるよ わ・土 宗元師 り及 び今に来匠上原は **多のらわわ澄** ば大れれる月和澄之改此な人九 。は歌月を宗寺るの品現 ず円たる 。又武の二審松は此筆寺在 て徳事何梅者道人に興由のにの湯 発和をれ月小をのす貞良往な下川 明尚しも堂路梅大る春興生る寺村 六 せにら當わ・孝月円資を国寺 で大 字 あ字 ら其る時香者堂大料中寺の 名 れ道、京川者累徳な興覺大 る財 号 たをの都宣で樂和きと心円 石財(並尚 を す 大 歌受でに阿 の ・実に追遺 即徳 部日 のけあ於 手らるけ香陰澄慕憾大ち和 と高 蒸小郡 法れ °る川卿月のと□△□してた徳有累のに文す大燈わ●、 る川卿月のと円法尚 松に わ・る 本 数 樹 弟 孝 章 れ 徳 国 たて なに上の四子びニど和師い の在 境りのて くよ人歌代でて通も尚のか る るがよの浮 ` 1= わ•開 な 所 或 現 る 中とすみ先木西よ茲そ基 が る存 々思ぐでで及阿りにの 人 あ 三第一な 道 技われあ 木と 巧れたり歌下号又尾七旦る 側淨 に土 を幸しそ光代衰か 冴次道大清文其の明で退今 え第歌円水の心大寺あせ之 今 鎭 たで数大谷門得円にる を 尚 西 を る あ 百 徳 実 人 深 大 残 徳 派 つ種は業あか徳存大慶に 本に のてをこにりり遺す円長す 上属 。し詠る大年る 残の う 人し す徳さニけ此事の梅徳間事 剃

部

`か承る らに事 出わ 玆 づ に月にる 多 爲 少 畧 述 め歌 し に 渞 て 外の を く な心 b 得 次な あ 第いる 0 で ŧ あ此の る。 点の わ・眼 何か れら の見 書 て 物明 にか もな る 未所 だ 明 是 に全 < さ れ大 て円 居大 ら徳 な和 い尚 処 ょ で IJ あの る師

四 左 に 梅 供堂 ŧ 累 樂 及 び 澄 月 ഗ 大 円 大 徳 和 尚 追 慕 ഗ 文 及 び 大 円 大 徳 和 尚 ഗ 遺 詠 首 を 掲

追

+

げ

て

参

考

し

てを

やまを前 ろ し往 か卵 し 月 ら け 生 れのむる # て八行よ 大 IJ 日末 円 情仏ま 大 縁で和 催 徳 も 頼 歌 和 は浅母の 冶 べるる べ し浦 は き の ざ 心 藻 る な 塩 の り草 1= 葉 · しを、 かきつき の 道 命終 に 今 志 c て、 あ年 深 弥 IJ < け生見 るのせ て、 と頃給 さ ふ んより 聞 い こ 事 つ こえけるもる。ずたびたびな。 天 明二年 は ij も心 じ 地 し め にて、玉 う て ち 尋 お ね は ゃ ŧ

かた なる b ななむ ふ法 かの < さ ع し b IJ とひは ŧ 道 ع し草よ にのり、も ŧ 教露ひ へにとら < けえ蓮 らしの を花 大おの う 言ひて かな け 12 な < 梅 月

あはい さ な タし の 御 名 ŧ なし ^ ぞ消 し 和も の 葉

陀せ卯り心西 名 月 し し詞阿 号 は□?を 言 大 を か 7٦ 円 か ありいし大 う は身な 徳 b ふれ残みぬは ら短 りが節 和 し夜ぬた な 歌 めの لح くどの て夢 告 て 渞 ばげ愚 らに 六か來な 志 首 IJ IJ る 深 の なけ墨 又か 和 る 自 る つ IJ 歌 す を け らけ な じ る れ ん。世誠 ŧ 歌 中 か 常 1= 陰 な。 なら は都 玉 追 < に 慕 今ぬ し 誰 上 に む世 げ る لح かなニ **ഗ** 毎 送 り度 IJ よに IJ なけ しわ ・ り 三 度 き あが らりぬ。 庵 し 四重 の を を 十りわ訪 葉 か路侍かひ 余 りち 来 りして 歌 T を を ょ 毎 12 限 な 古 IJ 今 ع と年あの

冏

これま

まいしと

かき

きに道知

跡の

ゑと契で

ふり

る袖は月

のかも

早げ過

す

月、 す

死

紀の

の田

海

遠

出は

の田長ので、袖こそぬっ

き音ふる

波む露れ

はるのふ

葉

長

雨

るころ。

のなの

あか言

6

. を。 む。 ,てて、は、水きつ、

<

な

無南

き

世

は

ら

卯

- 8 -

堂

累

、の 見 袖し るな む

IJ し ぼ

はそ 天の右 明没澄ふ陀 往は早六年月でな 年い追のび 四つ慕あ 過梢霞月なのとを 八り文も迎 日しに残へ なやよるの りにり形雲 って炊っと 事 1.1 がっ大浦し わわれなや 、大みそ か 往徳やの 生和か 寺 尚 のがにひ 過四見に 去 十 る か 帳年目な に台もし 左で の遷 如 化 < し 記た さ 事 れが て伺 **あわ** るれ かる らが 之 又

花 生ま 寺だ 去に ٦ ŧ る ょ し の 山 霞 ゃ 春 を 匂 Ŋ そ む ら

帳

明譽 無 処 四着 西 八阿 大 命円 大 徳

天 六 年 月 日 享 年 不 明 住 職 廿 年

第 四

、内なろ如人誦説拠師の本 、家れに三大軌人 `部円 `の 、 昼 西 即 ^も 夫 ち 尚 歌 わ● あ別位明さ事量事を 上事を ・期間 ・期間 で の `尚年 ら経二斈後 る・ヶん始 阿年だめ を彌にでら 見陀充あれ れ経たろて ば等ぬうる ` の の 期 觀読で間 無誦あで此 量をるあ出 壽 斈 る家 経ん唯 ° ၇ のだ勤三二 如で行年年 きあのと間 はろ式いわ・ 心う又ふこ。海も 淨も即 め後土徳ち て年宗本宗

後 れ わ•堂 り 語 す 上 読 の 依 が 門 徳 一け僅にるうく出さ教のの儀上 のれにて山て 苦ど四念の三追の 行も日佛圍十妻翌又韋経大並大行 目來り日山年觀提 あ精に拝に間の、相希即和和行 る心カせ ブら細夜麓ち苦人大にの トれ径のに天心の無師道其 て脱其る業置五れな壽し大髪 從いのををし年たど経た円出 前で間道つ谿 に閉麥場と谷 倍口粉とめの廿思し無は和二 し垂催しる一八わて量 てれにて事小歳れ居壽満にの 道 た ー `に 村の ~.. 念が合昼なで春 をはり あ 々徳以終 る大 盛本て日月 。滝 `下照 に上 Ш な人一駄寺の〜 っわ・日ばの月日 た三のき前照高 と十食にの寺郡 云日糧て丸に丹 うをと廻山至生 満せ径とり村 之行ら念云 がしれ佛う住内 徳たた行縱持 道横大其 上少大し二良の `丁上名 人し良 出や上夜ば人の 家 つ 人 わ・か を 示

浦長をもべ四徳 لح IJ 人とにん大 達め來事河 IJ て祈の 五 上ろの和行人千修誓円 津行せ光 山貫俄川すら ち此免縣遂にのべれ師 したえ ع に円て国れ庵谷宣或籠 た をの給夜し の造処 うの塵 で 成をを夢境 あ し得見にを る。 て て十絶 行即夢一し 場ちさ面 と茲め觀跡 なをた音を す荒り現林 行 わ丘 上の後れに 人場に給隠 即所觀うし ちと世て苦 定音 行 こむ菩汝功 にる薩わ就 て時夢がっ 告所て 七 ケーのに利

Ξ

期ら日し 、あ多旧師師で村も所さ るい跡土わ・ °の佐 徳と配即大三て ち苦 本こ流 で罪歌を 人 即 赫 こ処を紀せ草落 ヽ に 得 伊 ^ら の 合 ع 詣 光 で大飯大 て師路阪 のの府 そ像船和 のを暴泉 念ま風国 佛つにと 行 る逢の ひ境 ഗ 精報 `の 進恩此漁 を講の村 宗寺浦 で 祖あに 法り吹加 然法き太 上然寄町 人上せの に人ら北 祈入れに

四

六 五 に庶上らの地に谿上徳くさ出上隔又誓寂漂あ大年奇場來益其 あ民人び帶に精に人本名れ来人て前せの着り河の端所るを年 らにわきと投進お二上を `た滅 ざ至行火云じしり十人と且の後上落れはた昔のさ感やし海本 れる満食うて 立九がべつはわ・人合た賽と円円に ば間のを全礼一ち歳此め篇天上の谷の者云光光亘た探吾及人 く 拝 昼 て の 落 る 額 保 人 居 わ•で が ふ 大 大 断 ち大供一水春合のも五錬村 成幾自 で谷み賜年行よ今 し多然 て行養夜垢 人をに離 あのでりののり和 げ道を暑の行し る草あ を 頃ゆわ歌 俗映の姿わてと 庵 る特でか二山 を発別でれ五り之に [°]信 り里縣) る化し よ入茲の時に内日 `千 あ 忘りか遍木 IJ 盆て っに尼のよ外高 魚足て書が藩 ` 〈 乃 りを 郡 掛苦継住候て隔矢 て、食し至を る大 事て一叩七行名持徳 Ш て わ・身邁い年を号を川 村 満は石し知個又大 米に遍て のに 七 のわの念六じのて 徳 徹 宝の財 字 `念佛 年め奇居の庵部千 を底 粉 ഗ のら蹟っ意寺往津 又木佛勤 せ 長 間れ存た志が生川 わ綿を 行 ら 豆の申を たす相に出寺に 月 此のる さ な でよ来よ の腰 処 粉巻れ若一、 わ・こある最 を とる 上 ` も 勝 わ● 6 干枚又夜行天 、がの山一鐘 をの或わ・場明別 で尊 里 ٢ て国此水上時終 六 項 近 し年究頃其寺 の _ に に わ•夜 を 成 て<u>↓</u>二明は て麻一倦 寺と隔 寺 世候苦のの念怠晨月す己 号号つ ょ の・行む袈佛なはのるに もし IJ 大下に外裟毎く暁十所無藩 、一に念を七の住候此あ +根幾り塩枚五佛破日如でよ 堂 ろ 余 っでし空 う の万て分・体唱 り宇 **、**°し下の を 人の、な縄を名て

七 `の徳格きし大はっ此三三徳弘化で潜そた徳が徳 、て徳年年本通をわ●入のめ本実本 れ十月に髪のわ・上力で較行九わ・本のを上し見なし都甚上に上 `住を七`人にあにた十`の諺経人たるい`度だ人叩人 でと咳?く < 難 凹 の 察 之 い る幾 せわをた ひさ 千らが克めとれ叩 るれ服 して ら るた。の れ くゐ し て 万 の去 人る 間のれ の併わ•つ でを 人し是た 見る。そ の に徳非の 間 化本もで 数 度 益のないる 一う木 そ わ<mark>・</mark>根 に行次が 如 何 病魔 しわ●第 よくこの大苦 て、 で唯 の襲う所とな に 、之あ後実がっ年 無 実に爲った。 間個 誕 修 生 の 代わ•恐 即 の 少 ら ち 行 院 行 業に に IJ 宗しく結 堪 宗しく結べ風も咽核又 ത え は存 をひ頭の外 た す 恢る結病傷 IJ 弘む核魔到 ۲ し処にがる なか身事も *t-*法くか体多 ゕの らのか肉 然 が六れ奥っ体わさ 念十居底たは 佛歳た深が之る を遷のく

八 九 のオ京むけヶ別の対るなる日徳苦わで後のまか声よし 、は年で とら処の本行 、人 るか子を事亘本の驚すい存不人、本又に らヶ髪をる上千異べ事す眠の達上遂語 IJ 人に て 申わ休き大苦 如 六然した苦奇落仰世しけの方師行何 言うに に人て なる で念遙面 の差あ佛か壁 わ・ 時 1= 苦 行 よりて尊 をな 在りても格 い次質の `い例 のほども三年の す。本之もに所徳上にのく 以本人たと見 b 別 、人七るるて此のケ人事わ・ 苦 患を感 至こ年少が 日、子 難のにし出尚 ずる事 の一亘と来三 行大る云る年 わ・ 業苦一うを行大。 短 苦 を行大 な 天い 患 成の苦不台け か を りしと、 遂 如 行 眠 宗 れ しきにとのど たわ•く 云 斈 ら う業 時 偉古ぶ所中其 石あ 大今れにの行 のり な其ば此念業 上し にも る例 行佛に

あ

ら三十谷わ・此事本努処比苦 、す での都仙ず年項 あ頃獅人るに徳此る申なが間上わ●徳 四谷髴や一人津的くとる不行磨 十法せめ大の川信 歳 院 む 故 行 ^蹟 合 のの谷外 項に 頃て う ちに於 で髪 畧 、の徳 け まぶ本叙 IJ とに との行者の次人わ、はじば入わ、はじば · 年 の 内 行 せ 修 六 衣 者 行 年をの之 間用姿がめ 中 もひで円二 に らあ頂年 ŧ る っ瑙が 麻るた衣程 屡 衣 迄 ° のわ• Þ のそ此僧剃 츩 端 物のの形 凄ま鬚とを を 現 い、髪異試 行ではりみ じ て 後 た 者 姿随に全れ ゐ つ享 くど る o 始て和山も 終上三間 そ

第

で

あ

ŧ

人少蓋の業至

`か献にら・のぶわ•れた跡つ併にの原げ川 °をき合於地村て落 °島上で本とわ●拝云らると原回谷 うれ上ゞで化に 関た九、の 。結るるをける。 無のなお、此ち恵。 用る 東の年萩 `此庵事 思る 下での原故のの三此 向あこにあ徳あ年の立苦 のると来り本とに地た行 でりて上にし 時 ` 徳 あ て 尼 人 わ•て 清 少 `と住 、去 松本る ° 其 な 跡 尼 平上 つ 右人其のりに寺てこの経 の 京がの行教経が 殿此後跡演營建塩 の への無にとせ立津 草 一紙に行 差萩住一号らせの 出原と宇しれら谷しになを、たれ山 に、錫 たどり建豫。ての原せた 、 立て尼あ庵 わらる 増れ 上ほ明しよ寺っに萩れ事 寺ど治てりわきた留原たを 、主もが錫 ・ 処 自 のの四 ` 世 書期十念家と あが覺 付間四佛の江後らる萩し に留年の信戸廃る 由原た よ錫遂道仰結寺、緒でる れせに場ふのとにのあ上 ばら安とか紀な至地っ人 `れ樂しき州りっでたわ• 前た寺上徳家全たあ 後かに人本の地。る即即 三に併堂行奥安此。ちち

尼う本くに眼人るあちて其籠加 ′年つ合と者女樂の上今 のの勇動も前をにっ、齊の居太萩にいせ称の中寺萩人のを千 御、のめらし殴此て僅を店せ岬原及てらし旧さに原こ内掲津 供空みたいて打の `し姉頗にじ立れ苦後や`る し佛にそ本此た女る蕎茶寄たヶにう徳事時巡とせけに萩巡合 てがのの妙のるに簡麥菓ら 京何こ何・姉所一単粉をれそ・人あ上な天し 阪にりれ本妹、人な・献ての阿がる人っ保つもた人まあ益於 、に 勇 わ・忽 の 事 豆 じ ` 時 波 勝 る 預 終 と 忽 ち 夫 で の た 齊 毎 の 籠 跡とケり名ち己ああ粉 °食日山居 ☞ こ , を 乗 に の り る の 尤 の 海 々 し 巡 ら の 全 り 道 身 、が 類 も 供 浜 を た 巡らの全り道身 尼心体あ 拝れ行 齊をに望の しとを惱ま此或をう出むわ• して場 た、にたな発乱りのわきとけて景塩 事倦て も 怠 わ。 未 て上人物っれ垢ので あの念木上遂果人ののたた離地あ をでっ る行佛調人にてへ姉類所 生上たの妹をでことあた前人。飯わ― 徳こらる。 。に中 L の驚人て わ・に佛依上日本にれ `上津 本しに居悉つ罰が人にわ・二 らくい面つに一 `人 皈 人 わ• 勇た 尼こソな上て前よ飯度千の途こ北 わ・とンい人得にい依木津姉このに 徳もナがに度至処しン川妹の塩和 ˜、追 剃 れ か て の 行 あ 町 津 歌 本あ京 上りに本從髪るら専僅満りに港浦 人 、行 が し し 因 嫉 ら か 以 、飲 の・ 随又こわれて果妬之に來よ食谷名 従上う若念上、ををとわ●く店山草 の人・く佛人応感つる一上をに山 間の大し修の報じとだ切人経庵を ` 母 阪 て 行 一 の `めけ米に営を望 しのに歿怠字事或たの麥飯す結み ば智行しりを例時 °事を依るん し円こ、な名が上然で断し、で又

++ 四 年、蔦ののる彌上は見こ上欣たいも百吉の十、勿前行にるば 。陀人こ出の人喜る、、姓野豫七塩論記者よ能奇 月本和まわきん仏わらな山を上上如今栄に定歳津保の傳りわ端 迄上尚り忽れの茲でれ頂奉人、何夜助至でのの存書に又ざを 、ちら称に上、に仕わ●遂なわなら、時後さ付見口る拝 凡須き上には名て人こ籠供、にるがるれ塩でにれにえ碑をし 半谷其よの項十の供にのす地助縁に 、豫のる本居れゐよ憾る 年にのり熊に度乞養形事る天があて上定草か上たばるりと事 ば 於 ^奇 御 野 ま さ う し ば に ^事 神 乞 り 一 人 で 庵 ら 人 ^で 、か定と山ふし遍のあを 籠あ前之する本 かけ端十参とづあ りる ^感 念 り め く れ 奉 り め ^な の に か の 前 っ 立 千 居 ^ろ 後 わ•次 っのらっ半任、回にたち津のう で 庵 ^応 を と て る ば にによる。 にという。 にはいう。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはいる。 にはい。 に 徳べらのる日 。田の郡間 あ項津人あ た沢す上て怠給南 本りく請とわ・鏑川後のか なひに るにに塩る は回 本上人わこの の須ヶ谷であ が出と云う肌 とて、生如ま を容れて、 とて、生如ま が見の母の命 がよるである。 にとり、こ 此御し籠向 凡と もの 次失塩事て時此 。居い そな こ処十 お 津 す 徳 代 の る野のに念此せた でれたる本に筆 参所籠をのらる の処に、、の処に、、の処に、なる。ここよ て あ 摂詣わ・居授人れ巖 に 於事上随者 位 初 今 けに人從の 津の熊のけ後たの 。上 住人野間らに るす旱し倦 最 か 吉*達往にれ出栄に高さ事夜すり谷り 後即 上る魃た怠 で 世なに栄る `に高は政 はち のの還もた家助 °しわ•五 町 庵 き 助 如 ま さ 野 じ 六 籠徳霊弟だ 紀そ l) と居本祈子本 田口属幾御て毎・のをまがくこし山め年 藩の 喜にす多十本日六炭ーつ家にとかに吉十 候 三 の上りな勇 平膾るの念因此軒盤宇たに懇にヽ上野ー、炙故奇ととのののこの母請ぶつり山月 の + 跡人てる尼 "。わ•塩 驗 事 の 思七 次、に端わ・称巖広山しでのすしたその頃 召 歳 `津あを事 を即し頭さあら、 回しつ所れ山徳 の中 ` 明のり ` にの 父に徳現ちたにのるへ栄向奉け て 冬 よ奥本 治庵し之を のわ・本じ南。齋平を、助をるなこりで如感行て無徳水地見之雀なにれこ順修 須か りで上 以住事わ。調 ケら 人 前わ・徳推査

上第唯者

記於津

わ● `本定す

- 13 -

き激者ゐ阿本をを、に躍しあどの次行三

谷 翌

十今住に 数 己し庵 の点にた 他残な事 を 徳存くに な 上て後 つ 人いに てれ , る。 藩ゐた 主る の で 造 此 営の茲 に須に かヶ寛 **、** 谷 政 るわ・十 庵今二 居有年 わ●田申 今郡 八 西宮月 方原か 寺村ら とに翌 な属酉 りす年 る 現 月 在徳頃 こ本ま 、上で に人 徳 前 凡 本にそ 上庵一 人住ヶ 遺の年 物地余 がわ・庵

十六 其 本し の 修行 地 わ• 大 畧 左 の 如 < で あ る

1 摂 右 ^投 わ・津 三ヶ年

前に須ヶ谷庵住よ IJ 後 1= 須 ヶ 谷 に 皈 る 迄 の 間

2 摂 寛政 《十三年十月より、勝尾山上 三年 凡 そ Ξ ケ

年

間

京 都 本山 如 意 堂 ニヶ月

3

今 遺 ケ尚 詳 憾 月後 と間に 寛 B、庵住してごと越前敦賀妙:『政十六年九日 撃いす、越 に事る庵前 遑 わ[•] [°] が未又 な調徳て妙 査であ 別華 月より十一月ま 業 · 谷 に を る っ 状 を修してた於て上 其 和 の讃 居 人四 他に 6 他一七日・二七日には、近江国丸を ヵ れ 十 る九 0 ロ・二七日内に近江国丸茅野に。此の点につ 此の の折 点 に に 、 つ即 外に い ち て 文 の於 別て わ・化 行も わ●庵 筆 年 、住 随の者 所事未月 でがだよ 行記 未り わさ調八 れれ査 月 てで十 て 居ゐあ五

第 五 應 頂

枚

い

をれそ修伝を 奉 ら の 行 へ 奉 の 津 じ わ•石 し ら 誦 二 三 て光上てれす十島 庵仁にゐるる三郡山 賽番豊 に天端た 0 迎皇坐 即者の川 へが襌然ちの札村 奉皇修る神今所所 り子のに亀にで在 に人天四 つ 平年き御頂 し を Ξ 三ぬ詠山 人て見 相開た神月名歌菩 成の護頃刹 と云うがおもくこれがある。 にと佛云 道 ځ を ぞ 何月此 なにの此も ۔ ع 御 わ・ = 修 の罪 る 人此人寺に本 行 仰 にののわれ尊 せ お両上昔法十 さ あ は上人義の一 IJ れ す人此仲勝面 や不の • 尾 、圖山善寺手 量此に算 天 両 世 上 5 のをう拝 + ^柘ふうた だり、四 はりこそ 畏 れ 奥 結 兄 む 祭 の 事を 多しと、 き四僧そ西 聞 た十の安国る余開け三 所 し 一、る 余 開 け 三 一 所 年 基 れ 十 子わ `間と Ξ

っるる日

てが事迄

を八

四

。の後の即手り給 り免しか麓の上行得今勝三開ち觀なわ ヶ祖今音 漸や佛とるののしと内籠上本刻 。応像た号一居 人尊まて願寺 林 わ m らち ケれ妙 をい彌 こ年 °ちと る觀皇た勒 の間 、のはあ都のす法籠其僅に所 、るの松る然 居の承献 佛林一上修後三じ在 匠庵庵人行此十た時け 西をが御せの日る日給 田明あ修 ら寺間に向う 行れ山別依のた 立 治 つ 一度のたの た如。縁 たの家 り国 作初 旧一に てよ開 年こ 故 蹟 遇 籠 り成 に 徳にの で二居皇興皇 基 本 庵 あ階し を目子 < 一上 ここと る 堂 。と て妙と即 の ع 現申ち で 徳名尊とす靈 像 庵 わ• あ 本づ像名僧木 を住徳 る。 上く を乘 安第本 を 置五上 人る彫る白得 し代人 が所刻佛檀て て徳山 此がし上の る譽居 のあ奉に木本 る本の 往りっ命の尊 、たじハ佛 。俊 処 頂 小がで 山淨 て尺を に土之 石公あ `ば刻

佛上又全なて即た人はおに山四徳川許る此前宗が千かし く至ちる参じわ、の歳本一を 上修念の方年る仝 人行佛下丈久、年応しとまね坊時人院て徳尾 こせ修にのし松十頂故しさてヶでが安改本寺年法の像をと処 く林一山にてず生島あ此置称寺境も然御を奉のに 山れの門室此庵月か にる淨をで山を廿ら上く `と云 、に新五正人人い拝う即頂ともす隅しがとし至をを 庵. 事域設 ととけそとし日覺枝々かみ所ち山同のるにた往伝 の、くは院を集に奉に上に一でわれる昔え即 す るこ ま修じの住ましり至人登人あ ` め之東 り繕め權吉 よの りて しっ須っのる即庵 れり方 が 時 谷 の ^で 京 こ 称 ° ~ ` 毎を そ 頂 き 益 `住わ•上何庵 月女 上山勝 れ を 十人 人へ尾し吉御人と居行 ょ 下 施 に登 寺ば村出にな を 者 IJ し、供らのらので向く窃伝 1= 大 制 日 養れ総く吉遊い足にに ょ を ح え した代吉田ば そ 「痛脱よ と乞 Ξ 奉のと田家しこを つ りでし家よ給れ感出ば 年 ع な子の てあてにりうわ・じ で享 申 も僧 る上留お」住て 享 和 和 人 錫 迎 と 吉 傍 河 元 み達 其 Ξ だの の一御のへ先にの内年 た の 一 御 の へ 先 に の 内 年 。住 山 迎 う の づ お 石 の 十 り住 年 堂にす此庵随へちた十わ上国一 は じ め念しによ月 のと喜に をた休り廿 め 松なしま上 してみ人家乞るん摂五 て 場を坊 m 上年ゑの族い念で津日 関 とゆー 東 っ久た意の申佛居に上 ۲ 処いたしるをもすのら趣人 ^ 下 °行れき御 をう上くに洩の 別 ` 荒依れ二こ者た 年 向 造の りは心れり承・れに時応四 す `り三をてに頂十 、置 果

`七大 方 山紀 庵 和 れ り奇え住佐た し山関 た庵係 い 事住よ لح · とーり 思ニ ` 思 わ わ年関 れ るそ ょ の IJ 故他環 に各ら 上地れ 人にて 庵 巡 文 住 錫 化 o - +ゆニー か年年 りを 最 除 関 ŧ き東 長 再 き五 下 わ・六向 年の この時 の日迄

五 あが上こ応口・凡迄 り 上 人 の 頂 わ**・**そ 人の応山 其の木頂で大 の庵像山あ体八此 他居を庵る 本に刻住とののに 明詣しに云応間庵 でたつつ頂 和 いて 尚 が そ事て差に州 のあの間 上 人 念 · 蹟 が 0 の 佛 又 わ^{・な} 修 上 別 行 لح の州項 随 う高 1= 縁 し崎 記 むする。 し ろ藩 たる 姿の を劔又 伏 道 此 し師の 又 拝 範 庵 此 みの中 ഗ て寺に 応 祫 西 頂 劔五田 Ш 道郎立 庵 の左慶 居 の衛が **0** 極門百 時 意の ケ で を 日 あ 子 悟 つ 籠 た白の 井 上 ŧ 亨

六 徳 上 阪 方 化

旦徳化上る る 遍を又の田徳 よえに飯本益人時 を 乞 時 至国上せ留に越誓ひに な須 上 人 ら 錫 わ・え 約 し 使 りヶ人 し谷 しに を の て ヶ其た所嘉寛て 以 を山大 ع 平政皈余 て 以頂阪 で定次十宅 人 香 てに、 方 め自年しに あ 木 面 る 己八た許 を 化 の 徳の月の 上 さ 中益 志 の わ•面 本所再をぬ 人 上有度結面の に 徳 感 人 な 嘉 縁 語 許 本摂為 激 る平 ع を 10 上津 即 し 奉 ち住次しひ 人灘 る。 。 朝 とり 此吉に に呉 夕 十田 のの巡仝 陰 処北錫年許寛 念 の 膳 に赤 ` 秋さ 政 を を 九 授 田 留塚七のれ 錫山日末て年 か可 げ 四四 と間に り道 て て名の上十 月遂 た居 づ別人念 る子 別 人 く行がのに 結が 行 に る あ仝授 縁 熊 遥 供 り人與 Þ 余 松 を野 養 山次方を 須 動参 毎にでにう ケ 機詣 二、三留 一度錫 谷 との 南 1= Ļ 途 紀 五字仝し更詣 州 日の人たにり 其 ഗ 草方る日て方 子 集庵にを課上 を嘉か を赴最念人謠 ഗ 平ら 老作か初佛に 挥 次 紀 りれと六対 至 し をてたす万面 孝 有

須われの 谷 のの らに間 住 せ 紀 平ら 州 れ 藩 が た前 家に る藩 も侯 留 太 錫 直 享 せら 和候 元 ょ れ 年 IJ た。 十 皈 月 錫 廿 の Ξ 希 日 望 あ ひ そ IJ か に 再 須 Ξ ケ の 谷 催 を 促 脱な け IJ 出 し でを て 以 て 摄 一

て 仐 道徳年 _ ば 人月 て即二 ち十 時 勝五 尾日次 # を に応 登 頂 行 ш ш 雲 幐 法 尾 す 然 寺 上 ょ 人人 IJ の训 俗を化 遺と 跡し て、 に 益 詣 世 で正 b 松覺 れ 林 院 る 庵權 「、に僧 留都 前 錫使 後 多しに 立 年 毎ち 月来 及 十た だ 五 。日 IJ

Ξ

四 本な他 上どに 光渴年 明仰十 頕 < し ഗ 小 橋 尾 利 兵 衛 方 1= 巡 錫 ` 同 所 奈 良 屋 佐 兵 衛 . 黒 江 屖

六 五 又 善 之 野 石 善 **きも** すに **.** の る於 大が ら住旧 て 和 吉記別 行 に 麻 こよって、 大阪方でん砌、仝方正。 奥 野 近 江 の方如面 竹 等 き を わ•中 島 其 参詣 ົ ດ 心 他 とする の മ 途 車 次 が 年 関 於 の西 け 者 今の 伝 尚化に 残 益 八 記 存の さ し熾 ħ 方 な 面 7 りしこ ゐ 及 る び 丸

七 てに 徳 本 本 るけ其 上上相等 るの人人察の越 幾関ののす記前人の文 つ東道遺る事大明随 か下俗物に及原 の向化を余び妙 著直益保り残華 名前わずあ存谷 なま関 るで西 出われ 来 あ ij 事 髪 のもて いく 長わずう。 わ髪 しの其 くまの わ・、 行 `の中 行行の 者者閑 伝でを 中あ利 巻っ用 をたし 参の て 照でな せあ さ らるれ れ゜ た 、尚と ば此見 くのる わ化べ し盆 くので 出間あ

徳

し Ŋ

居

る、と

の

百

数

+

あ

IJ

て、

上 人 土 化

年省話人 とに郷 し よ土 て、 っに て於もけ る 察 せ化 らるる 益 畧 の を 大 事な す であ事 事に る わ する。 が 百 其 数 中十 紀年 藩後 々の 候 今 ^ 日 の尚 御各 授 所 戒の の故 事老 わの 別碑 項に に残 記る

西 文し 紀 ち恩親日州五く片の 月 總 <u>=</u> + 本 山 日 よ其 りの 於 ら 七余 7 別 В 間 時 佛和記 執歌 行 山 の市 際 紀 わ・之 Ш 群の 衆 西 二梶 万 取 人 $\overline{}$ に 今 あ野 ま崎 り村 遠の

く総

淨

り土

匹 持

玉 寺

寺

ょ

参 宗

Ξ 歌徳の淨又詣 し々くニ て、院 派 母百 の 中親艘をに せら り下 · 寺 で 聞 れたと云うことであ であるが!き及び! が、ここでお十念授サいたる処によれば、郷ったと云う事である。 つ た。 郷 戒 の 日 時 高 小 群 松 衆 原 の (湯 爲 に Ш 上 村 人 $\overline{}$ 寺 九 院品 の ‡ 屋 わ• 根

四 ず山本上土筆の山化之々本あ城上に宗者船派九をの上 る下人立智が にの 其 及 郷 のび土 に授 徳 風其於戒 け — 飯 世依化 を篤益 風信は 靡の し人其 たがの 多 足 **〈** 跡 み な が ならずにる わ・如 遺剃く 徳髪に がし日 遷て高 化僧郡 の籍ー 後に円 に入・ 及つ有 んた田 で人郡 香 も つ四海 て 草 ゐ五郡 る人 な和

第 五 章 往の時尼わ•右いの或村の来人後す又銘のにこ本女此 ☆が比のてあ候庵御成もに人わ•々女て り上と 紀 寺に志千井跋のるも室命佛十不も嫁徼の元心人申 のな賀津浦文事かあに日の人仕あ入傚身のものす る村川のわれにれ被に心並合りりよわ・性疎念女本。 南上は文りてど民、がのせ、」し、気々健性徳 代藩 庵上 住 文 り て ど居 がのせ し し 気 候 々 佛 性 徳 金 ع あ十 の記住人千政と のも候行け器 て 御 12 御年の量な持望 し六な と堂原九思事 < 尊大上 授 わ**・・** 、七 ちより 入の記に氏年ふなそ方十みにり む りな き信 戒 戌 也 て苦 人 りれの八に IJ 事住善 わ歳 労 と苦労す ら僧 0 は弟歳 て しし尼 いて とに がに さ 貧乏なる 又難子に 人す 月 家たた書 ょ を 7 身 も わ**•**な て 或 儀 もる ع とてー 人と 我 心 さ 筆所か記記 はのな剃心ほ ŧ 知に小 てそ しりぬ んひともあ ع IJ 髪 さ 念 事 を あ 念 ら徹児の L s. bj 家にゆ 羡 れ す あ、善向がるま尼にる 思れさ IJ 見 佛ず しの ずその道を心掛け、れば色道を心掛る者 し ے ٹ れ れわて 門時 て時 てき すと念程何 又ばれる に 処 ょ くも 褝 事 又 な佛のれ る る を あ < 入 冊 IJ りり、 尼 中天が る 替は り門 りも年念 女 の あ にて、 芝 保 IJ 憂 念 昼并の佛浦 そ に性 道 ų, 村五此の徳 ŧ 其 い佛徳入な 夜へ間門 とず怠に 内 年 跋 善 本 一辛怠本りれ皆 H 能 誠子いら上終ど にも な念 上 章誕文尼 過 り心 高 き に 者 出勤ず人にも の生何の人 く佛な掛 去 所 不埒 沢 有 貧 こ詠 家め被のわ・` て申くけ比 印院人 ょ ^ Ш 難 を ゆな あ建のと す 申 御 其 IJ する 勤す修深 歌 あ き を諺 れ見候弟文道の る 立書 きて Ŋ 女 以な記註 ば るむ子政に因 人よ ŧ 村 ŧ 性 よ前るしの 九か 0 本九少縁 あ て + は の な いと手拔+ 世岸年し IJ のをた寫 族 に IJ な じ ij も本 ŧ め富 珍 4 記知 天身上様戌 IJ ゖー と二心 事 ら にのに のの の家 し れ頃四 L 三月掛此程う二けの仕 生 上 若ず に き ع ざ き で跋 する ^ どわ•歳四 か 推れ あ 文 仕嫁 女もあの郎 之 茶 둜 つ女御十な存?合 る ど し 性 多 で 者 ŧ う るつ す の ま 中 ŧ す 人五 分 < を IJ せて ع 出 也念 道らの 財 此此 日 ح よ 樂 あ花 佛 女 をぬ尼久元只申くにりと 世の佛わ•な の其の寫

紀 第 +の 藩 主 治 宝 候 わ・ 第 八 代 藩 主 重 倫 候 の 第 二 子 明 和 八 年 六 月 + 八 日 1= 生 れ 寛

思事に志祖未す

、暮

村人當善本

上徳に徳

四

動 も 候 事 大 以 侯 年 つ言薨順 でん るぜ ま あだ る ഗ で政隠歳 務 居に を し志 觀た に T た。 。 が就 位 挂 様 宝 ع 藩文 候 称 治 政 わかる た 後年 見六 陪臣 し月 し て六 の 藩 В 地 主 そ五 位 10 の + に して し 永 歳 位 從其年以 一位十て 從二 位 に一月職 傑林七 りに日地 しの `位 わりぼハ を ý + +

す優結で候意 を る意 置 の がか で今文れ あ 日化た るかの藩 ら昂侯 見揚 で てに 紀存紀 州し藩 文たの 化事斈 のが問 大 半即文 もち 物 紀の 此州興 の文隆 治化わ 宝を 候生時 のみ代 時出の 代す影 に事響 はをも ぐ得受 くるけ

徳せ浮たのせさ此薨れ事邸ず隣大其を治まのた治格官歳代政 本 ら び も わ•ら れ の 去 て わ•の ` 邸 根 資 一 宝 れ 原 事 宝 の 位 を 藩 、れた大し致家婦遂松に性層候 。殿て職臣女に平て豪輝わ花力あはだ納て齊 てれで此た ずあのとこ様ゐし等共一某も勇しかををる頗 、にが夕邸切ないく開ながるたに去に月 剃あ無自にるり物心きし、文の進すゆニ 云のがる がう大隠が剃あ無 、髪ら礼ら、がしと根果た治化 がし獄俗つ事殿居 たの傳よで様の藩隠ざの銃高如もなのをの宝に くあの後侯居る振を楼 さ責はひっ心に當 てりありり即暴與いだ 、時 を徳ヾたの りて毎座発 惱太家太 7 伝受本い っ方 つけ上て治みく臣眞無し之夕にど てで を婦御 人ゐ宝を 己藩 と礼に 狂 あ あがる候済の民号討せ射女^手に 吉 力 つ る衣のが度粗共せでよ殺共打 近 あ 田 た に る所ので徳す暴にらわ• `す此 < る を袖は本べの大れす御る処な 愛 結 時 留 さ 上く犠殿たま府に に 憎 果 偶 錫 る さ内至涼 常と々 人 牲 様 동동 年 ららかに徳とと此れでるを なな徳 に 本な称重ぬ発 っ本 う 候思登上っし倫事砲如れ て上 及 人 発にわ城人てて候故わ・何 て 怒 ゐ 人 W 心 るが わ• ` きに だ 心のれしが御 て出手そ文遂つ御我 頭 世 頃 てか重授現討の政にい連 邸 に治に 12 江発宝出 後せ倫戒しに粗十幕禁枝を 寛 極る候すたし暴二府令の俯 す候た 政 戸 もるのたを年よで藩瞰加れの事 +勿よだる畏六りあ侯戯 ☆ば父わ● うと人怖月国 りで笑っ待君 年 浮御論 々し二籠 あす 邸臣で徳 即 上討戒沙當のた日隠又りる ち あ本 1. を汰時怨の壽居人たを在妃る 太 で八を命と快 • 重 眞 うせー靈 IJ けら般にあ十命をいし 処 靈 妾倫の 候 Ι. 、と古を候行 共られに惱る四ぜ亡 か 。でらう隣せ b 見がれた噂ま 、もの跡

で庵て後右たっ須性之亡翌る再 ヶ粗を < 上な十よの 谷 暴 をな人ら月し使 出りのれ頃仰者 見. てし庵た ゅ 勝 も室 の る 尾 に で 、れ太 四十三 · -寺 孝 充 凡た 上 そ 此に心 7 の b 時 赴 至 ഗ 歳 存 母 君 いっれ に 年 して の て 徳 た て 追 時 本 ゐ 深 の 使 ゐ る。 本上人が須いる。お殿! で 須 で、上人 一人わ己む 菩 提 あ ヶ さ 、ケ谷の庵、 お殿様の御声がい、茲に庵住してタ 谷に庵 徳本 Ŀ 住 人 せ が 紀庵声 られた。 皈 IJ 年 藩 て 懇 玉 八 Þ にり徳 月頃 内 侯 殿 紛で本に そ を ع れ飯上念 そっ づ の っ て錫人佛 際 な b が脱し わ●勤 < に の 出た享行 ij太 IJ すも和を 賜眞 郡に を るの元勵 っ 候 須も 持 へ年まてわ。 旨 つ 十れ須母谷に 1= 心 月 に 二 た 至 ヶ君に任 っ書に 谷清飯せ たき染十太に心錫て ののま五眞移院 L わ・こな日公し殿 てめ `しか此わ•`が

五 念 を を化文の文た づ っべ徳で西 月 け ニたき本人 十のよ上寺 奉 つ 七 でし人 たと云 日 仰 五 先此出十 づ処さ五 **~う。** 畑にれ歳 御庵たの 殿住の時 でに、、、 に し て、 た 懇 紀 太そ請藩 眞のも々 うだ主 公 にちし治 御登難宝 授城く候 戒ししよ てて を IJ な授全再 し戒年度 あ五使 枚る月者 起可飯が き 国 使 請 よしわ 文 を した さ 講仰処れ 説出 て しさ和 れ佐領 又た山内 +のにに

六、 位本あ日に 召紀 和 伸 月 二 で 藩 佐 が 二 +々山あ 九 のり 日 庵 山にの六藩 主 跡月 治 は、晦 宝 日 公 た御 の 御 召 し暇 か 賜 によっ に IJ 知り て、 て 登 が 和 た 佐 城 い。山 の 庵 御 室 座 に മ 皈 間 錫 1= し於 た。 て 十 後 念 度を 々 授 登け 城 奉 のり 事

志川ヶー徳が翌次 あ行西様上っに全七全建盆化時書も ら院方の人た念年度年てあ九かがのわを寺御が。佛五さ五賜る年ら、と 建 日 るし郡和藩 が め 矢 歌 主 ら田 れ村市対 た千寺 L 本 津町て こ川の御 の村無授 道 事尊量戒 わ・光光 申 の別寺寺 L 項・・上に全日げ の 記内高た 事 す原郡 か 村 志 が ら 之萩賀機 等原村縁 む わ•の 久 る 藩上志侯人の 処 で 一堂 誕 ŧ 位が生徳 あ サ 造院本 営 · 上 のせ有人 ら田遷 やれ郡化 さ 宮の 又原後 い小村に 御石須

七

九 関 東 下 関向

Ŀ 人 の 東 下 向 わ・ 前 後 回 で あ IJ 後 に わ 遂 に 行 院 に 示 寂 を 見 た 次 第 之 関

Ξ き文覺に気め之づ徳る又で江徳い又東 のに徳ね本のわめ戸本て後下 物そ本が上で信る着上のの向 凄の上あ人あ州が府人次下と か取人り関 つ のの第向云 . っ締の て飛 第 二 東 の関の後 之 上化 騨 下 ち東 H に 向 再 口 益 日下 を わ・ • テ を ー の 、 応 如 対にび加 目 光向 して つ皈 賀 の 山の b い津 折に 方 す 物の何 第 われていた。 70 語おに 面 品をにもった。 わ、時の社寺奉行松平右京亮事なき下向であったのである。 上 一化盆 云 寺 • われ う ع **+** とべ の爲各地を巡錫 諸 伝通: 所 享化 和 あ 住で 年上人五十七 で り し 衆 のあ 院 益三の年 寺る 並びに、徳本・守奉行松平右京 並 る事の 院か 故で間にあに 後十 **t t** 数一 出知 つ異 し、文政 年 月 来れ 歳の 左た常 に上 しな 左に其の答書きのたと想像される東京の信仰が、旋風 し 人 たい Ė て 年 こと 人 で、又十 から、 元 と思 自 年六十 でふ 身 - 摄 六 から あが 芝 の津歳 る の事風 _ 増 勝の か今 F 後 での 亩 上 に尾時 歳 如 に伊寺の < 書寺 を以く 豆に事 を役 茲此 し 引て湧 _ . 皈で て 모 員 にの 用徳起出 遷和錫あ は用 等

四

す

る

た

事

分

全

文

を

<

し本し

事人爲

て上たて

人る居応

のがるお

しえ

た

化模し

て蔵る

て

`のわ•

れ武ゐ其

さ

ゐ

IJ

只 語

下に

向 從

に

つ

う

御化 尋元 ね年 IJ 年 三月 御 山書同八 所 日 之 `` 傳 松 通平 院 右 役京 僧 亮 よ殿 IJ ょ 差り 出油 候 呼 書 出 面 に 寫 つ 左 き、 の 役 通 IJ 僧 鸑 常 罷 出 候 処 徳 本 儀 1= つ

趣去 相 る 隣七右を月弟當糺正 歳徳以初子山委月 のに本て旬に内細廿口あ子 子罷儀鸞京御鸞に八 供成幼洲地座洲可日上 寮出候同申當 立処庵上 に 下 仕 旨 所 徳 年 本 御 仕 仕 同来儀 達 月日 候 し 本 二光紀に十山州つ 儀 五に日き に 付 日拝高 爲 當参郡寮 山 志主 御 に並賀鸞 届 下に谷常 着宗久《 F 仕 法 志 洲 候 相村の番出に 候 相 村 鸞 仕 生 相 右 洲度に尋 徳 儀志而ね 太 先 願 `候 儀 年 罷 同 処 幼 徳 在 郡 年 本候宝左 ょ にに村之 IJ 随つ往通 念 き生に 身 佛 寺 御 仕 罷去住座行 在亥持候 什 候十大 候 縁 二 円

急候名

に父三

て者之

死三烝

去太と

仕 夫 申

見し後

父代助

母々と

に右申

相久し

尋 志 候

申の宝

し農暦

候 家 八

者に年

`御寅

誰 座 年

人候出

て然仕

如処當

此四年

急歳子

死の年

候 節 四

`+

事

もる

。 生

に

ね村

重

候と

を申

病

を

東 り 候 候 掛 の 昼 御 礼 上 怠 諸 殊 昼 而 坐 節 生 候 越 常 座 候 其 成 つ 有 山摂処事候節夜座拝にを人に夜心而も寺処七にし而後所き之 、。よ不候の相防の獨不儘常同淨、日念な者九に、 意勝賀凡而り臥。数立ぐ供住臥に立郡土母程佛が家歳生幼と 堂尾村そ翌裸候三日、心用之裸念行大宗許宛相ら業のじ年申 こ山山三年祇而十別廣組仕儀身佛。滝鎭容引唱相隙時・のし て々上年七の罷四三懺に候にの修二川西化籠へ睡も出如身候 念上に寛月上在歳千悔御を御上行高村派候り、候無家何中に 佛に庵政迄袈候の札之座愼座に難入月住に別月計御剃なに付 、文候み候麻仕点照持付時々に座髪る何 `室 十 念 裟 ° 冬 。、。七依冊寺大 念農 て候仕事と母 行而御二佛着同同所を 仕念建年修用国郡入相夜又得条而加に円父佛業 `に度になの 罷佛被申行仕海萩五と八は者の、仁引弟者仕の未付段相く答 在修成年仕候士原千な時依除袈翌候籠子九候隙明、相成、に候行候八候。郡村・へよ食髪裟年もりに年。有よ十願可身も処仕。月。三塩に七夫りにもば同細、相以天之り八候哉の老 、此十津小千よ草つ不か郡御三成前明候礼歳処と難少 長事庵紀の七の庵・り庵き仕り千候十、に四節拝の 長事権紀のこの権・り権さ任り十候十二に四即拝の一後頼不髪去室州後歳山相一権前世、着津。日出死年者念時父世き定に亥に様摂之に舗万にの務其用川然の家亡辰。佛よ母を事の 而年而よ洲冬小里程罷谷の儘仕村る間剃仕二同仕り許恐を世 者迄翌り茨同庵、宛皈川多に、の処一髪候十郡候夜容候存異三酉皈住郡舗念仕候にをて一山往日仕)七大、分不。じ 形年年国吉有里佛候。下厭念日辺片に因因歳滝尤大仕心唯人 に、十候の田、修。而りい佛之に寺蕎で同の川昼方に切今に御同月様上郡念業右者、、修食、に麦名年時村はは付而に而座年ま御に須佛仕庵念暑且行事ニ罷へは日本田はは 候九で内`谷礼候に佛寒者化者畳朮合本月亦土畑横引候も難 故月念沙庵村拝事住礼と飲候蚕敷屋宛と中々宗にに仕而相頼 よ佛汰室の修三居拝も食。豆程而食申、出月出寝居常果命 京り修に相山行年候若水・衣・の者にし同家照、た候々申の 獅十行付舗の仕の事修垢暖食豆小量仕候国剃寺農事処念候よ 子一仕、理半候内、錬離衣を之庵事、。日髪と業は 谷月候同念腹事、凡行仕・省粉舖も食右高仕申仕無段相 法迄。月佛巖二縄そ仕、睡き一理御時寺郡度候な。々唱後聞 然、夫皈修石年床七候其眠候合候座のに宝段にが之成申世け 院京れ国行に、腰年。儘・者宛而候外罷村相、ら唯長候如候 、、、。不候往願罷も只仕。何に に都よ仕仕差此掛に右石懈

掛而 子錫除 仕 髪 月候仕 三 段 寮 衣 主の 鸞 上 洲に 相袈 答裟 用 間仕 此 候 段 御 而 尋 去 1= 十二月 付 委 四 日 上

出 立 下

傳

通

院

役

向

仕

則

山

に

入

日

五

御山專衣食座而髪の拙 候者自改僧 を 文座林心 . 當 念架修 化候計 由方 裟行猶末に心前 勤着に又世難 此に 用者五之仕の之 外住度 年に居者什不穀爲 候 셌 仕に候仕をめ故御行 則 月心候御)。 候調に長尋の 不 髪 得 処 座 候 御 右初者覺の座 候 者 末 。同の種と儘 無 様程々相 罷 之 扨 在此の 法又の裸煩愼 座 候者世心形數 段 尤 宗間得に御且 初 ŧ 袈座 者 右祖にに の 依丹交而 裟 候 美 程 御 今者 御光わ信斗故食 被奉 施着、を用唯用 髪 行 除 師候 に所 髪 上 の而愼仕修候 罷 御 仕 候 者 候 行 得 在 枚 念 候 汰 睡儀の者 起佛眠者便睡請修・魚宜眠 五 儀に (宜眠尤爲懈 修 穀 文 行 懈 を に不怠唯め怠 粁 山 依仕を今にを 、心虚は五催 林書 候 儀 の通 りう穀 し信 而候 小 念故煩す を 1= 施 庵 敷 き 断 修 に 东 も居行 人儀 多 相 獨 家 をの申之 < 住候 を省の候障 仕 哥 以儀離き 上 。に候 、に木御 上にれ

元

通 院 山 内

洲 同 庵 徳 本 花

押

通文 IJ 化 増 元 年 上 四寺 月 御 役 松 平 者

· 右 中

京

亮

殿

ょ

IJ

先

達

而

御

達

L

の

通

IJ

徳

本

呼

出

篤

ح

相

糺

祐

海

持

参

書

付

在

之

六

四異

月候

無

候

段

申

法 舉 仕 徳 子に動候本 自 処 儀 前 筋行別來 に策紙 修 勵之行 而之通之 者 爲 始 IJ に申末 御苦出異 座修候形 忽 此 行 道 付 什 涂 候の當 儀 行 者 状 にと 其は相 人異糺 意候申 樂得上 に共候 仕 様 候上被 事 根 仰 勿 別 渡 論 途 候 之の 儀 行 依 に状而 御に當 座而 候 獨 委 間処 細 己 承 宗限糺

上 ÷

増

役 者

F

七

に様だ各申京 や之何方之亮 と修とえ間殿 相行や自 聞のら分暫り え趣志供御昨 よ控日 り候御 IJ 篤 様 呼 لح と被出 申に 御無付 り様談程祐 候に申評海 候 席 罷 候 様に越 御於候 奉て処 行 被留役 申役人 候皇山 野岡 及鉄富 対三太 談郎追 候面っ 此会付 間被け 差 申 留 出し役 さ聞衆 れ候 候 者 直 Þ 御徳に 答本御

候者つ ح 、か 被宗 申法 候に不 異致 筈 存 に は 無 之 候 哉 通 途 **ഗ** 人 の 修 行 لح は 大 S 12 違 候

本委も呼之此ならに右は七僧林何祐而一書儀談松 日 奥 1= 。無之の致法相之 承き行 節候得勵 昼筋ばみ `候 水、徳爲 垢毎本め 離年儀に 仕 十 者 لح 日一自苦 々月行修 相 三別而忽 候 千行己行 礼い爲仕 宛たに候 相し策儀 勤候勵者 。致 不 申 候其候苦 節儀候 山前に仕 林加御他 市行座の 中百候辺 0 住 日 1= · 尤 居 の本通而 違行途者 ひ十の山

細可出候異れた不候有日ににも海如体いに可平 。体者く異は之・而住異云何右ま付被右 是知之味通の不御新ヾ候後も居り 迄 致 候 も 途 文 苦 書 法 此 得 行 宗 致 候 之し間可に字申取之間共百旨候筋 致事御儀可事御 面丈御儀異拔も被に差所別儀而は に之祓に候可御成も出修行伝者無 候様被書 可 有成取通之書方し相能自 不聞成異之候 可途右付に 。被者様方於其仕候を 相候段体と と申而成惣修丈で 名儀で 而行之は 申 右の御異夜者 づ仁燃 之致申り け候候 前 通方聞不 て 御 一、申 者文奉當字行 修 宗 15 行旨其 徳 致に趣 人の所 本 と有に も義よ 儀 可理り、 申之との 前 致に 來 に申か 而屹 修 も儀り 迷は度 行 ع 惑 撰 異 無 മ 各置体 之 誰 致 始 方候と が候 二上 見 様 も儀治 同に定異根て御 宗者致体のも書 之無しに人直取 事之申付のち可 故候出流存に被 得候は寄相成 不者儀有に分候 `に 之 て 候 本 意當は候相様宗 に人無 、勤ひ法

件承有吟 方 而申被 済 ◦被 候 上 にに候 付 而 又書 々 改 認可 替 差 、出 役旨 僧に 廉 巌而 を引 以取 てり 差同 出五 候 月 [。]朔 書日 付 左右 の京 如 殿 しえ [°] 徳

拝 悪 糺 徳 懺行候本 悔仕処儀 仕 候 別 前 候儀紙來 儀に之修 通行 に 御而申の 座安答始 候心候末 は 勿矢右當 論張之人 淨宗趣え 土門に篤 宗祖候と 者師 得相 下之者糺 根教 `化 之を唯申 化守自上 益り行旨 、の御 を 本專策達 意修勵御 に念の座 仕 佛 爲 候 候をめ依 故正に 修寝而 元と食當 よ致を人 りし省呼 き寄 苦 修其 委 を助苦細 勤業修承 候礼・り

候 無 御 自 者 之座行不 異 候 之 仕 流 诵候 と尤 を得 申 も他共 す 古に 儀來勧併 よ誘し 1= ŧ りも其 無根仕の 之気ら人 候にず の へ随 気 者ひ勿根 論に 是右勸随 迄 様 化 ひ のに ケ 通修間意 行 敷 樂 修 仕儀に 行候候依 仕類も IJ も無 候 儀間之行 々獨策 不有処勵 之一之 候 候 巳 爲 此 限に 段而に計 方 新 修 IJ 丈 法 行 仕 えの仕り、 被 事候 に儀 聞もに <

を 以 て 申 上

上 役

上

八 つ 诵 あ二てる回當 り五趣 の 月 の時 記 下 徳 緑 向本わ 信 仰 本 ーっが、 て 書 が わ<mark>•</mark>嵐 は 、の じ 如 く _ め て 民 採 衆 の 録 したる処で、 間に宣伝されてゐた事が察せられる。 った。之は行 珍 重すべき資料たるを失 わ な LI 0 之

九

第

1=

至

て

更

に

物

凄

い

人

気

であ

者伝

の

記

事を

引

用

す

れ

ば

で

島けのりの里桑ん十十其に 招の名 給如 夥 九 く十待海 ょ ഗ し 日 IJ 念に上りき 京 駅 に ま て 乞応 大舟群師 じ方 で 大 多 衆 を ۲,۲ か井 守 < 御け給は *t*= 発. き川輿れ の ふ御 ع 漕 錫 上 ふ に 寸ば ぎ 供 世 一げて 々立 歩、その出も御の船で る ら 、は 12 出 JII 裸 進 供道 ど *t*= 日 越 でて十念うけしとぞ。 むことの人々 ŧ 体 す る を の が連に らり、 <u>ത</u> 経 な 者 ま L て ど も く砂 能殆もけ 辛 宮 ぅ はん道 りの 桑 あま ど俗 の上にひ ず 駅 名 行 の ょ 7 宮 ഗ た 己 惱 あの IJ 御 渡 磧 むみ ま 駅も輿 1= れ 事け 多 を に御 つ 出で、 り寄 を て迎舟 き 得 0 IJ して十念授 は へに ず池つ正に う 乘 Ĺ ۲ ع 覺 鯉 頃 せ が τ て ま 鮒ひ寺 は ち を 出い 或のと に IJ 御家駅 b は 來 師 け のに御じ る す の 輿 て輿め船 IJ 下 を にはの لح 뱝 送 向 蓮 上 IJ 箱 前 し を 台 つ が群後 て ま 根 衆に に IJ の ゐ 乘 ての立遠な ら 関 世 L ち 門 人 近 IJ 世 か 十々 ふの を b てん 承 ょ 世 念 雲 さ 寺 ع 授霞が々 七 てけ

+於にふ かに 化 ` め 第 別 項 其 1= 記 ŧ る 其 す。 例 泛し き事 で あっ た 事 ع 思 れ る の で あ る。 尚 徳 本 上 人 関

第 + 行 仙 洞 御 所 1= 対 する 本 御 授 戒

行 田 誡 上 誡 人 上 が 自 人 I ら 遺 著 す 所 弟 の غ 徳 称 し 上人傳 譁 んで、 わ・ 法然 當時 上人 我 国 勅 ഗ 修 佛 の 教 御 介 伝に に 倣 大 わ明 h 星 ح の す、 存 在 と 言 をう つ た てわ ゐ ħ る た 程 る の

授

戒

関 きに ま東時得で L 下わ●度 つ 向文の T くの天の化 皇 涂 十 を 次 う 行 中 で年け者庸 あ五 さ 伝を 月 + 給 12 行七ふ徳 L 者 日た本て 伝の旨上 は夕の人 き 石 時 慶暮記が上川 応の事京げー 年事が都 b 間 لح あ円れ院 に記る通たに 上 さ 쵺 伝 尚 梓れ之に記完 を於な全 て し たゐ拝てるに る承 が遺 先 L 先 故 存 帝即て 帝に ま並 ع ち て 申徳こに記居 上本と仙述り 上に ぐ 洞のた る 人辱御正る 五き所確 は 仁 十なのわ・上 七き女之人 孝 天歳を房 をの 皇 感達信行 に最じあ憑 お後奉ます記

者 を し て おま <

宮

ゎ

し

す

御

の

事

で

あ

る

し

三

お いて記 て五事東 月 先十抄に 七記お 帝 В 並 12 12 仙 勝 洞尾 御を 所出 <u>ത</u> て 女 房 其 達の 日 あの まタ た暮 得に 度 京 の都 式の を 円 う通 け寺 給に ひつ ぬか 世 序給 よふ L と頓

かのめてしまま十御な徳文此やて、右わの ばちお皈ただの念拝 じ本政の公此前に あ御行七事卿の略行 さ 妙 事 り室者年にの寺 づ さ ど しせ 令 甲関簾にか伝 もけ ま給へな 往 墳 関 生 申 聯 見 り問 さ 中 き ぬる せ 墓東ののし女 しは おに御地年て房 事 かせ ` 行達 の ど給はて下と はも ょ な ع も向書師者 ŧ ع ^ し る。 のせの伝 ら殿 多 て殊 き 天の 소 七下 < 様 事 保冠 ഗ 給 回の ま 御他中本な お う 五譽 忌 巻 じ さる りは扁 年 大 涙 たに佛 度 なに IJ う ŧ の L 額 なら IJ お 月正 とむ **(*** 御御まを き 故左は わげか次 齊 賜 し で 御 のし + ٦ せに しにの き ふ 法記まし は 因 の 行 侍 後 思 給 あ 事 縁 し 日 ごへひ者 り本行 す らざ 王 の ぬ 一 あ 〜 にこそ な ろ IJ し な いを 堂 院 をにには IJ りは 宮 品る りし 行 詣 ま 時 き中手て ち の事 者 だ移 を念 に で 内 を、 宮 伝 を 行 隙請取佛 さ 七 た 陣 る ゎ だ ま せ じ 行 りー 12 大 す て會 忌 て 給 か < 日 光 'n 五 下 V に 御 駒 日 修 ` ま 明 の て + て、 て の課御し ぐ لح 物 で忘 院 わ・八 لح う座給 追 語 ع なら 丁 う けに 今 1 ら あ 行 遠 れ 称 IJ つ咫 者 日 ま の さ し らる尺群の せの 御 奉 せ 1.1 ٦ 給御夕 で せ参像志 お 至 ろ 陽 しの前な 輔 は る佐傾墳はめ道に IJ 御 لح を き 墓 て俗 て 室 ま たに ぞ さに 幾 ぞ ま ょ つ IJ 苔 ろま ょ Ξ IJ で とむもざ皈かお لح

論 於 もある たる化 らが盆 ^も 々 大 と時わ つ 幕も て 府と のよ 、連り 枝上 人 即の ち遺 御徳 三と 卿そ のの 方 大 々 荒 の行 御の 飯 結 依 果 を 得 得 たた

るも人有に人 なのカよの く関なる関 東る事東 芝に影勿に 増 於 響 上けをでけ る に摂 お化 けのし う ^た 偶 偉 大ち 、の當さ 奥 の幕 云の 女 府 﨟 御 達連 ょ へ 枝 のの 十信 年 仰 授を 與か にち は得 じた まる る當 初 行の 者 機 伝 縁 にわ・ 左 の関 記東

Ξ ・ 請 く や な 厄 て 打 大 三 に ・ 同 で 時 徳 奉 か へ 僧 同 事 下 徳 事 奇 徳 る人う神、 化 喜 がに殿今斜 年 六 戸ひ 月 際営清 末 法の時 座女を し を房移 は て 設 達 じ 宗け來 め ま願 て を 御せは Ì +る < 念をは 山 給結な に ひ縁が 上 てしく 漸給こ IJ 둜 次への 、地 大 御 説かに僧 法 し 錫 正 あこを教 りと止撃 けてめ大 り礼て和 °歓 尚 人懇群に 人篤生謁 眞比をせ 佛類利ら にな益れ 見ししる え 給

きりな 任り月行田一体に中談 、く四伝亜家 て請 徳の て ぜ 川は お 將 b 最 < 軍 文御 化 念れ 樹 る。 連十 さ 民 枝一 せ部 の年 ら卿 方 十 々 月 にニ 兵 も十 。こ部) の御 御日 授 上 戒 人 申五 さ 十 れ七 た歳 後方 のの

四

、ち夫皈從其年あで本るくか正へが向本が蹟本 度ら仰てべの漸鳴人戒一餘へるあ上やてし歓文あ間上 にれが高し功くらご を位君文 。徳 起 し 御 う 儀 達 化 之 違け同・十等こ御覺の日な 給もこよ居 ぬ日ひ低れりも念例さ三姫一にれ三え御はら 課て きし救や佛にせ日君年つよ卿て唐幸ず もか寮、してらにの た六 し三穏給医れ叙こ十て神る五 な称崇こな垢かひ藥 らを敬ぞがのにて験日しな廿者橋橋 ざぞめ りら利な退も課 益ら出見六薨見日の相に る誓ざて なけまさ徳れぬたざ誓て給館版のれ りるでぬのて。りりひ大ひへ用他た 。け給相 꽢 なはか さりな れけかやばのばばり IJ くか七し IJ こっロが師其院 時期に対す り御漸に対す 。き処り日が師其院 尊のそ び御のしり御漸に枕慈元 あ館御かか障床御辺徳赤 へに床し、も払心に院 L. りの払よる速ひ地請の奏る殿 。ぼひり感かせのぜ君 清らのこ応にさごらへ 水せ日のも消せひれ大 、除給たた成御日殿 菊給に方 千 ひ は あせへるるの館神 師らしりやに御に田乘 。 う こ師をわめ 実請橋蓮 貞とを眞れ給仰に師母ぜ亜院 殊佛給ひも覺懇贈ら公の 院十更のへた広ゆに一る〜御 の六に如るる済と鉦品

四

六

てじ方 Þ 佛 ത 立外許 慶のへ 達ぜ 師 依 給 の_も う 肖大ご 作同に らじ せや各 て、う々 な御 常 り日 Þ 課 香 又を 花貞誓 を育せ 供 院ら 養 のれ し 御て 給 方 設 に法 IJ 。お御 き聽 て聞 はあ IJ 御 飯 田 依 安

あ本 上 人 と匠内御 繑 家に君請 、仰 其せのら ので飯れ 他 徳 Ш 像方 將 軍 家 御 捙 枝 方 ع _ ഗ 間 ഗ 事 に つ て は 行 者 伝 1= 左 ഗ 記 厚殿

事

くを

五

る

し結の色人文が徳 じ 縁 卿 也 北 化 陸 +るでとに化で山ーべさ橋御はき御 Ξ しれ前導じと巡年 師めぞ錫 け亜 秋 り相に奉 年中の 。の師 IJ 頕 其御を ろ叶 ょ の方請御念は IJ \Box じ兄佛 世 申弟の給 は今 戌のさの御は橋 の兵れ公勤 で民 刻部け達め を卿るな ` 閏 卿 過にはど怠八御 ごも 御 ら月不 日中せせ し 師 て を ご陰 給八に まろのは日 うま間ざに 退 て Ж せか IJ か せ給せ三け く師 らひ給百るれの れけひ坐御さ けれしの験せ飯 れば御百あ給 府 ڵۓ 志万るへ を も皈に遍べり ŧ を 床酬 た 法のひぞ 御せ 話の参修御臨 ちらし追終 は 71 日せ給 い 説数給ひに لح か を うけ لح き 尊 もなるてき 盡 ŧ, 経 る 給ずべ御父気上

院 示 御 わ・ む 10 左 る 記 爲 L にた < は が じ し ま之 て っわ・ ゐ た徳 る 事 本 で上 人 発が 起江 わ・戸 專化 ら盆 の 橋 煩 前に 亜 相堪 のえ 候か にね 出て

慕 処 に て 給 は 使 な 此 の 江 た 皈 小 は 請 へ永わど地草戸も心石ざ るまに庵ののを川る申一のを 流爲攝小かし 石め化石しと ににあ川と思皆まぐ飯益あ林行 さ川ため錫殊るにん藤なませの。示 てをべ行増ん藤なませの くゐば外行し造 難 つき 院 上な右 くなよを寺れ衛 らや盛者た立 も大ば門思せとに伝のの ع しん思なわ**・**を事 僧 ħ て 給申捨正今い入としり其 ふさ 世の両ふれ思けしの引別 ځ べせ道御三も給ひるか事止項 てき給場許年のひ をばを け とへのを よひ たる 1= い 老の しけ定懇間御る りめには使を中つ贏如 此 地 仰留ひ にしに あ に といもか臨 ら師師せ錫 しかー洩み ねはの b あ てで橋れ て 行れ b 化ぬ い前聞応 やよ ま IJ ほ我ま亜き接 മ 土こし七御相けも と所地れ 十名のん何 な不とに其歳残御道 لح 旨まと方俗な き住なよ り方でなにお 嚴のし < 命境参て丈はるはど疲 ら大よとべ ろれ も、涯 だにせ僧 り思き御き給 しおて正鸞ひか臨 う T よ州つは終 難は くし 今り大れとの如や し公基どて善何 ま 道せばに 智に再 申夫近識もび 俗ばし き ٦ さ ま くに し勝 追住東ゑせて召もて尾

七 人 にと もた との 末 名せ 号 給 - ひ 千 し 枚 ` を前 加亜 持相 しょ てり 献も ぜー ら足 れ先 たに 。 往 此生 のの 点事 にを つ豫 き知

てき至徳この域一故師者た徳 事り本と候よ橋に一伝の本 `し上な伯りの 、夕にで上 づ川館館号の己わ か萬にに千通れ自 ら徳仰も枚りなら 来寺せ師を記き臨 臨をての加さ後終 しも大違持れのの てな善 給て漸例し ふ御ににて る す 知 も使至お一るが識 あたらど橋 りまざろ前 。はるか亜 ある前せ相 るこに給の はの、ひ君 家日加 °IZ 臣 ` 持 屡 奉 を営の々ら も中名朝る ての号鮮 訪貴奉人前 ひ嬪る参來 給おべな師 ふほるど賓 もくよ贈の あ訪しら道 りひなせ契 て給り給な 。 へ ほ ^ りこ りざ 日 ع れ IJ し此に大な てのよ成ら 絶頃りよず ゆ在てりる る府西もが 行し

た時は位 き柳ざ階自に人しみ徳御御名左 も営 るも然非が を寺にず時 の が又得格上 മ あはなも達又將 る藩いもし他軍 0 たての職 公 のそざこ推 御のるこ薦徳 造一一にに川 営行野至よ家 で院僧れる御 あにのるに連 るし、次 非 が まず で まもこで 方 `そ々 思、に へ若至封のの ば山る建行飯 `にこのの依 其於と時徳を 行け古代に得 のる今による 徳無殆あ っに の量ど って至 大光事で IJ な寺例 都し る・に一下事 事誕乏文のわ・ 、生し不評 蓋院く知判格 しに のの別 し全一か自 筆 舌てく貧まら にも行僧び求 つ、のになめ く皆徳しして

八

が事端会の又徳 堂御尤にし中頗本 `心る上 す声も満 るがのち隋が豪人 にか次 弱江勢の本 至り第随の戸な関ト 。從風にり西 っで た各その漸在とに の方れ僧くり評於 、せけ も摂に侶風 無化幕が靡幕ざる せ府皆せ府る摂 らの心んのを化化 られ連かと治得も のた枝らす政な凄 次次で恐るがいま 第あれ時漸 °Ľ なる入 < 之い っ 常が こ 爛 故一て、熟時 に橋居に期徳関 、亜る忽に川東 さ相の然入幕に らがでとり府於 で随あし、がけ だ喜るて泰江る に偈か一平戸化 随仰ら個永に益 、異く厳わ● 喜し 攅て一風続存 嘆生般のいし足 の佛民行てて跡 民と衆者文居各 衆仰がが化っ方 が随顕絢てに 先れ喜れ爛 遍 を 攅 `の我く 爭 亜 仰 行 時 国 し う相す藏代政て て公る奇に事

で り上上及上 での 、千 足道 跡 、化にの伊 遍豆 及 き ぶ 所 相 で 大 模 あ 抵を ろ わ。は ِ ق じ 六 免 字と 名し 号 の中 碑仙 石道 が・ 造 北 立陸 さ . れ加 て賀 あ・ る越 次 前 第方

る化 三岐人人ん人 故年阜の名 に上方伊号ゐ関 そ人面豆石る東 の四へ・の次摂 年 十 か 相 数 第 化 代 九 け 模 わ[•]で わ[•] に歳て摂恐 も上の化らそ東 そ人化わりの海 の遷盆 方化は文券 面に 化 先 其 十 ^も 益立の三 つ翌年 せ ら十文五 れ二化十 た年十八 事 Ξ が越年遷 あ前上化 る妙人三 の華遷年 で谷化前 あにニの ろ於年事 うて前で 別のあ 記 行事り 伝を で わ修あ又 らせ る上 ざら 人 るれ之の のたよ信 み事り州

五 四 、住の人物とる凄人 う し 果い年 答らなの摂っ人を勢の `いも豆 奉砌行別て っ・ 襌 模 「察占きの課細等問及 しあ和め由人勧にのをび ての尚て申達誠上経吹信 、聞 人緯つ州 のにか方 日見け面 لح 課て `の 題 も後化 し 彌 念 が盆 て 佛想煩の ゐ 行像し熾 るこ 坐のてな 勧つそり ع 誡くのし に 説事東事 ょ 教 で 溟 わ っ のあ和 て 要 り尚信 ŧ 旨又が州 知 を信却飯 b 筆 州 つ山 て れ 寫松ての る易なこの。上代正正 寂 梓藩受受 し 相 庵 庵 て原をの 井 追 東 一中い溟

文の如し忽様寒てしのの一ば徳部舎出和こでが先路徳 化行きてちに地安」時事処上本の命さ尚のああ文よ本 十者樹のに覺極かと本に不人上書貴れが上る 三と下浅しえのら 申 察 て如ずす和折の留信と云結じ晩 盧 T 九て石を檀 くばに尚か意錫州 上恥中や 月の は石 があ上上へ随れ地化徳が拓で伊 上面のじ集 旬 目 てらに人て從ばにの本 行 ま を り承じ安勵日中 を上 、諾 □?人 坐声くの地る土者に居て相 仙揮來の寺 し 何せーに本をべ地日巨る そのよ番 っは門 方居たげを の 恐 檀 れ 行 修 れ食 にる 趣る物日寺し住さ くし 者 摂っ 其 くわかしれ唐 に正て 事 乏 化と の し 本 やし 「久るがた沢 をを 家 あく 瓦しべたるの き て 察 終知 1= は心和 ると < くししも阿 もだ住 ۲ じ地尚 _ り、と 餓けみてと上陀 を 免に 辞人寺 て打招 上諭飢雨荒 さ道もれそしのは 千た じ 介れのらての給 釣れた 曰 彈 うく誓。に上 デ た 如 ん 旨 のた 葉のくに雨を カと本 でにわ•漏上然 一 人 を 和伝、われり人らわの よばれ開 へ 本あの・ 尚 り 法 わ•基 ま此わ•ナー 察ら下畳 このいるはじに朽本弟念に と一た所 じ 立ち察の佛 に節く悪免霜行てに一弘 て雪せ住内人通閑 よわ•自く よ夢深よむ示賜 く徳分 を ろさく 。べさ る旨の 徳本の こめと席きるべと地 本上僧 上人侶びたも朽様 し しな 、るハちなそとてれ

六

面

IJ

T

旦

皈

府

ഗ

後

し

ば

ら

<

て

徳

本

上

人

わ・

のよか摂 渞 りね州 場小て勝 を と石随尾 な川喜 す伝あ V 止 べ 皈 诵 b まら き院せ 錫 b す 由鸞 ざる る 州れ 仰和た < を せ尚 得 出の橋 I され な 処 前 かっ の へ亜 事 た沙相 を の汰が た次第で、 であ 近 あ惜 である。徳本上人もめり、ここに又小に旧しまれて、やがて 待 の 者 遂にここに 12 洩 ら し 、示, 人もこの仰き 石て 示寂 川増 上 മ する 寺 せ 寺 貫 が に を を 首 パ 至った 否 建之 ッ ち沙、汰 H **|** か 汰 囋 の ね以あに で て上 て、 な つ る。 人增 遂 に摂 上 所 関化寺

第 + $\dot{\equiv}$ 関院

て小の わ●石弟 川子の 上 伝 中 時 人 日 に 通 もの ع 院 雖 1= 共 東 ŧ の 居 に 下 そうで IJ 畧伝を 先 向 宗 づ わ・ 界 錫 あ 記 を 1= 其 事し 著 鸞の 聞 州 弟 たから、つ し 和子 てゐる。伝通 尚の の鸞 許 州 に和 いて参 止尚 めの 院 て勧 照せられた は関東十 居誘 で るに あ ょ の る。 。 る で あ ŧ 八 1.1 ゕ゙ゟ゙゙ゟ゙ 壇 林 で ` の — 鸑 和 州其 尚 も和の つ 文尚第一の一 事 回 個 土 のはの 高 別時 に 徳 項も 在 で 徳 っ 本第

徳 < 即 ち 相 本 年 人 今 は じ 享 免 和 て Ξ 関 年 のオン十二の清浄に下 ボ心院に留 八十一年六 人わ悉くだ のしたる時なるが、當時に 上人の 淨土宗鎭 わ、伝通院の著名な 爲 1= 西派 仏通な 一院 豊 一院 単刹で 別に道場を開 の 貫首君譽智 法 脈を伝受せられた次 いて、 巌 大和 宗 戒脉 尚 が 上 布 第 薩 人 で の 式 の ぁ いった。 下 等 向 残 を る 歓 処 び な

Ξ 第 = ŧ 石院下茲 境向に 内は徳 院に留錫せられるま年 六月十二日江戸 戸 事と i= 到 な っ 着し、一 た。 旦鸞州 寮 1= 落 ちつか れ た 後

四

五

IJ

戸

の

化

益

事

の

他

盛

に

な

りて、

老

の

身にうたて、

感

じ

ら

れ

月分っの清間 競 う 小た 爲 淨 +にのて 院のに心な回承同上 でで塚院くのさ よ東淨清 本あをわ・伝関れ れ側 光 る立小通東 ばに 堂 院 のががて 寄 前 `た川 捨 檀 狭 記字 し徒か徳処伝 つ本 で 诵 堂 た上 建紫 屖 院 人を 人 爲 立具 久 **ഗ** 鸞 荘 右 に再、度 州 境 巖衛 度和内 西 田 忽 1= 玄の 尚 立 ち と関 下 が 在 後 慶に云に向蟻 IJ 記 う 刻 備 出の 夷 の て際の享 つ す 堂 商説、善が教此光 た商 保 る を 徳 ഗ 行 徳、を本六せ 本 徳 寺 寺 飢 者 を を 上 饉 堂 辞 人 上 間 ら 留 . ع 人 れ錫 し 火 の 四 称 _ \ \ て 災 る の 像 面 す 及 塩 道 を の る 安に ٦ 梅 場 堂 び 由 の 留 だ ع 置 疾 記 錫 棟 つ 定 寺 病 さ 四 を 寄た め 奉 1= ħ 年附の つ b 退 ょ て たと し でれ に 穏 つ ゐ 及 た。 。 て の る。 둜 ば 処 都 死 仝 うれ。た 下十 ۲ ۲ た ٦ 定 匹 の ろ 信 年 めた 徳 本又徒のがて 行此又七何あ々

あ国 Ш と上小え 人石皈 も川錫 遂 に 行 t-此 き 院 のを 旨 捨 を 世 院 道子 に 場達 留 とに ま 定諭 る事 さ れ ع 上た な 人 つ 常 た。 住 此 のの 処 事 لح 定橋 め卿 ての 江 耳 戸に に達 留し ま増 る上 様寺 12 と御

六 で日の一の沙摂 あに誰行御汰津 る 建彼院旨 築悉はにり勝 出く生てて尾 来 労 佛 力 力 院奉偈 内仕行 を z の 荘なる し、 厳 徳 ŧ 又其本一全の上行 部年人 出来て、常住の 十 院 上四と 工人即ち此のは ロ年)十一月・ ロ定められた 院七の に日 で 留 か 錫ら其 せ起の ら工造 れし 営 る 12 事 + つ ع い な月て = つ わ・ た十信 の三者

七 つあ故 てるに 遂 诰 営 一 行 に 上せ行院 人 ら院わ• 終 れ わ●徳 焉た現本 の浄在上 ح ت 刹 わ・人 と唯留 ろ称一 緆 لح す個の 成っ べの院 し小と た 淨 し の 上刹て で 人 で 造 あ のあ 営 道 るせ 徳がら が ħ 盛當た な時寺 事に院 思あで ふっ[、] ベて即 き幕ち で府上 あ連人 る枝を の開 而お祖 し声と てがす 此かる のり次 **一**に 第 行よで

四

徳 本本 一人に上上 人 ゎ 文 政 元 年 戌 寅 Ξ てそ の わっての 月 六 1= 一代の 日に、江 間 を 戸 無 小 石 の Ш 念 佛 行 大 院 行 で 者 示 た 寂 IJ 臘 年 六 + ふ さ で ゎ あ つ た い ま

であるで あ る と 申 さ ね ば なら

の文凡こ を り示時にそと し代 あ日人い余たに願間立人 程と有くわ・派の のの名ばーな末 事な臨寸大期 で原終先往の 養 あ坦七わ・生有 を る山日闇の様 経 たが和前 る 尚に 之わ・そる 人 ` の で は な稀命事今 1= 有終を け れのの豫 し ば例日知 て でにせ 自劇知め 時 己毒人給 後 の薬を招いとが をんて で最三 豫 知 知 自後世 さ 殺ののれ す る す挨諸が る拶佛た 事 な場をにい 合の祈 ち わ・ベ 願 大 ょ格てし 慧 別 つ て褌 ع 大い師 然 喝 るか 出 b 来 ഗ ざ声明 う る化治願 可

が事十本も で五上な るにわ 念 佛 わ流 即 石 を ち己に 修 九月 せ に不 ょ 死 世 + 期出 五日に わ のの が 至 大 臨 れ行 月 次 末 る満 ۔ ع 遠 の の からじ 人 別 を で 時 自あ 念 佛 る。 と語られた。 し 終りて て 己 居 に ら そ れ の る示 弟 子 弟 子 寂 達之の 達 悲にわせ 命実日 H 亡に以 の 今何前 心 の j لح りも即 中 十云ち 七いそ 日がの 佛 のた年 を 間くの 、尊 九

三

從請いた 又で信ふ文で弟事全上受べを上子七 し以人本日 わ•佛 弟に れ修子授て 遺他を給上 う人 め た の襟 て で に 誡 か つ を け の こ 居 b し れ た た 佛 そ 舎 の 利 言 を 葉 後 12 に < 上 人 ഗ 如れ 跡 生 を つ い で _ 行 院 に 住

四 つしに起つし いて わきた 7 ۲ わ自 굸 · う。 が化達け 滅の集 鏡 لح ഗ 外し遺 1= 又 指 一言 あ針 لح るこ し 来 ے ħ り。 し 汝 ځ 等 ŧ 之 か を < 承のわ IJ た < るに涯 弟元元 子祖祖 達上大 悲人師 感のの 悌 遺 泣 訓 枚

五 < 入し < 徳 坐後五川 南 無 の日將 軍 뎨 家 彌 か 陀 のら 仏 佛も こ の 希 望 名号壱 |田立慶作る処の木象ありて之を奉られた。 阡 枚を加 持 し て、 之 を _ 橋 前 亜 相 12 た て ま つ ら れ

六、

じ

、二 寂 十

を

懇

に

せ

ら

れ

た。

都

匠

西

来

着

L

た

る

に

ょ

り、

上

人

自

ら

開

眼

七 給たつた声に槃同と天皇じ根等誠。香九供仝た 回長太く を一諸を月養 六向地子淨以切佛焚五を し久恩土て縁 き 日な九仝 山厚に上覺觀合上し月じ 終静仁皈は衆世掌 人 つ海 深せ一梵音 し端 て平大ん切釈菩 三四薩誦し三宝王、し三 し又君) 三 遺 嘱 京 ば願 又 殿 **下**願 広天大給 らく 大龍勢ことに < くば 徳 ば 念 生 八 此 佛々極 功 称 世 本薩ば を 対 に 徳 名 Þ 覆 酬朝極にし を せ 還 ら 來 奉和樂 () 以 仁四四 り光海恭 最 て、下 れ穏 大 会 日 た。 玉 夷 今は小一本 は小一本 ഗ 随 を 縁 撫 道祇聖釈 皇 摂 一 衆 願 衆 迦 で百官 化 生く乃牟 を 福 佛 無ば至尼 試 基 日 一記の金子の金子の一点の 百 煩 司 群本利 b 個 輝 奉 類 発 佛 願 ħ 聖 法 職 を心阿 主 た 化 輪 恙 回以難阿 無 常 な り来等彌 窮 即 轉 等念諸陀 < ち 皇 を 四 し 佛 声 如 后 上 資 く功聞来 民 書 人 益 安 娑 徳 衆 十 婠 し 婆 及及方 上 ま 蕬 をび麟恒 五心 つ 榖 出一 諭 河 端 平 切部沙 で 熟 同善 行 證

八 売及も月 たばでい々ん とで元日 しは祖上 岩 大 人 佛師諸 祖の弟 にの臨子 芳 終 達 Ŋ もに きに共申 わ背に \pm たか頭れ る るん北 ゃ 面 ょ 。 そ [:] う な IJ , 今 日 ょ 間 IJ 最 て本こ 後 わ•そ の 齊初こ往 めれ生 食 をて常の と頭坐日 ら北不な れ西臥る げ面のべ にに念し 平 佛 甘臥行本 露し者 師 の念な釈 如佛れ迦 しど牟 し 給も尼 لح う。 佛 굸 は 末の れ其期涅

九 硯 う。 を を ŧ ഗ ぞ 命 もま おれ し 7 む絶 べ筆 きと し か わて 認 ع め 筆ら をれ 投た じ歌 給は ll 0 即 念 ち 佛 _ 称 南 名 無 の阿 う彌 ち陀 に佛 泊生 然 死 と輪 し廻 ての 絶 根

えを

+ た 同 月 九 日 寺 ഗ う L ろ に 葬 IJ ま LI b す 0 此 導 師 わ・ 増 上 寺 ഗ 大 僧 正 典 海 大 和 尚 つ لح め さ せ 給 う

+ のの 小 吉 文 橋 田 政 屋嘉 清平年 翁次の 供 秋 養 御 し影 淍 奉石忌 りを 12 切 際 又り L 唐 出 金し のて さ 香 供 爐 養 丈 ーし 五 対 奉 尺 わりの 五 仝 又 輪 高 塔 < さ を 池一 つ 田丈 < 屋ば IJ 某か 菒 供り 石 養の لح 石 世 奉燈 b り籠れ た 基 由 では 之 あ わ・ る大摂 阪 津

第 + 五 本 F 追

٦ かて人の臨 本 ۲ ` 疑の前みに 上 る 上 わ爪に 人 徳代あ次ずの千国人 の つ第 垢 釣 民 遷 のよ 化 遺 で 徳追 に間も重 < の 今 に煎 さ 未 後 其又じを 慕 そ 曾 百 の の上のの尚の示有 志 生若ん前干で んしの わ、今本 慕 飢 年 燦寒 わ・の を 熾 盛 過 書 な ゆることを し の IJ たる 著 證 、 者 直 慕 苦 輝 今 が 後 の行 を 日 上 に 志と 示 強 人 、 存退 証の のの での でいる れいらん 我 於 の ける 伝 記 が を 大 物 日 事柄 す 本 る 人帝 ı[] を記し置 あを、がの国り見學あ行が ത 褌 一きた IJ る あわに設 全 < るれわの 7 とわ•れ聖 今 ゐ 日信今わ戰 外 の尚じ上れに

わ•高 時 で をに 日大追於た故世野納慕け。に間 慕け 徳位迷大言 する の る雲 詠 歌人追生 で、 、 - わ - 人 り ち 即の 庭 ま公 でも衆 前大 作の 納 ij 地 位わ又格別の物で左として二・三の 下 位 の Ĺ 詠 て又 で あ格 あ る 事わ、茲の物であ った。 に 特記 其の公 き 卿 た衆 いが 0 徳 そ本 の上

野 納 卿 の 歌

^ 行 < 道 う 人言 あ ら じ か 重し の卿こ 末のの 詠 法贸 の 師 の 教 仰 が ば

の庭 本 田 の前 大 ひ納 言 嗣

き を な す 言 葉 10 悟 し つ る か な

導

西

日 課 弟 子 興 阿 名 IJ

僧此右 衲の二 の寫首 筆本の にわ歌 なる人のう る ź, ŧ の 書 の 日 ع 寫 野 思 か わ判大 納 れ然 言 せ 卿 ぬ 処 の — Þ が 参 首 考 何 に れ わ<mark>•</mark>徳 な る 徳 本 記 本 行 上 者 L の 詠 が あ る法歌 莚 寫 に本 列の ばしず 徳たに 本念明 上佛に 人日 記 の課 $_{ extstyle }$ 詠のれ 歌弟 て 一子 あ 手に か

言又の僧見襌 侶 て家極 き の樂彌心 末位場わ・如雲は陀に 庭合一何水十佛思 の般に 詠 も屋 とわと長土す しか頷八隔外 て らか方 つなば ず れに し、た ع る旅 思 宿 لح わ手候唱天 も自 るに ふ ŧ るし 而 然 ع 故 В 度南は にう にな課に無 上ゆ を 御ゆ阿 け 取 人 る 誓 き っ陀 念詞 ŧ ら 殊佛い戻 佛 おなどと云う事の、たせし時に れるから を IJ ŧ 唱 れ 死 で あ・ ぬ る なの吟 の 万 言 ぜ 四 遁 わ・旨 ら 首 る 土 おはる る は は `と池 か 道 手 當記田 は の 時 入 常 < 中 し 念 の の に 即淨あ 寺 世 ち土る に は IJ 記 宗 例 て 事のに

福町(あり)、 從如 葉 行 前 **の** ー 之 誡 納 上言にの 人庭わり Ш の田南 本 前 重紀の大 徳 嗣無巻納 量 頭 言 光 に卿 る 寺 掲の如 に旨本 記 詠 何 さ わ ・ に の年は、か門井戸りまるがら、別の年は、沙門井戸りまるがら、別門井戸りまるがら、別門井戸ののののでは、 いさるる所以れ、弘化 沙門并定が梓と奥書にあで(日課弟子の興阿の記は此に記 四 年 末の 年 信ずべきであ -の 孟 秋、 奈 良興 ると思わ めりて、日記載以前出版の 福 寺 勸 れ □課弟子 化 る 所 の 版 で の末」に 興 の あ 徳 亜 る が 本 も所載 上 人 興

四

五

り修ひ掲光(この しはて御く じ 駒 て 追院 日御玉 今 語 の 文 第十章 В 課 う行遠 ع あ لح 华 者の称 IJ 1 受に まけ咫ぱの御 ・と重複) L 奉 夕 つ尺衆像 志 るせの前 な る 佐 で り御文本 忘 よを 傾 頃し道に 政 室 政 大 行者 な غ 墳はめ俗 て き ぞ 墓 てに 幾 り年伝 Ξ に磨 IJ 度 おに さ飯かお 甲 لح 苔 ŧ ま 十御 な徳 て は お 蒸 ま ざ 念 Ľ 本の だ は皈 拝 まを あ御行 まゆ た 妙 る さ り堂 者 さ きせ 令の づ で師わ・給を な 事 関 往 さ 生 IJ どけ墳東 か徳天ぬへ ŧ さ の 墓 御 し 見 か問 下 地 徳 ば本保 しに どはおて向と本 か上五もる せは同 事 の書 上 事か人 + の よ殊玉し ľ もの月 とのへき様 冠 おせ る て外 譽 なは給の 殿 十大 *t*= IJ う 七 本 L う中佛 は 僧 御 ま 涙とにの御 う 日 正 忌 なのなこ拭げも御 齊 を 也, のはにむ次の IJ せ思かに後 う 故 な十ろ 給ひし侍本行 法 七は へ入行 り堂院 す 親 で ま IJ IJ 者 12 な王 は忌だ を き を 詣は て あ をた時 宮 念 御 で ち 移ひ中手佛 とだ さ内の ぶ人 る まに を せ 陣 宮 لح 賜に大 らに迄な請

六 ع 々 主に で光 あ栄 る の 紀事 州と 申 徳 川さ 家ね かば らわられるられ 11 位 老 侯 の 恩 召 に ょ つ て 天 保 五 年 の

頃

1=

若

山

無

光

七 畧右大れき跡寺 記に江てわれ つ龍居 寺 日 末き眠り最院高 天の ` 勝 建 郡 に保筆小山立久 附五で石尊を志 人村録録年あ川光命誕 りー寺ぜ生 甲 午 行のら院 記正此 院 寺 れ 月の、中 へ号 수 中 はま又千 山 無 _ で 東津 る本。祖 行 下京川 光 三賜小尊 に僧の 額誕院萩 衲 後 を生本原 でが火のの 下院堂上 印災 賜への人 刷に さわ・再堂 して 焼 れ遍建 た額を有 失 及も田 般更但びな郡 にに し御さ須 施新此庭し賀 築 の織め谷 し額のら西 た た字緞れ方 書 もわ•帳 継 ぎ名 のすを尊等 でべ も光五 あて 下 寺 号 石る祐賜の所 筆 さ 如 遺

の

の

左

事

が

あ

掲

宇やる里 建むべ人 紀立 としが 四附尾 き 徳 州 の 天最本日時 な故方 上高こ勝人郡そ し上の 千至かの境 寺行津れ 、 高 に 場川り旧村。 る 徳 建 村 さ朝て 尊 跡 落 偏 み日置 合に しのき 谷 泰 き昇た 平 山る る の 里が名 め へ如号、く塚 で たき御 恐 れ 四 は 7 多 海 に に の 世 の 御 太きこ 高 公公より りて 恩恐れ乍らも仰ぐの ت • ب 旧 ・寺号を下. 都も・野. も信 し 給 • 心 り山の ても輩 念は 今 佛 尋 度の て 一声見

初 旧

光

時 保 五 甲 午 正 月

千

附 Ш 本 袓

八、 と正 勸 摂 で い わ●戒 津 う「聞摩 あ ノ。何れもこ:「上人一代記」 「上人一代記」 摩頂山松林庵 上 る。 人 伝 れ」のの上を末住 · 應 寄 画を持 追に覆本 慕か刊俊 年 のか公上情せ布人 に 及 Ĺ の W し説 で か教現本 らの在上 弟 む砌和人 福 る必歌行 田 所ず山状 に上縣和 誡 外人日讃 Н なの高 $\overline{}$ ら伝郡元 ഗ なを湯 い談川行 話村院 上し九上 IJ 品 人 のそ寺 又 の住 明 大道持及治 な歌増びに を田 IJ 一 及 喧見徳ん ع 布成本で 굸 うす中 上 わ• べる僧人

六 徳 の本 悟の 悟 IJ

徳本 上 人 IJ の 素 晴 ら さ ここに 特 筆 大 書 し て お か ね ば な ら ぬ 事 柄 で あ ح 思

つす

て

を

と凡

如し

阿

如

使 彌

種・説る度か法で並でのな来

端徳南しせのる口も寸と事法の下かこのわ然あ大あ悟いの由 で本紀たず如ののちやいの然優品れと厚り上 り抵 る IJ さの あ上往所にきが話居 ソ 淨 末 上 劣 三 た わ•薀 わ•人 の併救法 ッ土に人存列と爭となの る る 人 生 で わ•大 使 で と努此境 の伝あお難命あこト宗つのすのもそ云い提 IJ 力の地 と心流い提る存云 うわ唱で つか行 る う で で不で で抱とて唱以すへ事事けし 著たぬ満なか あわ•退 ょ し上るるわれでた いら で雖の な るな転る も説た當 0 لح と此大か け出 出 あるかいな 明る然云経来人る淨 ら事 信の苦 ら斯れ来 方 る此への 様ばる常で淨のう文な々が 省 土 で信 信て熊 な出事住あ土飯事にいの 宗 る從満 < 今あ念心見度 来 わ•坐 り 宗 ^結 わ•わ• ° 智 唯 の 來の ع 説 つ を れ て **々** し 派 で 、九法惠ひ信般て持堅ばあ派 故易行 う き 無臥 あ如品然気 る く造唯 لح て方 は 続 仰 の る。何佛上根し を を 1 事 次 比 に用此すに く徹例のる 立出此対で不顛較 にの人に 彌 自 し 家 徳宗しのしわ・退沛的 ら も説わ・応極底に強爲 て陀 すら存 本のた通てな転陋の 易 おがそじ樂し 從い 如 かあのて往て 常はいの陀説 う 上一事 行 耐の不来分 ٦ 人大に易私 勇内明 道 しる一自生ゐ 忍方退が自わ す らをると持便転お身が 出特つ行わ・故猛証で な な 般 生色い道一に心のあ 話往最差信点に続 لح IJ な救の 次 に のとてと を ع で生低別ずに 向 行 裏 つ す が し る い悟 な ると わ・称にに常に あ成のがる於 て 爲 T 下 IJ る佛 でた `せ関難持過少 う 人あ人 て め さ っ あ淨そら心 Þ のわ・徳も念に 易 がの IJ これを ŧ 土 を す て を 間 本 直 佛 わ•と 紀宗にる 人合標又に他上さ称 持別余が根 信がな ゐ 間に的そ在の人ず 名異ず 州流幾淨たつ程如本 上 の っ全の を にの多土ぬがしき 品 あ人の宗が如っ信な修 介 了 てじ 信一継の心 `きか仰区道 も念仰つ続忍地葉た つ達特の **ഗ** Ξ て解 列 佛わ•のす耐がわ•す ての異信今わ•り生別に 人 1= る 法がわ・説な者 こ し活で ഗ 極深其宗 悟 明問にれホたのわ・易 気中樂淺信の勿道 要 即り わ。ょ ち ろ近に題徳を 根品往の仰信論のそす ン耐持な を 世 を本論の忍続い別 に三生存の者こ境れる一用陀 見困提上評序力わ・°つ 此列をす程との地わ事つ

、聞 惑 供 人 す の を ー た わ●

四

五

Ξ 。して土襌、え程ての宗云い色心そす末説れ 目伝真わ・劣す重矛量 お着解のと 、え人於在あ日でがす丁事之をれれ つ蓮敷如れわむを わしてし 以るば て も門 < 凩 お宗旨が宗旨が 尾のでわ・各し 派旨派幸尾のはわっている。 な で 未の b つあ或来説何も 間 あ な な に 船 勿 。 永 ん 論 かりはにくれなみ、方重処のい の る。み 方重処のいで 山ど天 て彼向点を宗 灰日台 幣此をを煎旨な釈 相本・ 帚自異おじをれ迦 に宗にきつ劣どー 相の眞 容仏言 似のし・むれも代 れ教・ た優・丙れり、從

をのずびの此土れ斜示億ず呼たざと襌淨りを或わ•ばとそ横唯申方るて摂のにる視し万、びとるし宗土と説は自、なのにわ すで功来取極阿 処わ・徳る不樂彌或たゐに宗一ばの、如とひて採のこが流破わ や信にと捨世陀はこる佛に天日障全き云、他を実に如にしれ は心よ説を介如素とがあ在四蓮壁く禹ひ或宗別践互き於た素 りさっく人え来人ば如りり海宗や面域・者のににに狭て八人 °々往の考にく・て皆の、 念あ延処信生世だ外に極も飯開本を来宗胴をる点盾の何四考 がれびがずせ介とな見樂又妙祖来改のと体云もを撞見れ千 存ばて淨るしあ云らゆ世多法日のめ宗云に々 す よ 来 土 事 む り わ な る 介 く と 蓮 ^姿 て 派 ひ ^ふ す 皈 き す わ•宗 ^云 るいる宗のる、れいがのわ·唱上に存に・れるー・る `` あ のととに功 [°]摂る次 の は 以 陀 に 行 併 た る 又 生 上 念 に の な 降 で を 底 き に で 旨 し く 所 不 如 於 し し こ と は を 人 佛 と 、 が し 派 に な ら か と て に 捨 来 て て ー と 、 眞 は の 問 と 、 た 生 時 で っ く を く へ せ も 摂 の の 同 、 応 で 之 宗 な 加 な ・ ・ ・ ・ ・ ば と 取 に で 示又は眞宗へ 、生をはなれ 、一と、云わっ 、一と、云わっ 、一と、云わっ 、一と、云わっ 、一と、云わっ。 、一と、云わっ。 ばよ取阿救一一申も等のれき ` は 考 て も 禅 此い不彌のの切し の道捨陀手信衆て矛互え佛 間理わ・如が仰生見盾い方な淨魔 `形をるしにとし土 . 出がじのわ態未なた別はと易眞 入やな救れ。来ら事々 `云 行 言 わ・はいのら処にばでの正いの亡 、も処反 宗 国 `りと手今で救 ー 申 説 わ•わ•眞 ひ 西 な か 対 恰 を く、の宗取方いらのもう律 。。佛際でり十と相見西ベ国 事念眞をにわ・て万思手解方な賊 を佛宗念の此、億わをを十わと

六 るけぬ道普天な余も從配にへ前て今じの表 こ信博素 `方か差假 ちあ本に仰士人 てで で 門とい念 來に 品も筈を南つわ●極もら支にとがか ゐあも 上見をのの 人出偲後私 。生 無 な 及 樂 るろ唱 の考 へ諸い心ら に道又にさ 仏うゆ主へ名ぜ法ぎばに西追なのふ身 びを共 座の彼在ず 、継が 教 る人 る体し蓮目な似方いい心 山わったそい極 各 分 をいた淨返筈 に不む華 公 いに居 伏天てわのでめ 宗け又でも 離る経考 淨 土さ を 行に台わか行 での此ああと隙とへ 土をる人洗 T りたいを称なわが否る間除 宗 、か 跡 佛 大 あぼの ての彼れを教雑 らう輿ゆい未あ 定筈 りる觀 さ し か過 麓世此ぬもへる迄来 の音の。、なもの わ<mark>•</mark>なた統把 る しはえ得 ぶ 大に な の いずー になわ・摂 律 その音の もの な 7 説 でね論 宗 の道わ普況結い くな取 話 て、念 き・ あろ つわ•眞門や局信こ て ていし ഗ を 然 がゐが ももでての 僧なり。 そふも づ多言品彌実心れ又 う 差 あ佛 のり大 りけ宗わ・陀体継等 南 身 る襌 た。 西方極樂で のろう。して下さい でして下さい す 佛 悟ま胆 めれ十唱三具続の無 行 っ 道わな ど三ゆ尊現方称阿 を その る中ま便名彌 持 をす議 つ 佛 れお IJ を説 ഗ 味つ論 ヾ同の調にでとわ●陀 戒 をの 僧 洗 のいてさる っ うもを りじ随子わの申結仏 堅 すれ 除 上 < 存事 見 り試 古 合高一 こ觀こす局と た つ自 な 出 矛 在にれ にでみ 嶺でそ世ともわ・称 ع の す か IJ 来 僧 事のも違音での口ゆ がなば阿 し ゆわ•る りが غ る じ が無 °にる り唯弥て、心陀、 が洗本 な あえがあ くな所 を 月 申 IJ 忘を ることと < 心陀 る ひも りい以 除来 Ĺ な . と云 れ見 天まと な西の佛扨 なのの つ ても し い てる左台す口ばき南、る方彌況命
ゐか程宗がずそり無っ事淨陀し終 でも < 来 去 で ,処でこ立派 っ もあの なれ るわ `れのな歡なに土にてのいば で も此ばもし世ぎわ●説 にに 佛が 仏上か 一足通 `のに音 合なも心のでわれ 教 格 宗從い・の しらたの身極別身唯 向り用派 統茲別 で來間禪觀格に唱菩 差なすに 一に村 あ横柄宗世別格え薩てなと淨を樂問此さ いい土極往題心ま 支いる通 لح 的徳上 っのとで音親別 言とに 此と樂生とがざ 。用 な本專 た連わ・もわ・のの をなな共の云のしし即ま な又又す 姿 上精 法不こ

上驗

お

さ

お

さ

怠 峯

襌

宗

師

家

な

ij

と 格

申 別

し異

たと

え

い彼彼る

行わ●わ●人

人文

その多

を

な行 き者、な

な

IJ

لح

つても、

の云

- 39 -

でにわ修華具としゆるに娑う玄た

あ 欠 れ 驗 経 戴 わ・て る 。 心 婆 考 関 と

て

八

題て

本あ況

て其山

唯の巌

之 心 頭

一地上

個にの

佛て念

のわ・佛

な豪日

り別蓮

となの

のき波

み姿題

伝で目

ゆあに

るる対

わ・此す

`のる

余故時

に以一

体わ念

てわ

りを

照

事

念

行

者寸

至 称

つ名

あ

てを山大る律難く戒通授君徳なれ佛業 のをの出律り受譽本いわ・ 障だに薩み信標家を一を智上行れ一持 後本とつ於戒で条的に示遍了嚴人跡わ・わ・つ あと 無に願戦るけ لح しのし大はな し っ大 る る す なてた型た和実 佛 て難念乘 る り在経式旨尚に 行佛戒律律来家文 のが持を徳 でのを宗宗っので之記上戒知あ行躰はのた姿あよ事人巌る 古遂でのを宗宗 を左るの得梵如歴 IJ, を りがに固 の 忘の ع 如し網き史 先徳対の れ如かきて教わ•がり此梵本し行ずき、わ•、を、あ、の網行、僧 、を、 生以と ` わ・ あ の網行 僧 ば悟 る肉戒経者淨 、道至之涯で て 変変が所に くが食律感伝土 あ 妻を得に宗 が境 の天 つ 依 生 今帶守の出 な地 台ての る事 大 命 日す τ すに 行宗不経 をのる可が居戒和 わ 至 ざっ にに退典失時がき る両 対お転 とし代如事全が派年 けのす僅わきわじ 及 十 障の るか己わ• ` て る眞 < 之 び で 念 ° 12 12 佛 行 月 佛 あ 徳 佛 と徳少末全教者の布関 る < 本の称本数法 を伝事薩 上行し上の饒破通にわ・戒 人等て人寺季戒じ出上等 わ・に差の院戒のてて人宗の く支行に律行のゐに らへ業 `頓爲特 る の 如べなわ・其にと色 り相小 てい `の衰し て伝石 梵 即面へて淨網わ・残 歌そ徳ち影 永土経もる 伝 こ本梵 を随く眞わ・と処通 のに上網も つ教宗出よな院 て介の家 りく貫 人教と 泥のにむ戒批如の 首

か て

の

の

ざ

あらす

な

九

三徳 昧 本 の上 船死唱三南偉人南 人 悟 でり阿 あの彌 扇は名修陀る姿陀 は我体も仏故を 其 諸 の佛 往ず阿な居土遺 菩 生南彌むれ宗詠薩 は無陀あばののの 宗中弓 、だ身旨に矢 求 む る 度 放 事 ŧ に て とよ 変 ば IJ 悪 りり、 も も 、 魔 な 淨 宗

往に 生守はる す本

る尊

旨

の

極

意

念

の

行

者

行

はぬへ心無 楫るれも阿 とば四彌 かは不五唱に な思離念え めはのもて淨 阿佛み 南弥 佛生即ば陰 のき得かの 決る往り如 定る生でく のと し申 んす ば

か

IJ

ぞ

- 40 -

破然説之 < b たに処は 阿皆地迷徳天一末是消藥南南念徳おお南遁る右を尋迷佛南極 人獄ひ本は心成も息錘無無佛本のの無世がの採常ひ願無樂 よとかは笠にの又は坊と阿はのれれ阿は如道用淨よに阿は し土 り 唯 彌 十 と方鬼地無地無の無のをヾ陀隠はおは陀の觀にて宗迷打陀万 至居のひまぶ億 っる宗をかつ土 旨生せ今へ をじ南臨だ 、異 いふ阿とれ ۲ する道 な 彌 唱 り陀ふ 、佛れ唱 の み 歌 申申ば に 世 . す

ずば引是故

ぬも接にに

のあぎ

なる要

けかは

りりな

悟 五

念

の

悟

IJ

の

如

き

天

台

宗

の

宗

家

の

とにすゆ

づた

りかる戻

りば心つ

り

しる 歌 ` の 封 下 備 て の 佛天にみづ心た日れに一しわ<mark>・</mark>を IJ て は 天 台 宗 で の ある。 唯 識 詠 宗 としては の 公 著 無 L 問 < 関 異 色に 中 の 属 ゙゙ する。 ? 則 を 道

う

・佛面を く月に皈影居 `そおまるは 々天心 地を の阿

お彌

の陀

れ任

同せ

体に

らく欲心行られお本天具 陀の故あたくわ 下さだね持一む愚る、 ー む 思る、 、そのかせ おのがせ おなあ話に、 がせれ へいかたう なあ話に、がせ十つ りみもすふ身・一れ 、だなが! 浄土宗家の僧! ・おのれこりゃ ・おのれこりゃ がりていきづめ がりていきづめ がりていきづめ がりていきづめ に、瞋恚おこ口に たえずかけおけ たれど心とヾめず 実け阿がばみ 相法み既なだのの へのだにい佛れれ

一焚佛佛 枚火々心

・南我南鐘火た彌雪腹はら彌鏡き 彌 ഗ う て 吞 る き L で な あ IJ い み起 と云ふぞの焚火に 多が我ん (達 か 請 ょ 文 (法然上 磨 の ഗ 像 の 人 讃 像

の

讃

は 本六わあ IJ

佛十はら南 口衆の獄阿は阿ご阿う焚貧佛にはの で生住や彌足彌とはのみ餓陀駄陀き た願つ飢佛な佛は らなるはのり云食 きれ国あ異裸う耳ばなる名坊と れもに み南ばのて胸はんよ無、の、は、で 阿鬼 と十家字れみ 眼だ一方にのがだ し世飯都あ佛 らのょ介れなみと く丸に彌ばり多ね 時の住陀主けかた うめのな 待ちばふ り ちな地と ゐり獄こ よ け

上 境 の 南 神 極 南 何 手 よ詠無と樂無事に 阿まを阿もと 彌る願み心な 陀高う陀一へ 來生間は佛つ心 っ死ヶ富山のに て輪原士の向思 廻 もの そけひ でその南高 らば忘 の根無根でかれ を阿佛も りず た彌 ば て陀ま面法 ば佛た白に例 上やもひ 身五も十れ口 を煩な方たに も三き法るは 命毒悟界所余 もなり友作を 惜きなとは語 し所り思なる むなけへいと りりばぞ べ ŧ き か ょ ゎ

き 之 本心等 < を 誦 L の味 うべ き ある 気 宇 മ 高 遇 か つ 然 ع し 天 空をのぞ む が 如 し لح で ŧ 申 す

徳 人 ഗ 悟 道 如 何 に 堅 固 な ŧ ഗ で あ つ た か を 例 示 す る に 足 る つ 0 事 例 を 玆 に 掲

T お ٦ う

十

う聞言極本 いる月上 てに末人 っにの 然凡 高 とそ年 弟 し出末と て家のな 大は事 つ 悟三とた し界て徳 に一田 そに先和 の家づ尚 まな丹が し後 \ °の上 弟 子飯自人 のる坊勝 列とに尾 にい飯寺 加う杖に わはす留 る何べ錫 事れくの をに 頃 乞 皈 上 随 ひる人喜 事に念 徳か暇佛 田上 乞 し ととを居 名の申っ を ーした も言 上が ら和 つ尚上或 た 人る と之の年

悟のたる佛わみ定てあ高云を仰の徳げ とに称しんむ免っ崎 名 わ・と べ 許 た 藩 底 定 云 ののう上を念てしを \pm 人し 人試佛遙 輿諸寺 なん そのみ行々よへ国田 りず武五 の身な者勝 しを師体さじ尾て 者右 か服寺にれゃ寺亨問修衛 、に思ふ業門 庸田鵜 示称五のと劔詣ふ然を ع 揚右毛云道りにら終云 に せ衛程うのて今ばえう +ら門のま事 、の此て劔 れ常隙、わ・謁世の飯道 てにも座知をに上る師 IJ ゐ上見しら乞高如 と節 لح た人出てぬう僧何 ഗ とのさ てと 念 斈 師 門 ず 云歌れ佛し上聞ばの人 をか人こ うっず ん日に はしにゆ 船 < 以は即じ折まる師に白 上 楫 ち め 角 み は が わ・井 豁 ら訪ゑ `日汝亨 つ扇然れねそ徳くのと のはとた来の本高枝い 0 ら由行徳はう 例かし 亨れを者な至後 話なて わ・め劔そた申などれに 道の事するにり達 じにべ承 本往の姿 人 や、 を 上生妙 し問精と 徳 人は所 つ し神称 ら一本いて未せ が南を / 度上ざしたら 無会 に人ゆて至れ 如阿得 何彌し拝てがい らた に陀去見も日て心ず人 大佛っす念く試をとが

七

し即すのて然 `本とちる一出に本 。大 家 り間言我請条後人。、安請ら道人るの荒発し僧人 つて信葉と文と上が之余心文れ坦がも行行憤た家わ・本 のをとのと普上 一の践 じ をめ ・所礎ち 力 とこ宗己地如 知千なのとにを < 淨威の釣し行い少進に文 の たにわ青 さ百宗堂入力るよれ年て少 が説り易の行年 あ 法て行 りに悟道 始道と時云て 圧終のい期う小 力 し 境 わ わ・行 僧 が た地る在方 存 るをる家と す が得淨のわり る 故た土間選経 の にの宗にを で での空異を あ そあ僧 費に のり侶 説 て く随し 所ってる廿寺 はてわ・ 。七 規 平上寧こに 凡人ろのし体 他の異爲て得 寄一例にはし り代に上じて なは属人め自

あの之凡達汝一之此徳でた土一くら徳 のよ人のも起信以上る後の起げ大上す此 で自心にひをし人は以裕起わ・た々ー` あ行の対と以たわしたあ行假る敗生其実はな しての此^めのるの名も所 く自でので多人趣混のな不云 こ解大悉りわ●き文う基即他ての侶 のは原く文 、態 一畢問云に即度不に 枚竟答のつ、淨威 願の解 く五土容尼 文境をおうな祖々を地でいる。 手にしたるなおよりをはない。これでいる。これでは、大字足らずく。これでは、大字足らずる。これでは、大字足らずる。これでは、大字足らずる。これでは、大字足らずく。これでは、大字足らず、大字足らず、大字足らず、 たる 人 ない しん とい しん とい しん かん に が 一 假 ふ じ く 肥 、な文名風 L て 家すど 、れ法に 浄此どとあ學 ぎ 土 の も 称 宗 一 、 す る解 な に (J の枚法べそわる。 本起然きの覺 あ 旨請上一信束 に文人枚念な う。彼のの起のき す趣創請目立 る旨始文標場 ををしでとに 得了た あし 在 ベ解るるて り きし淨 高乍

四 る 中 に そ 此 等 枚 を 時 本 あ る 宗 枚 掲 人策わ感此行あー 、悌の化る枚 、。起 し請他上請 てにの人文語そのつ 從鏡遷を 僅うと化護 んべしに持 手を で し法先 し 立ち弟の 筵 我を ち す ら開弟 ځ がか子 生 わ**•**の 、肥 遺る達 者 誡るに枚 其 料 伝 此度論起 出に は のに 請 1すらく「ご文と終始. 外 以 に先 前 ー 言 え を 安 永で ゐ 我し 四 る。る る る 誦 生た 年 事す涯と十 なる元申八 しを 祖しの 例円て時 とと光よで せ大いぁ 弟り師程る ° တ 子

るを のる終泣遺 路方 は便あ わ・とれ ーすば のもり る 目 に度襌 向 悟 宗 っ入の ての如 進暁き むにわむ のそ幾 での度 あ人の る人公 の案 雑受な 多用る わずも 迷るの 信所を のは存 基 でそ

五

六 全と くに がーそ F 特枚の 人 起態が 此請度 文が 衵 のは法 を 標 つ 然 設 本 き 上 け غ IJ 人 たる し し ഗ て て、出来てゐる 遺 所以である。 ゐ 語 て、 一枚 請 ŧ 願 し 文 い を 人の如くであると申して差 次 目 第と云わ 標 ع ねば 条として ならな い 支徳 な 本 し い上た の人 る で **ത** あ如わ る。 っわ・ま

+ 八 H

わ・上至映 上 或人つ発人 わのてしわ・本 わって、 自遺にの不 詠卓悟知 わりが道の 秀 わ・尼 に 短逸素 か歌・晴 入 道 晴 從 横 等 無擬 < L l1 で 其 無 一 読 三 の 斈 説の 教ひ 誦 の 自ら 如で き あ 頭 わる の 平に 下るを 凡か 他 ` 奇 わ 覺 な b ゅ きも ず、 多 其 年 のの 遺 修 せ道 る 自 道然

と 徳 歌 之 本 に 道 歌 本の の 確 な 歌 Ξ 百 ŧ 五十 · 余 分そうであ 首 の 外 に、白 らうと思 陰 襌 わ師 れ 粉 引歌 因に果依 っ て 和 今 様 が篇

き

る

経

讃

篇

ع

あ る

し徳け大に人悟此 徳非の りの て総上ゐ和ず詠の遺 じ人も尚し歌項 詠 てのののてとに を 短 概 诵 て しわ・慾平にぜの通わ・記 て IJ 道 沭 には実 し第 多に た 秀 び卓かに で んら て て 抜 ゐ達秀 ぜ た し凭 るた る なに がるるわ•る 故所も省徳 になの、りが 本 り が と 存 す **ഗ** る 徳 本思在と 道 上わす 人れる て、 す がる 0 ば 之 第 b な之わ・二 くに尋に し さ と就常感 もて斈銘 つ 作わず す る 歌徳す て の本し事 手得てわ●別 ほ度達無 どのし多 き師たの本 位僧る徳 上 わ•大 も 本 受円の上の

四 本て لح 渞 狂 まと歌 別 項 に 説 述 きも の 謂 通り の ع で 評 あ すべ る

ഗ

ŧ

若

通 を る詠糅へそ 歌あずの诵 に意俗歌信 相註めおす易わら EE わ C かるな其 な何居な所叙する い人るいが か次凄を 第であり こって、 いたか・ で所 此 気歌力ら 遺 詠力 がし の が 道 毎 き 歌 首 歌 存にわき す 充 少 á ちな戯 溢いれ 故 '。 [: れ の歌 てで口 如居あ調 てるの 何 がも に 徳 読 本むす 上もべ 人のて干 無 にのわ 深歌存 のいを在

五 わ、第 を 力 説 して か ね なら な

に上を な人生與 がの に そに のな 訳る 玾 釈の のか 意中判すに然 於 て 「 行 な い た者何 ヾの れ 歌 わ• 一歌 え て首道 人にの に て心 よ義得 み理あ のる き僧 せこ侶 てゑの わぬて 歌 □?

徳 種 で に ¬ 殊 本 わ•し 者 や と ー てわの云向 全しっ上うに くてすでもわ のあべわのけ 戯がてなかの `行い れ 言當者と然 ま で時の云ら 歌の歌 うず と軟を事ん も弱極をばな 、歌り 云極道 わま者弁とし れるのへ云 な和歌そう い歌なこも とのれねのっ も風ばたわ・て 思潮 つの常 とた た中態ばとが 人にのでいそ が あ歌あ道ん っとる歌な て全ととの つ 見じい雖わ たれや つもな 事ばうて ح 、に差歌 徳心支で之 わ 本 得 へ 事 わ• ^れ 上 か な の 読 人らい説者 。明の のず 詠詠し又を思 歌 歌と諺すい のも註るす 註 の如説の道ご

版き明註具し

本のあて綱に「 つい 上こ るわ・に徳 神徳極な谷天世南天唱歌声船植人と っす本 と本樂む川はの無高うのばはえのわ・此雪が上 まがをあの傘中阿しれ道か楫て遺徳の隠り人 うばふり・見詠本事して る腹願み木・の彌 മ つ名み深扇よの幾わ・にし 高はふだの地皆陀 詠 し体迷野は花中つあわ・が歌 う佛 ヶら富とか足き名て不じのかの `か ら一當に 原わ士口く駄事体見離の原な育和のか本時 もたのへれなを不れの南のめた歌歌じのの念 な糞高はのり夢離ばあ無き ・ぬと め綱都佛 むぶ嶺た下裸にの極み阿り往所し又 承を会は 阿く佛らの坊し法樂多阿ぎ生はてそ 知さ人雪 てなも佛陀りはな情の しげに隠 `れ 、佛す南 し味説 ててはに はそばな具 無 ふ教 おゐ 入 し上えこ六の む足思し阿申かの かてと る 日耳あ十のの彌すき内 な て心 くにみ念玉び陀かもに い老もも 三出き心あ都らき多即のて佛らのも毒づ悟眠りなしこ佛得数みのこを存 人理 なるりひとりのゆの往まれ決そ拾す 此子出綱 きあならはけ身る手生さば定身ふる の供来に りこ声の れ姿のはてケ 歌わぬす そぞ内 かあ心佛見所 わ・此こが やたに しり なよが う。 まのと IJ すのあ け あ と綱でて IJ けもる もにあい れし にすっき 了がたづ 解っらめ 出てしば 来用いよ な便 いし其し 。た頃の 此も田歌

間はは佛葉は

ま

五ぎも見こ字

慾となよにの

所みりく誰

なだけ時か

り佛りは知

まら

つま

べし

L

Z

佛ふた耳

陀

つ

き胸

七

六

て

- 45 -

のの舎に

歌無むれ わ●阿阿め 葉陀陀お 生 日 封 月 かへる、六十一 の根を断てば、身をも の が わ・ お の 相 もか 天 地 はら 命も憎 の 己 ぬもとの むべきか 徳 は

八 九 きるに人集に立はれ ま外 しのの 言なのの南な己 て 編 上者 叱 ま り個 の き 道 思 は け の 歌 万 彌 き道 ع < ょ し敷りのれ 人 り集 て 島 お で出の 深評 る < かあづ 歌 つ ね る調 た事 営不本ば を ۲ な 古 高 ららな 評 今 調 人 らないのわ、 , 不 変 する今日に見て、其生命の躍動を見 修 へであ 佛 らな り、 の 弟 徳本上人 中外一貫の 子、 葉 居 道 < け の 仕 なりと云 て 末 の \pm 跋 < を 徳 よれ本武 上昌 し L1 人成 < 第 て る で し 佛わ●樓 もの 蓮 徳 あ か明 本 つ 上 此. て 人

も和

も測一はか葉わべ素う歌茲又歌こ > に な りは立る 顯 もるへ他 と思な 給事 もるす る ひらの の誤れ止ねを もふな幼人と な りば漫 の事 る の ふりにな 事 上こ かかにし を にれ て く世 襲に 特 立は ŧ おたることである。 し て ふ て なせ 置 偏 軟 ば り涯浦厭合 之を 見と云 ず。 弱な 花風べい即車 却の詠に、ち修っない。 で本上人自身の で本上人自身の で本にの輩の で不信の輩の で不信の輩の でをそなえて が終はざるは が終はざるは である。 へ あ切身ひ輩 て をのその て専は井仝信、修更に人西 IJ 見る す遜固る り其念也か日 徳 必要 本 をの佛 制起風の難 見 が れ を せ す体思波明我 の以ば をの江け師 ら基 ځ れに得内の て ŧ 1= ع し し 歌角故ても切 ての の なあ 至本そ さ信に る心は 旨の 色 を 弟 を を あ 自え月性らっを質 も勵 得 子 ら ず やむ とた の لح る はる憶 لح 言て弄朴云道

九 本 H Y

をれが 生程徳高 佛に本層 と奇上の あ蹟人 傳 が奇に 記 め端 至に 奉るにあるたってわ 一っ奇 《上人わ、そこ至ったものち満ちてゐ わわり 附 物 ع にものであると云って過言しゐる一生涯である。此の前の奇蹟をはなれてわ殆 って ゐ て、 れ後 世 わ•の 殆 伝 言で だその存在記者を困る 故 なに 時 മ の道俗みな上人をは在を語ることが出ることが を 出が 备 敬来 多 ない いが、 て

行 伝 ഗ 福 田 行 その 行 者 伝 の 例言 1中に、 行 者 の 行 跡 中 に わ・ 上 中 下

四 Ξ っ云ヽと悪團竹に上日虫之め屋井上た例うにざか徳万し奇あ たわ持称の子萱奉人もつをてと村人るにた感るら本のて蹟り 姑れ参し姑をで仕千尚い殺居云へ尚故乏れぜも筆上人ゐ奇 、婆つ葺し津消にさたう現出にしるらのを人達 家在家しい次れと起がが 。第た こ生 る之で事上すま之其て省 かむ所わ•見之し、谷ぬ内一上端村らの徳あが人これをれ埋い 慈てをた行に伝よ所人家大ざで本るあ自とな生らめて あ 上 0 る身にが佛 ろ 人か °IZ しら様 う。 のく共とたに^とにて より、は、当の農 し羅ゐと 大のに っいし が 。てて 行如常て 列るる 農 業く人わ・徳奇あ 時 油 夫 耕苗屋と の に の 格 本 端 ^が 事筆に の字とし 賜一境別上のめし者し 際、畠と呼ぶ宮と呼ぶ宮 奉 に生地異人人 てわた つ 外涯にとのな 此と 世を豪村 なをわず奇りた 以の云 事 グ 許 農 の ら通ある蹟し て行っ 草さの志 徳者で ー れ 家 賀 本伝ゐ の虫を谷に、久 第奇ぬら端項 上のる な と 蹟 こ 存 の と ずわ・に で 地 、 り 百 志 志 志 志 人記 る 、記 し が事而 Wることを 「の家柄で、 「姓奉公を・ 所 ず続のて上しる発如、人た 非以も 以 人た る発如 凡外行 を 。にく余自故 のに者 知

修会に人身に業す感にに、

充る得わ•感上

ち事し全得人

得例てくし出

通古の議人前

力今奇ににの

をそ異奇関奇

得のに特せ端

ては

神

、不て家

其 思 余 直

業す感にに

存 る

ഗ

で

あ

在尚の

に幾大

しつ半

てかの

當奇事

時 蹟 わ●

千 伝 全

幾聞く

幾を

の記

五 もの用嫁がくきた川え其ず゜ すでし女之りま事落やのし徳わ・松にか 、わわ•合 ら 円 て ^本 田 原 至 恐く上悲喙上庵者庵説りに三云田しれ嫁人のを人だ伝住で出集二云田し コース あでず、が るず、が 入女之深容のっにす っがをいれ齊た記る 、念い佛 て 其 受 性 ^て に 事 す に のけ質日供と処先 自半てでく用思で立 つを し申 來分其あ「せわあ ち かし 善をのっ」んれるて い区 根持半た人と る 報ち分故わし °庵土 な画 謝皈をにソて上室地にり受、ン、人との くを 、なったと云う。よっ限り円相を描き、 、取姑ナー此云人 活 き姑り婆に杯のっ達た婆、サたに庵て靈 とにこンベ重住も夢 云そののな箱中土を き、 うの半言いに千壁 之 ` わ**•**其 事分葉かつ津なじ 此をわれらめ川ど 俗の命 し の話姑耳 、てのわ・こ 話し婆をそ居或つぞ 間中世近たそ はたサ假のる家けっ ににら郊事二 流住れのが里 わ・所ンさ半とのてて 、にず分 、嫁な庵 布せた大あを 者流與にでか女く室 さしが庄る隔 を が石へ、 沢ねが れむ 、屋 `本 土頑よそ山て てる上を此る つ `のだ意彼當 < `に人つの のだとまし地岸のる 今 ` わ・と 油田

- 47 -

凡

。つ

六

り達人老 上地い て告道人久た の云居 ` つ當々相現に話 て時卒隔在竹 あたと毎さく上塔つ誕馬あら。名日もれ人婆る生の がをに院 こ行一至ので ま中枚つ裏 ぐの書て 有いもで 極田て 人上出之樂郡貰終穴要 つヶて仲中と たれ谷来善へ てによ友穴 が う達居 行 赴 ついと でのが 者 てたああ行あ 伝 来 所 つ 中 た てた に 旨 上 ŧ を人土第際此 記 語己地だ され らにのが穴人 れ要 て た藏達こ 居 000000 る で死中人手上 をのが伝 人知二死いと 々っ人んに仲 大てがだ行善 い卒鹿のっし

議事凡釈ら行もて若候上をわ日みそがこ上に塔ヶでた友上古 で夫迦ず誡筆ゐきに人本りな、の賎に人驚婆背 上者る日対紀勇をら或情業後塩嘆をを其しでのに ・格恩正其人が姿以面州・知ず時夫婦に津し認越のて 奇別量法の著父を来な公本りし上のと本庵ためゑ報蹟不をに事行老一のさの妙、て人漁し勇住とてて告 師て・ りし行た殿い夫亡道某居本頃う直てに。にた愚しにがっ妙、 ぬ此を浜実 所 が IJ の分対のけ似 しに 男のし弟 6 カー情で子れば っ信本佛婦何にた ∵。行 念亡上公たし勇罰がかな 副上とっそ ع . 凱人親ての うに妙はと切尼時 改わげ醜に僧町 じ関しでに め てはい係たーー 上じ腹が所生軒 人め痛出がをの の 終居 て . 来 弟現頭たそっ酒 子世痛もれた屋 と火をのを が な宅起と見兄あ りのこ思聞弟り こしいしの 名と 、込 て 女 そ

可離不例者よ目乱れ御と凡死を で処なにあ接悉依そ参ヾ痴た擁 の所れ討に既な で ある ら等い隠っ然た わ•遊 て 居 _ と まばなし生 さかてをて見 とれっ太終入た のたた眞 佛者人と 三達の称云茲本 昧が衣せ ` の ら の 生形袖れ 活相をて に物の居 入凄ぞた らくか れ地れ大 た獄た殿 °様 との 云生太即 う活眞ち。を公重 を公重 之しが倫

八

+ 九 り思れ思枚伝 と議る議學に直てに 明もわし違り聞く 、とがて承悔 る蹟わ云なもし悟 のでれ 外もわ 方なれ 法 いわ 大 わ・ が事奇 半 怪 なか蹟 の 力 いもと 記 乱 °知し 事 神 若れて わ・ を しな不 上 説 徳い思 人 か 本の議 の ず 上でと 奇 人あす様 蹟 に る る し °事 の Þ 事 1= 叙 てしも 述 説 念か尋明 な 佛し常 IJ さ ح **の** – – ħ 行般般る 굸 う 者にの幽 とわ明明 ŧ 云之々の 過 うを白ー に 既不々界

成思の

あ

れ宗 な教 いに のょ でら あ ざ IJ 世 ば 恐 b < 宗 派 の 信 训 專 体 が 上 人 を 中 心 لح し て 出 来 て 居 た か ŧ

知

説上 `わ説半化其上 、つ行又業 屡世 な 間 らに 世 、儘 ずれ で っ 事 が たにか ځ 晩ま 云うもまびすし 東し 過 北く 言 巡 で 錫随 な に喜 l) 。わ●温 席仰 温の ま人 る雲 の霞 追の な如 < 有

つ珍本徳様 ろ経てしが本での本 抹のわい世上 ` · 事に人其教人**徳** 殺 内 す容平で行のの教わ・本 るの凡 一多如れ教生にの に 如部奇何てにをも行 かをなに ず俗く多徳いに勢が と説浄衆本て 信の土の上わり半 ず材宗間人、生 る料のにが勧をざ 説に宗喧説戒教 明從依伝教聞化能 すったさ勧書^にわら らてるれ戒 あ説三たの又し るい部か様わ•終 次てのを子説 第ゐ経知ま教 でる経るで聞 に典に 書 ` 充 悉 一 過 • 向ぎ即分く日 目ずちで書課 無あき念 あ た中量る記佛 らに壽がさ勧 `れ聞 し わ・経 い今・そて書 処日觀の居等 もの無説るの 奥人量教事刊 深か壽のわ•本 いら経内ま 所見・容こ又 もて阿にとわ・ 彌至に寫 な

る課徳か云云或ををす福い寧陀 ° 十本くわうは異思 ° **H** う念万上世れべちにふ音行 々遍人間てしかすに声誡 ゜か `枯 上 万息及頻しっ是る高決渇人 入んにてて特べ僧 しすの の息だ日随、にし伝てれ行 、に直ど者 くも念せら人蓋科也も伝 阿念記佛し備にし目の響に 彌佛さをむわ在如を人林よ でれ勧るるて是別に谷れ 佛あてめに高存の立非にば 至 徳す因すず撤っ つの。にるしす余 。りた人断あ処と `幼 でるの日とへし如り、丁々 思 、て是 又重法 わ人他の師 っに 會 れ を人果の聖 しに る。導のを如賢て咫 く企感きの聽尺 自望ずは世くす · 。 正に人る らす なる内に処感を る事に之す泣得 もあ充をるすた のたち感径る IJ ` 1= がはて進 存 ざ 外 篇 岐 至 威 しるににをる貌 た所溢収わ 堂 るなるめか今々 がりるんちに士 しもも常し庶 故 にとのの変て敬 `もと 跡之服

十 出 に わ•を 居 南悉と課喜自其 陀 るゐて ŧ る居 く上 あ限歌ー ろりに万 う或念遍 は佛の 之一を念 ひ日手佛 と十でを へ万申課 に遍せし 法の・た 然日足場 上課で合 人を申も のもせあ 頻果とり 卑た云 にしう自 倣得の分 つるがわ・ たであ日

四

五 で 人 **ゐ** の る念 佛

て

此に

宣つ

一 契 を 和 て

尚わ・

わ・`

東下

京 総

芝 國

増 小

上 金

寺の

の東

統漸

大の

の宣

嫡契

弟 和

に尚

てと

當間

世に

徳の

な話

りが

ع ع

記り

ഗ

名

の

左

貫

譽 寺

僧

正 首

つ和四ま宣徳宣 さ し本た尚歳説契本契 とにの法大上和ゐれ上 云う。 は時に師人尚る 未よカ問答問 を だ IJ 念念 修無用 行 問 \mathcal{U} 々々は 不 不 衆 不 修 ふう。 捨 捨 足の 行 ع 12 12 の わ。念 者 日 事 処 こなな 申佛課 れば無 ~せども ij 念 IJ て佛 ゕ , 念 る 佛 を 問修の 昼夜しばすいめる 、一食の 疑も生じ 説 こばらくもい 事如何」、徳本上人容を 法の)間も じ給へるなり。」。の両途を一時に勤む 間師 間断 断なけ あ ų́, れ 日 」宣契和以外容を改め ば課、念 次ん 念 日 佛 ゃ 課の 尚 何 答 師 お数定を 之のえは を難 平 生 τ め定 聞きい事 日 る事 め 事く念やに佛 て う ある の Ū, ゃ 我 わしと

六 せ徳 む る 人 ŧ の が 佛 ഗ 内 行 在 し 己 たるも 底 のと思われるのである。 て居 り、その説 教 ŧ 又 平 凡 の う ち に 聽 衆 を 魅 了 L 随 喜

を者 至貫 称即十首 世余闡の念 阿先 人 譽 福島 彌師 陀故 佛 大己正 ح 僧 無の 名づ 行 正 量 親如者 け 臨 勧伝 るわ、此典の る 『百興千名爲眞菩薩又能化万数の序に「龍錴居士嘗引大慈大 ·此偈衆皆竦然謂日聖克知聖窃謂 海 大 和 尚 の 葬送 ഗ 数即是阿 謁 菩 に 薩之 基 < 語 彌 の 日 で 陀 庶孚不 也」。 あ る。 差文人 矣 政 修 十比 と戌自 徳寅己

本 H 溟 尚 لح മ

いなにな名 及る知 本 < 力其んに識の上 弟で一の で人 あの 種 う も子 とそのちっ宗なの反にた風 っ徳感わ•かが 法い毅寧じわ・當 事然ろめにた之徳 問 時 さ 眠 を む さ てばうしー想ぼ 、了たて文され 茲解れや不れる ら知 に出 て て宗 う の 媏 来 い教 るそと輩る介 な 所ののな < 所を る で内意 で刺 あ證気に あ激 るの込か のがふをか かもわ其如 茲き つ 者 b の何 ず弟に たにに T る又敬 子そ 一服之其との しにのな威 本 襌 上 僧 て つ風 面 宗 人が 接風た堂 と物左すの高々 凄右る盛僧た

す ののる時のの 上わりと 人何の لح のか問 宗木に 風に頓 が竹 宗 ഗ 内い 둜 吹る外だ わ に如ば 、き 頓 如 形 珍 で、 何 ع ŧ に 熾なも 論 둜 格別取 **へ**る、 の であっ 立 一てて たかを、 すが べ 行 きあれ 語 . るに ع ع わる云 + う 分 ゎ のれが ぬ あ がる ع

る其上本十政る此此 の人上三 \equiv はく六問の人年年こ正徳に徳問襌 説信一の受本足本答衲 名 号教州月正庵上り 出垂+模石の及退受わ・人る 存 後に 後北庵庵 襌 信 すの国被五に 宗ず る席筋仰世白 のる 由 上化付の隠 禪 法 事 でに益 住 問 於の天持師 あ をあ て砌保がの に十東師 き 此、二溟匠法飯年和の か け 問山辛尚正 をの丑 で 受 試長十 ゎ み者月信人た寺遷州の のに化小居 州 で於 縣 つ 飯 あて壽郡た Ш る説七長襌 ഗ 。 教の節、 っの人、 である。 教十瀬院 良 沢 正 の群る飯衆。 受 文の 庿 山に即化方 ഗ のまち八で東 長じ徳年わ溟 り本四有和 音 寺て上月名 冶 に参人入な で も堂が庵寺 あ 文 で る 本徳化文あ

12 · (こ す 月 寸 答 を 三の で 示 日 様 ず を 飯 し玉山寫 ては長本 長火音に 短を寺 ょ を以ニ つ 知て而て り 試 徳 記 む本し 人べ勧て はし誠 を < の 言 金 節 之 をは 吐石奈わ・ いを良多 て以沢分 是 て村正 非 試 受 をむ家庵 分可松側 つ。 し壽 の 記 劔正録 そ もは受の さ毛 $\overline{}$ 寫 んを庵で 以東あ 是て溟る 非試和と 端む尚思 試 可法わ し問れ H

の 事

Е 南彌南如 来彌是 小

、此頭日日日答問 ち問彌 喝は陀年陀教 すず佛多佛内 年 多

四

量和処法徳徳 壽尚がに本本 のなよ上無 第いっ人語東徳東徳東看 る 二 わ て わ•低 溟 本 溟 本 溟 よ わで即の速 経余あち気去 りる一狂東名 文 が喝め溟号無陀無何 しい即は阿如阿か た 面てた を 問白し襌 記 いいま坊 し で っ 主 て わ捜たに 明 なく、は話とこれのでも か で あ 云あに 寧ろ愚 いつ り、 な て、 る b その の ず 問 で唯 に 年 あ永唯 非 ず 却 る炭 の 相佛 ゃ 多少を問うも 今 容 と思 日れ おわれざる て ħ わ両 る。れ極 IJ 阿が端 之禰見の禪 て端 無 腔 益 如 的は の来此で自 徒のの 「東落の

に無溟付作

そを尚例す れ誓徳少 つ本なず 極天死手そた上く 人 る習記のに之 十南事へし事っ即 万無遁心てがいち ħ るに置あっ徳 る唱くりか本 隔陀道へ事とい上で つ佛は忘わ・伝っ人 れを今れ無へのの ど唱のず用ら時宗 ふ世ばのれか風 、 の 者 又 池 盛 田 を 別 裏 念寺 づ を ける اتا 好 於て、 む 資 に 料 あ として學 襌 ら 僧 が 上 か の か し 威 た 儀 事 ま に わ で ご他 の服 し て 日 の 。伝 課 に る念 そ 。佛 ഗ

人

四

首

の

を 詠

じ

た旨

の

記

事

が

こって

ゐ

外 IJ

五

ے 樂高ぬに伝旨 事 ゆばはたでそ とわの 度十南ひあ時 (法然不遠の語に日に行きつもどは日無阿彌陀佛と中の日には余を語る る ま ll ع

億 阿 土 彌 唱れに 申 あ す

はし る りに もつ

六

12 通 じ

にわ•く者 供難所と本 しなも云上 う 人 い蹴しもの 破く却態 っズっ度 てバてわ・ 著 抜 元 しけ之来 くて叡易 襌ゐ山行 味てに道 を 於 ع 帯眼け 称 び中るてに天 す み 難 台 る易の法 のの念 然 で行佛上 あな業 人 < る なの تع ゅ ځ そ 唯 と の 心 同 き 方 著のじ ے 例淨行わ とき方というという 一心あひ のりと 5 彌 を陀随 掲の つ げ観て念 て念其 なのの ど説行

とゐら植一徳己己南迷地たく著 いるのえ心本れれ無ひ獄 歌てにはめか阿かと 見南南はら彌しは か佛見よ無無おお陀地鬼 て花阿阿のの仏獄の もの弥陀れれ心や住 わ育陀佛日悟た餓み ぬと異おすぬわ・る もゆにがれ世 るな なれて身な話もれ りはのば、なぞ、 なぞい、 申我家おおい すがにのの か阿皈れれと方 ら弥れ天にな法所 こ陀ば地おふ介に ・がのば 佛陀けれお直ふ地 ながり同のにと獄 体れ佛こ 悟心ろ ら

を、

本

ば

か

せ

彌でに今 陀あ似こ のるてれ を う を くを とたるかた仏の月らつ飢る かわる わ・られ如里な名の己るあ国 < b てがそ その いかの行 < 時 方 が 陀え南 のか無 < 冏 力信彌 < にじ陀 は弥りの わ・た 佛 所 不かで謂 らあ自 れ我 とり 力 議 て・ 難 な 説 行 る 威何法の 力もす襌 が西る家 あ方時な っ十のど て万我の 億が行 十土釈き 万の迦方

億 土 に 辺 存 のす 道姿 理が を直 弃ち へざる僧のに、ここが 侶 娑 • 婆 佛の 徒人 に間 わの '、面 禅前 乍に ら現 徳 前 本し のな 思い 貴と 底云 はう 酌 約 み束 とわ・ 存 れ 在 な し IJ 。な 1) か ら

廿

弓 あに 石 本わ動わを本 石 刻い本 せわの名台名もへ人 たの の 名って `又の 建 ち 誕の極 生上樂 て を 院にえ あ 阿 に書眞 る弥 ! 矢を番ったものる。 之を全国的 起 所藏される 陀 せ しめ さ名字れ号に の わ・往 てゐ 国字的名 生 ത 8る。又は に号 だの、 が、磐石の・ でと云う、 動の信仰を 欸を南<u></u> 夥物 わ・表 無 書 し ے し阿いき 円た弥た つ のも陀もに て 中の佛の上頒 にでだだる布 這あと の事さ 入るいがとれ うこ つ あ 思 て此 るわ又 **あのと**

る千所よ号あ此る磐 と津を っ石 つの の川はてのて徳之不ら矢徳に 事尊じ建建 で光め立立その天のす番上 あ寺と るの ら、勧号又号のたれ上誠のわかっち しら が、こ 道 案日た人聞刷襌 内のも巡書物の現磐わ中の岬の錫なわーに石、に の 庭 、円 ۲ 石山での にも に上あ所の夥相 るに上し ŧ 小 ∘わ●梓い相 刻 其 さ さの今記と 當 い上人筆の れ他日念同時 てに高の一の 居在方爲時 上 り面。に に分 人 12 随 名号石 西筆つ其随喜 牟者いの分の 婁のて生沢人 が 郡見見前山を 岩聞てに頒対 た っ田し も又布象 其せと て 村た 三る財遷らし ゐ 宝所部化れて る 寺で往後 た ഗ わ・わ・生にも瓦 を `寺弟の版 曹 見 洞道徳子と等 た 宗成本達思に こ の寺上又わ ع が 襌 山 人 わ•れ た 寺下剃信 ŧ あ で前髪者又の る のに名で 。あ .

御坊島向 Ш 原・由 良トンネル 南

Ξ のさ筆 大れの て る居号 点り石 の に 上人の奇力 うち の蹟其 ものの の一行 でつ所 あとで るし あ かてる ら有千 、名津 名 津 こな川 の話の で 落 つあ合 の IJ 谷 事 の を又書 特飛継 記騨名 し高号 て山石 お大の き雄事 た 寺 わ・ いの と名行 思号者

人本 乞落上 う合人 て谷の 念を行 佛出場 をてな る 修 行 萩 千 原津 た庵川 処 住 落 `の合 疾頃谷 病にわ• 忽千 ち津今 に川日 退方高 散面郡 しで矢 て疾田 安病村 泰流大 を行字 得し千 たた津 のの川 ででに 嘱 村村す 人人 る 等 等 上徳寛 人本政 の上四 徳 人 年 をにニ 感行月

四

五

引 が か 縁 う 丈 四 飛 あ れ の た あ 字 持 余 馳 う 口 今 る 二 た く あ 廻 じ °**へ**朝 °に尺騨るる石時り半ちりせ 月 [°]隣っっ げ自た爲文及余のぞにをの、を行不皈か下夜其十石村たて ららのに化ぶり高とわ・持庵そ上き思つねろ明の九屋ののゐ村 れ発で松十大・山申 ` っのの人既議ててしけ石日へ藤でるの た頭寺倉三名周市さ凡て戸名がにの 急て前がのも井 としの山年号一大れ夫行の号書彫事誰 ぐ皈に先朝沙 (其 云て近と八石丈雄たのっ締石いりな彼とっ誰に千汰今儘隣 く云月が一字とわたっがてつのにのたか早津し藤に村名 云れとて行彫けでき 話との藤川て田 のソにう十あ尺寺 いゐ方りて之き っ余わ•う も云声での書村て早石 でレ来処七 うる不上あをだ あうで 瑕村 て字い (を建 念てに日てで相 が人中明がっ上し 人佛泥あ上有 IJ 當 あ人て字いへ建 極も、なた、人に見 々を田っ人名台有 今石此るが貰藤て今立 朝屋石故 申にて五で石名 い井他早す 申た かわへに藤次〜 しは ` + あわ・な 往いそっの南 で蘇る 生とのたを無上が 層てま自九る亀淨 らまい見井第の四村事 げるが発われて 随引り然歳 。の刹 の云名の 石つ大に 喜 け 動 石 に 恐 形 で 出う号で見下 りねいて石い屋の字な ŧ も其の石を形がれる。 ばかをしらを 来事石不河 にてでた屋そに石早り あ 涙 揚な引てくなる るでが思谷阿 をがいき北上しが `安議との かた号だ前彫刻拾ご上 ら石 るの来国人て わ・此座に云字 っのを つを っさ っで ばを ぞでつ化揮を此 `のし思うの たで彫た通てせて手の 其 運 た 、困て益毫りの 石事て っ辻つ 処 `っのる呉る 頃承 ഗ W ح でだ其てでとれ考即な諾 がをゐてのく `門 とっ建のの 石 行との呉 申てて時名周内 自上るゐ処り るへち石を う。さゐたに号凡に つい声れ怪つやで之を得 分人のるへ可 でにをと建の れるも此石そ長 う 。主よん石豫上上個の 高とののの二さ て分 飛申発 をも び上見村おか認の之のうでにめ人人見 で寺内丈凡 に上あに最四そ 廻げし人いらむわを顔にわ名沙ののつ るたた不た以べな聞わ・とけ号汰巡揮け其 念人る巡大尺一 よ所と圖処下」い見のをがし行毫たの 佛山が錫な余丈 云 上 ととたな事た彫てを 申門 `のる をが石 匹 も上う人或弥の云村かでづりをま得 すよ余砌も長尺 。の夜陀事う人っ にりり `のさ五 不人 `ねかいってー 安之に道で凡寸 思の誰行暴佛に事がた石るけたて 々を大俗あそ 議云もを風のてで早とをとて処居全瑕し

となき結ろ一幅

ではそし雨三、、速云戸、あ、つじがに

六 尚 で 本 る 上 人 に 東 溟 和 尚 が 襌 問 を 試 H た、 信 州 飯 Ш 長 音 寺 に ŧ 名 号 石 が た て ら れ て ゐ る ع ഗ

七 尚 寫 本本あ 徳 本 行 石 者 名 石 開 眼 供 養 し た 事 が 記 さ れ て 居 る 故 左 に 引 い て お <

な屏名 号行に 石 者 名 と所 号 **々** 1= 開 て 御 眼 供 ち開 養 眼 の 節 は 撫 徳 で本 様 筆の は廻 IJ 筆に の屏 ま風 を 立 7 中 けに て 鉦 つ 打 ち、 其 ഗ 間時

IJ

風

を

り

筆

を

持

名

号

石

字

を

同

`

何

ŧ

つ

ず

に

念

佛

し

ば

6

<

の

徳 木本 F わ・人

れ慶 の本 てわりりかりたの な ഗ で あ 人 る在 0 世 徳本上 の 當 時 人 ょ 言 り 三 葉 の 体 末 存 · 徳本上 す る。 何 人詠 れ ŧ 歌京 諺 都 註 四 条 • 徳 の 本 住 行 者 佛 伝 師 に 匠 掲 西 げ 田 b 立

ŧ 同 木一 で此 の 影像 躰 を わ・寫 L 石取っ たも の い. で あ う る。

又 本 常われ此 か か の 何 る し 三 れ も 躰 < の 松林 小 石 庵に **像**、 Ш 原 安 町一行院に安置せられてあ 置 の 一 躰 せられてゐる筈である。 小 川伝通院 境内清 っ 淨 心 今 院 如 大 何 仏 な 堂 IJ 内 し に ゃ 安 未 置 調 世 査 b で れ あ

Ξ ケん西 い IJ 日 ع 田 う。 を勝 苦 下 尾 山心時勝 す ににすに尾 は籠れ聞山 ۲ ٦ 居 l, ŧ ゑ て 意た 禈 日に佛 刀 意 々み匠 ベ上人にず、 で か なに 當 い謁 よ時 見 IJ 遠 て近上に 上し 人て 丹人喧談の伝 に 寸 を勝さこ尾れ ŧ む山た た が る上 る わ間に 念 ぬ 居佛 像漸ま行 < を し者 彫にた徳 みしる本 て頃上 人 た 心 も地 ഗ 白 身 の 定 像 で ま ŧ を IJ 又刻 あ る 百ま

四 上 を院の人 回の胸の しわにわ 舎 の 利 座 年が 像 寅お で 清 め 淨 られ ιÙ 院 てゐる 内 の 大 という。 佛 堂 わ・ 之を 行 者 堂 ع 称 せ ら れ る に 至 つ た 此

五

と木一の右 之げ向像中像 わて文わ*****等 一 化 佛 眼 IJ の て今 +日 式 五 لح ょ せ 枚り ら 記後年さ れ 請わ●九 た。 文 衆 月 生化分類が 故 に 世に之を かえたいのかかれていますがあった。 ち上 てゆ で読誦し、 附 嘱 人 の 遷 眞 化 影 に と伝えてきた ら施先 座仕立 し利つ 居生 事 た我拾 るに 日 とい 座違 うこと う。 を 上 此 人 自 の 像勿ら にれ そ ゆー の

六 う つ IJ の来物 木たか 像らわ わめり 己 1= 百 < +年 世 昔 感 浸 つ た 饒 季 末 葉 LI つ ഗ \Box か 又 徳 本 上 人 の 如 き 大

行

七、 徳 者 本が 上出 人て 摂つ 津く 応 頂 山隔 勝 尾の ‡ 内に 徳 本 寺 内 に 安 置 さ れ て ゐ る。 之 ŧ 同 人 の さ < で

第 廿 四 H

徳の殊徳 上横に 人わ・本 見の を 特 で 掲 そこここでわない。 を す徳 説 る 本 明 所 上 し 以人 て わわ 置 又 き 文 た本字 く 思 上 を 人習 ふ ഗ つ の 習た で わ・人 ざ で る る 書な がい 如し 何か に る もに 異茲 常に

で本てわしの歌のる又ぬい見わ・名 のあ上ゐなかでの廿直之文たし隷号本力更 る字文の眞と無も風即人溢上人 が字遺筆見阿のなちのを 弥わ・特南書 見差陀 無いる 別 た問佛誕な阿たがのを と生字弥も故一し 院体陀のに項た るにで、 わ・ <u>ത</u> 存すも号 る日で · 徳蓮 あ 本のる るに の題 0 若 目此干 わぬ 号南名幅無号 残 つ 文字と で妙中て、法に居 之 蓮 わ•り ŧ わ•華 楷 許 下経にと そ し での が 岩好書最 た 磐対かも LI を蹠れ多 処 描を た < ŧ 存いなも 残 て しの す つ 大 τ もて る が磐ゐあゐ るる る 大の がの `わ• 体上私 にの多 六 わ●置実く字

Ξ あ文五筆わ字南た書 、は詠をて 如わ●、 `` ¬ 何 文 字 を で 面 < あ 目 を を る 言 そ 遺の葉 憾まの徳 、末本 な 表を上 < し知人 発 て識言 揮 し居と葉 るぞの て ゐわ見末 るけよの かで 巻 の頭 此一に 見の首掲 かーのげ 首和て < るの歌あ

点の 私 ഗ 行をで が ٦ 満強あ る の調 姿し 事 に がて勿 徳 讀 論 本 其者で上 ののあ人 書注 つの 習 の意て 中を に乞そ ざ もいの る 稚 字 じ書拙 を にわ言 あ 活人う < 躍格べ る でか 所 てあ ら 以 ゐるざ わ・ ると る 云 云 裡 其 うにの う 事事 稚 を包 拙 蔵 を 明明す 説 ににる 明 しす強せ てるいん 置と力 لح き共の す たに躍 る 動 の徳しで

四

五 事 わ・ 別 項 に 説 明 す る 徳 本 上 人 ع 劔 客 の 事 に つ L1 て 説 明 す る 所 を 参 照 さ る れ ば ے

第 廿 五

て人 どの其行 あわらるたも宗の徳 る、ず所い本法行の。所。を『書を業熾 は宣を盛 此揚上売子 のす人上 他る往人 にの生一 数結の代 人果後の をを幾化 加得十益 ゆた百を 年 盛 る 。 福にに 伝田伝し 記行えた の誠 詳上幾の な人十み らの百に ざ行所止 る者にま わめてつら 後にたず に掲えし 特ぐて 志る の所以数 人 わ•て 多 々、法く の其然の 増の上法 補数人弟

し

Ξ 勿を を人人論まニー 宗田る 教行事知にな茲つ人行得 阿江紀安近仝摂江江大介誠にる至るに事な惠波戸伊藝江 津戸戸和に上すのっを掲とれ念 澄親勝一誓當錚人る でて知ぐ 著 院嶽院山立庵寺山院寺奥た徳 のる本 0 院人行 こ在況以こにやて 者 伝 にそ孫 に わ•の 弟 上 掲 列人子人 ぐ 伝を又の る 体 見 わ・弟 にる上子 所 。人を ഗ 著 名之の悉 上 な等行く 人 法 法の風伝 弟 弟人にえ 子 子をなた 中併びり わ・ `せきと 伝来て云 其 の 記る う 判時ひの 数 + `そで 二人 せはかわ・ るじにな 12 分め念い をて佛 し 判徳の此 て 然本行の 何 れ す上者余 ŧ る人にそ 當 程のなの 時 度偉り門

品壁住若甲襌王尾行願麻々 Þ である

尚

徳 徳 徳 無 本 本 徳 本 本 鸞 現 住円因量勵応苗明佛州空 和和和光和和和和大和 尚尚寺尚尚尚尚尚和尚

本 弁 和 尚

河波戸伊藝江

称

九

ゎ

に大た弟

而 ŧ そ を阿 本掲弥 忍げ陀 て寺 本 伝 岸を 掲 本げ 良ざ本 る察 本 人和 • 尚 本 人 碩あ IJ 凡 左 大の 基 如

四

テ納に法本の信 言熊入 律名濃 日 課女野 大 伝 六 徳 参 万 忍詣 熊 遍 ヲ 名 詣 ア從 ゥ 也 忍り 落ハ 涙 行 云者有 西 々僧田 弟卜中郡 ー須 ニ須 アヶ徳 子ァ ル モル谷本 上 西 此 方口?本 スナランカ系州菱光が新蔵ノの 力院刹弟 剣子 尼名出 公号セ 1 和 尚 條ス 関ル 白者 政モ 息ノ 女二徳) 御本 が堂上 御関人 参白勧 詣 家 誡 ア故文 リ大書

六 五 あ本加書 て行 人 者 畧 掲 **〈**` ・ に 記 る 所 、て ഗ 後 + 世 の 人 上 参 人 ഗ 考 法 に 供 L ത た 外 い 12 に と 存 己 本 ず 岸 る . 次 本 師 因 で あ 本 1= 勇 IJ て 大 基 及 び 行 誡 上 る 人 等

(イ)要しと當徳字大之が徳を本 て名麻〇を体を 上如乘奥一受徳本る上へわ るの字け本然 0 院又て 上の鸞の 人意州法 四空本〇に味和弟 ね修歳和○又よに尚中を るすの尚のわった 本てて大わし 得 基 0 と度徳和徳 称を本尚本 受 上 人 現 てけ 居 て の空に る る僧法和随 の 次侶弟尚從 で 第 と子の以 あ なに 如 前 で る あ り加 き え った てるて又 ょ 徳に 人 以わ・ろ本他 行の 下 し 掲 何き 自 や伝匠 ぐ れ る ŧ ഗ 所 徳 若 著よ 本 干 者 何 れ上の福 も人疑田 皆のな行家 徳 し誠 其又と上な のわし人 法本なのた のい如 名 に 专

を 念義人 意 十現は徳 名た供 づ を 所 時 が和小和字 あ 尚石尚を つ わ•川 わ•用 徳伝大い た 通和で 本 上院のゐ 人統人 ഗ 京工大十 都清和 一 清"尚 歳 淨院に の 院?從時 う知 留 錫て恩 せ 現 院 ら空壇 れと譽 た改大 時 む 僧 0 に 正 遊に 初斈つ めのい て間て 見五会 十 得 日し し を現 て 宗期察

七

う起に輪 無 明 の 意 を 多 づ ね た る に 徳 本 上 人 水 中 の 杭 を 諭け لح て 無 明 随 縁 ഗ 趣 を

(**I**) し又む行又答一 て問るわ如へ念 事う如心何給 しにに ょ し つ 7 て か ら 進 渞 る む心 堅 苟 固 < な ŧ る べ 勒 修 き せか ずを し 問 て ふ 道に 4 11 堅 上 固人 な声 るを を烈 求し む < るし わ•て 心 木 わ・ に行 よに IJ ょ て つ 魚て を起 求り

(N)を て を易日と < ず託幾 年 か早ば ら くか く得 L) 一法 を 切を 経 ののて 衆ぞ安 生む心 成 ഗ 仏そ境 しれに 佛い 終道た ら深る ん遠 べ 時なき は りや Ľ な上 め てん人 安 ぞ 心年し 月 す 7 لح を 知限 < る り世 べて 人 しこ□? れ俗

とをに

八

にと如 `一執人 光 語 閑たもとて 一 都 日ヶ後れれ 遷谷和ばる名し 化法尚徳姿をと 然わ●本 諦し凡り意む ` 、人 。輪 。自も

あ 益 も り て 人 じ 手 識 期 な を や 本 吉 り 後 江 と 再 に 又 観 塩 庵 頓 茲 るが亦て俵の給をもすす発 。願田しに戸号び非全世津ににに。は因伝を山う空施べも得 念 に伝誓せ大る心音にも永於 和じ縁通叮棲にしすき何す徳佛に、通願ら和事ににゆ皈解て く処にのべ本にて徳院寺れ當 尚まに院き谷 を瞑見からし汗 一 っ お に 上 飲 上 し な あ 益 し **上** て 追 本 契 **鸞** た 麻 感 目 え れ ず て 背 旦たっ飯人形人てくらか、人順付上洲洲 奥得すたし衣かを ` ず あ か **答** 次 ^き 人 上 **大** 台次て錫と影わ・飯 之しれの頃鉢か湊 命第江し同相斈る上。らつへ出上も人和 院たばで `をるし で戸孝じ離は事求且ん孝て離人熊の尚 奉、に席姿るず勿下つ。解日のに野門 住常意之夕りを言 じ即来をにるしれ化そ今わ・く事間詣に大 し に 輪 わ・徳 て 師 肝 `わ**●**しで入和 てちり董念事てともれのも `問にど本紀とに `永無人と念わ^てのる尚 蝦徳鸞ず佛な自 後人見う上南仰銘 °ししら懇く常護よ佛れ宗途 。は 石にえし人にぎじ の上寮前給。佛切廃老法りの早意中其わ 、たの從て昔 善 人 に 年 へ 徳 祖 に す を を 佛 行 く ^を と の 筑 寺ら聊事坐遊こ彌 光の寄のる本の垂べま名祖わ・之間聞京前 にれかかしすそ勒 寺関錫法を上説示したとの他をう き都の て に東し契感人にせ 、ずし勧力信 急遊人 居と聖瞳鉦此眞覺 日 `て 賛 外 ず 住化て忘見須符らい ぎ斈で す云像を打ののに く道のあ うに定ち時解在 す益、れせヶ合れまー心すよ 天。ためたに脱り わ•之 難 ら 谷 す る 逢 息 わ•る り 現 を時る 、よくれ山。。い飯名所加前 勵に 保和がて、令のて 十尚うよき廿道不 人一りてたに之尚がら利なわ三 ま徳博 のに上徳と在よ此たざにれる昧 し本多 - 後事く念五わ●道 悦此人本云るりのきれ馳ど至の て上妙 年になよ佛の得の 服のの上うの随日法ばすも心大 人円 十 京 し く し 青 や 思 振大江人。日從法に後 。見て年すあ 。 ` に 益 日の寺 古和戸を後 `し介逢世唯自修わ● 月獅こ定居なかり 高道演 未尚を江に金て一うに自行行饒 郡徳譽 四子のむらりると 曾の中戸賢色名如。嘱行眞せ季 `ベ云 吉を上 有開心に洲のを事宝すを実ばの 田慕人 う な導と請上大本理の、勧な 、時 村ひの りにすじ人黒洲融山はむら決も (て 弟 `本思経 `の天と通にたべざ定得 藤 子 審院上上恰定定説 後る関徳勧槌改の入いしれしべ 田塩で 蓮に人人もとめの 華も東本策をめ旨りし化ばてき 村津あ 社住のな如改て疑 頂のの上にも、をてて他多三や 大にり 專

字至

本で化人よっ上談、博わ・を昧否

九

にて 住 院 ۲ むし 事め ず大 し和 て尚 な僧 り階 。大 天 僧 保都 十を 四経 年て

片夷摄日りを斤終る文云人て附さのき徳の空よ眞の江卯正山 腹な津寂とさの身事政わこ之嘱れ力人本徳をく個頃戸四に王 就す重忘厚元れれをしばをな上本伏襌のよー月住府 尾年而がきれく年たをよ、徳きり人上し室虎り行十す待 聞み其本わし近人拝に之三院九 よ頗寺七内如をる `+ 我る松十典く擧事よ月文い、の上めと侍にみ趺助宝 、ぐなく六化て獨住人て `の謁た坐をを本七職欠 - 襌 林 五 を 。し大日十日滅持も憚果人しりす知尊佛十のく 喝 斈 庵 堅 斈 就 もに本蓮び中浅と衆上一くすと終らしにてしるるび和二後にて達明社し地儒云を人年、るな焉ずて日剃に事や、**尚**歳台よ し地儒云を人年 ず、 を入 六門時らに 和く髪 う $^{\circ}$ + 愈 と理生 多 云斈誠人て寂月下われ臨 尚っし廊々如歳和てに ○ 尚 譽 上 孤上尚 鳴人は をのじ 、に 化に スの坐が 一七歳 一七歳 一七歳 一七歳 一七歳 一七歳 驚高め 操精の毅修 業か実を を妙成夾せ和。 をりに和 か名眞 障 碍 さを龍 □?て 篤 尚 ず ` 斈 に ん聞と 1 な 尋めびしら衣小と内の謝 離る 事或きい木 とき称 から 和 常ら徑てる鉢石雖典士せ あ日ヽて 何し れべ 尚 ずし、。 もをにら りのて襌氏 を 即者京 道る 史 一 Ш 廿 。子日和つ伝 て黄省理の 閲しれ ちの都 俗 む 歳 昏すを 勝鼠の 尾輩人 寺か ` を松あ趺小 に ` 伏 っ辞とる坐字 詣か見 りく誓 す驚叮の優和の名餘く而和人わ和し云もを 上わり願 きく途れ尚ちののにし尚の問当當 うの斈虎 安てにをて上一暇修もて内所下登時山のぶ之 人虚寺 歩一人行讀孝経一助化の山勝に如 に名に 謁を住 五不了み度の院書怠論行のを高剃尾上く月 目遺にをりを院力助足髪山 し博す 굸 す 正出と双を訓うゆなたをにけとのに てその 月のし手経をつるしづ和よ 〉な前籠 見る教 れ日 廿人てにれ奉るす。さ尚る己る日居西よく蔭╬ ニな掌百ばず。と上へに。己べ、中のり汝角** にのわ

- 60 -

出松て か寺に子上 りた 本る び中 لح てに 安 华 年 頃 念 上 佛 人し の給 室 ^ IJ 中 仕 せに ら於 て 驕 天 傲 保の 十心 頓 年に 六 摧 月け

+

徳 活 やさ 謁 申り < 굸 すか を 灘 う を 事か和打 夢家平賜現襖の乞を よっ尚 う聞。き たひ親林 也。 き 処そ L لح って 林 둜 給 折 7٦ 和な ら わ和に 思襌に如き尚 し和れ尚嘲徳 次 < て 上尚たのみ 苗 、の 也 人何 る念 笑 和 い間 0 礼. 思 を 佛ひ 尚 和弘和 ざに 拝ひ壇 て す 在 尚 之 和蓮 念た越 る 『高擧の心とへとて十 IJ 佛 敬尚社 りのを て しけ 某遙心わ解 上 給ん和に露 人の う蓑尚聞ほ 忽 念 笠に یخ 超 念 に移 を 告れも 秡 右 佛 のつ げてな ഗ し、盡してとみにけ給う。其声微妙 よけ て か気 声 て 調 . を 生す。 を猛 今のた 高 日寺処 告 雨 時 [き、凡] を な も和或 冒 IJ 蓮 社 済 弟により 譽と 支喜 のて 氏かも 称 まびのじ 列 耳 怠 親 上 す 。に根 て家か 王 り ഗ 仰な 加に 思 わ徹は即至 せ < の徳 るに IJ b よ門 対上れ < る 前に 名 恰 面人た を な に をも 致に り佛通び

に受門思或み 勝かじに尚六 う すとい夜て近苗佛がん見 月 れ 硘 — 全居の出江とのてと りり人敦 ゃ さ が後くし 睝 て文同ににせ子り前押事 御從に 言 せ至語立化一 ま ば山松し ٦ ゃ ら らりにた三の其 と澄庵う れ涙頭れた絶せ年容の لح す給四貌後に と上たる い、本は、 う 月な西 尊 き て四り福 其 江 応 沙 日し寺 かれ和上の後 戸に ഗ 人頃にの故に門 尚 冶 化二 夢に於の 即妙上ま し 時 にこ 来 頃 華人わ 枕 て IJ 和年 云さ志谷越 信は 上 一尚は越 浅 う。 のに前せ御心じに き 和 草壽松 程在敦給丈肝め 來 日 越 て、 IJ ら Þ 睝 ۲۲ 五に 後の れにの とに 銘 せ 垢 尺 庵に知辺 給 ベ承在頭五じ徳 入人で をとり すのら て本ふ 迦け IJ 上 ع 上と 上六直 人 . 寸に人見 も日にて ある。 に尼ば追伝に あ て ひへ両 うりて、 まこ 用を や課謁覺 よの上行聞の لح 若 き 一見め 御 冠 思万し て手直て し 手 た ※ 帷ふに訪故にふ称た IJ の じ ば る 頃 子れ剃ひにてば を L と云を 撫か誓にそ ょ 刀 其 IJ を 給 せ る 思で りひ の の う。 ひさのて先時 名 寺 佛 り其立せ涅直夜わ・に知 てのち給槃 識 筆夢唯住 い頃てへ像のにの を 処 仰 L ぎ本と IJ ざわ●同 を名見夢 *t*= 師 と本じ 見号たな 全 る ح 奉 佛 るみくて佛年尊奉 を る 頃た IJ 。づ同後和のくる拝沙 لح 0

勵念を を佛は子す四安見 たの 月藝す 無十つ す列そ十甲ベ こあにの日立し し ら一御質光日かのた加頃家本 を順本坐本わずら本出和保 ・弁合上毒とん上で尚二 て事 を 州和二 猛 を て耳 自乞活 尚月 淵 ら慈和示にのらひき 寫わ● ̄ 坐し佛山も日 れ襌にの し 如意花化 あ石 るにそく輪光佛 る を 坐のに寺 لح 聞 し頃人 れ きて所人 於 て て 樹以申 て لح 弟 あ 丹 下 す 称 子 の IJ を す。 の円行 て聞 b の 列相に入き 玉 にを耽門 髮中 りの勝 し郡 加画 ゎ し 人尾 て峯 りて又を山良山 本法或禁に師因 勵界 わ・ぜのに田 لح と滝らぼあ氏 称す谷れり うの にたて事産 す か ے IJ 上をな لح 人観 天 ` ŧ てに世 る 保 IJ 十 苦 て 謁 音 文 行獨素 しに化 年 策 行 願

ع

四 、得和所す外市縁伊肩と `+ 護中とのをな若二 0 の神豁によ於草社推亘そあをな国打る山月いす りて称才近りのり托しにち 0 資量三 鉢 奉 . と賜佛更よ す 号な 堂にり るん伽腰温寺端徳道わわ徳 す りの久諸に と藍 建志人寒発をな 暑意創で師和唱人蛇 設 誕 響 永を生の し立ま長尚しの を 元 見院如厭 `しいの 年 ふーて る・ < + 鉢 師 す 心 尚 寂 達 恐 わ・千に事 二月 たわず。 飄のる 津応 と 泉 即川じし 然遺事 六 徳 多 う州進ゆ ち尊 لح 日 年べ岸蓮 紀光忽此 しを に されたさ 藩寺ちの て L 衆と な田策 てタ · 一事 若 々 しの譽 主萩精 ŧ 山 共 人 一原舎位に永缺 に 位上を 公 至 くか 日 唱 没 徳 老人建のり世し 名 、にたの本 候 堂 立 耳 念 すに身伝る後上 **の・** 佛 厚須る達を う事は人 L るな必勝 ヶを し空 な が思谷得 膝のしず尾 西た自の方と罩寺 召 b IJ に方 らせ便云臉留 。壇 出 寺 ま とう を錫 泊 ず 等之主 き L かの 然 と上を とに 上け頃 ع 雖 人 無 し 置 て発 自人 し もの量て き他出 心 て 遺 光 出 て念生上 し 浙 去又蹟寺格 佛の人て す本五との日の地の 。弁ヶな御々勝紀御子

+

Ŧ 年七葉上丹寺 年に人後に浅蓮尚に の川と間通修徳譽のて後し チし 乞い 孝院 して多徳 建寺心た随年因 立に地る喜 和 於定に念後尚 成てま 佛に 千り上す丹和 日 後尚 日寺人 の のへのあのわ 別も日る国験 行 行 飯 く 極 田 河 を をらに月辺の 発ず出の無 産 願 家末常に す入はに院 し 門三年に て あし界も住 くてに暮 す幼 年 る弟家 る ഗ 年子なる徳 秋 武のしに本て 南 よ上同 藏列 辰に飯 り人所 法 の 善 沼加る 降 のわと一勝龍 り わ•先 尾 叡 教徳何づ寺に 弁 寺因れ丹に於 和 当にとに後留て 移名飯に錫出 ഗ 錫づる皈の家 室 くぞ ら頃し 12 とん 其 入 りの文のと月増 翌政言て々上

戒. 天 保 元 年 ഗ 春 浅 草 称 徳 院 ^ 移 住 す 天 保 八 年 +月 廿 九 日 往 生 本 蓮 社 習

十改快 上波す す。 風識 をを 社山すれ 居 0 を即 人 لح 志ち な 称 し徳 本や 阿上詳 波人に 壁のせ が風ず 嶽に に飯増 てし上 修勝 行尾に す寺籍 るにを 事於お 数て き 十入 て 年 門 1= 京 及 名 都 ぶをに 徳 遊 天 因 斈 保と

+ 七 社子、て井弟仙 山子道三三む琳阿号壇 文百谷面本一仝示久機関張上譽な州専にの本河年 摂陀道建名寺品入人て和 化寺場立をに院寝の唯尚 し 徳 住 **徳** 時察定て住す住 に和め念と。和広慕研尚 随尚た佛改此尚蓮い究何 り。 のむの 時 和 剛 0 道 唐尚天場文徳尚譽 保と政本は + な十上三 し一人河 年八 た年信大 る十州濱 外一方の 月面 人 Ξ 浪 法 攝 日 示 華隆化は 源寺をじ 寂、 正叡迎め 寺弁へ三 転 和て縁 蓮 名上感山 社八譽 古にず増 屋つる 上 光き事寺 ع 照信あに 称 寺具り修 す す 等 斈 。た を 中三ヾ 興川ち後 し荒に中

+ 八 と信 の本と 從 和 沢は じ ഗ 阿め 弥の 陀名 寺のも に徳 住 城 す。・ 文 総 政の 玉 八 年の 匹 産 月 廿 勝三 尾 寺 日 示に 寂 詣 IJ 正て 蓮弟

日人尾以親 本を際基行 仁補に大誠 ー 和わわ●和上 尚ん、尚人 そ 著 の和行 室尚者 中わ。伝 に或に 在 わ[•]の っ 徳 す て 本随 上 る 所 従及の を う か直っ かりし人で: L弟子とわせ りしたので ある。 あ る 未た だい そか のも 伝 知 をれ 詳ざ にれ せど

尚ん 之 又 詳 伝 を 缺 < ع 雖 ŧ 久 志 誕 生 院 第 _ 代 住 安 政 Ξ 年 九 月 廿

良伝

 二二二二二十十十十十十十十九

 3 知 須 そ 四 三 二 八 一 他 上 、、

 0 ケ の 、 、日 、日 人 尾 以

 月も、ま、宮 **丶**宮 本 詳 + つー原 ま Ξ さた片村和未 日し因の須 逝 く縁回ヶ 去徳が向谷 本あをの 上りた百 `の姓 人 の此み栄 弟のた助 子栄る と助にか 云 後 つ わに上て ね出人上 ば家之人 なしをの らて諾熊 な本し野 い因給参 とい詣 こ云しのこうに途 うに途 °はに に 掲もじ ぐとま上 るより人 所り、を 以一上ま で文人ち あ不のて

ŧ ず

+ 五 本 名 年 +本七尼 名歳わ・ 塩 妹〈津 に南の 往 生 日 伝 わ 本 准 ع 굸 う。 徳 本 上 人 ഗ 徳 に 感 じ 寛 政 九 年 九 月 + 五 \Box

六 往 行せ本 ず 勇 尼二 の し紀 て、 之 又 上 人 の 風 に 感 じ 剃 髪 出 家 し た る ŧ ഗ な IJ 未 だ 伝 を

第ににと七詳 八行た 誡高一 あ住記 本僧 僧の IJ L し 項正 人 て 者 わ●和又 で毅 徳 伝 こあ然上本 尚歌 をれりと 人上者 補飯徳 し の人 福 高 本後て法関田 ベ厚 上に万筵東行 き比 人増丈に下誠 もに の上のも向 上 斈 遺寺気列の び 弟第を し 砌 普 門· と七吐た云十い旨 旨俗本 うーたをに行 لح 々号 資し 可 世 。記 所 者 の僧 < し謂伝 たとあ 貫 家 てぬの 上首にゐれ凡 人 ع 福 るわ例 る のな田 の 徳り、 ら 中 行明じ に 2從うて加い 誡 治 を 化 自 眞智上維ぬら に恩人新 い遺 偉院あのだ 一年 大にり 際 な住との小無 · 遷 IJ しい廃 石量 考でで と淨わ佛川山 云土れ毀伝清 年 ふ宗 `釈通淨 る八 可鎭孝の院心 +西問声内院 で派識熾 あを見な淨門 る董 當 る心行 し時中院誡

第 廿 本 H 人 閗 係 文 献

+

増

す

の

多

々

追

料

を得

る

に

筆する

あ

の百の 手 有 行 許余者 に年徳 集の本 め経上 ら 過 人 れ に し てた関 ゐ るす る今る 文 日文説 献 書 を 其わ• 畧の 説 多寫 < 本 てわしと 散し 読 逸て 者 し各 の 去 方 参 っ面 考 たに に 事 相 供 と當 する 思 残 わ存 次 れし 第 る。 て で ゐ 茲 る るに 筈 わ・で 本あ る 伝 記が ഗ

徳 本 者 伝 福 田 行 誡 上 人 撰

書化人わ日り徳 ののが る く順本 次 例 後 斯 لح 上 年 人 云 言 五 様 在 本 · 令 の う っに十に 伝を正 てよ年記の であ を の 追伝 L 体 うて、 ば経 て って 製 過る 人 慶 欽 る 應 小 し て の石て の 丁 其 勅 で 之 の卵 川居 が修 あ 六 四 一 る 記 る當 御十 す行の 年 0 時 伝 年の で あ其日にの刊 所に るの本傲生本 徳 本 意のわ涯 上も気佛ん 上 を IJ 人 っ 込 教 ۲ 畧 . す 其一ての介 述 中 の世徳凄を L の本じ背と た 下 朴記上さ負あも の 録 人 知 つ IJ ഗ Ξ 皙 て 六遺る で ₩ 十徳べ起 即あ ょ 余のく つ ち IJ IJ 筆巻 大 此 と 法 な をあをの評然其 つ りし時せ上の る わ・ら 人 例 居 b すべ `れの言 IJ 己た勅に べ てでに 尤 修 つ上 上あ徳福のい人 人る本田御ての 正 史 生 上行伝見生 と前此人誠にる年 称のの遷上傲によ

徳徳ほ七徳徳吉号和小徳伝る活其をに賛十あ上明をす履其す 本本ど月本本のの讃石本記が字の精多語二り人か基 上上にに上上徳版歌川上も故に流読数・枚 像で と人・優に 人人大作人人本がに一人其に馴布しの徳 `本 あしの中れ足 の言字し剃御講あ撰行行の一れ殆て圖本外文次りて不 ・たれ 詠葉でた髪本のる述院状第通たど其画上にはに 叙 信 。しの和一りる乏のが人下す三頗述と で又た出讃をの現し概挿弟巻べ縁るせ軽 く、客入子にて山信ら誇れと、をさ十法半増憑れと 此佛代 書 教 人 をさ十法半増憑れと ににに古知れ二然紙上す を お関わき るて人上八寺べ其防 、蒐 す べゐの人行貫きのが今事佛 多りの 事 き る畧の宛首記奇んの数事 に で 0 伝一の大事跡が伝件 李古造 す あ念 枚木僧との爲わ・あ雖 る素書に る佛終起彫正云上な其りも 考 養 読 。のに請刷闡うと りの で 可下一 な破 只行小文で譽 上かに あ < 大 きをと をく在 の 本者石 に ば 書徳川徳上僧で省あ下の 力 非 な の本伝本巻正あ略ると如て 北上上通行紙のる れ 之を < し 共きわ ん て 當にも勝 梓人院者数序 入 理 ば 以の貫法五が此 時省の述? 丰 之 田来生首語十あの中尚いはと 既涯随等三り書位残てひ ᢝ、にを譽十枚 美の存 そ ・次濃事し に破マ七知俊七 困し其十ら光枚中に版実た らにに 難難の年んの・巻行三を る く木をと跋比紙誡冊 と小中れら 彫 経 欲 文 叡 数 上 り石等ば ろ殊印過せが山八人上て川に うに刻しばあ首十撰巻記一 僧なた る 慧 枚 例 劈 述 行 てのの 私侶るる先 澄 . 言頭し院 之一あ のの故今づ本和下九にたのを世 此伝に日本文尚巻ヶ徳る記記の のな 、書中の二条本事録録行又

<

覆奥る版 寫刻行外物 本しに冊 た天子徳 に和冊活暁で本 字 山紙上 本 藏数人 が 山十遷 行の五化 わ判枚の れ がで 後 て ああ ゐ るる年 0 即 此巻ち 和頭文 讃に政 わ●徳 三 後本年 に上の 明人秋 治像上 時 並 梓 代に に上徳 な人本 っ直上 て筆人 ` の の 摂 六 生 津字涯

住名を

の記もの讃手 だ末さの地 れかで ーゐ表 る る紙 記 歌 さ山 れ縣 て日 居高 り郡 湯 前川 記村 の大 和字 讃財 と部 わ・往 又 生 别寺 個の の住 和持 潜が で 天 半 保 紙七 十 年 六 申 枚の

道

を

め

た

ŧ

ഗ

を

木

彫

印

刷

12

し

た

書

物

で

紙

数

美

濃

紙

+

七

枚

収

む

- 65 -

と寺徳徳梓序注徳徳歌本弘徳中てにののる が判上上首人四上と支本子の 遠信人者て本人人半あ然人人を詠年人題へし信人和 ヽ寺の勧紙りせの詠の歌秋言さわ●た西の歌 、ぬ詠歌せ抄若葉れなも居鏡二 °でなの る。此あるこ十 のる人 道 のを 歌此跋 本 わ•の 文 に近徳が言挽 あ年本あ葉歌 っ 活上りの た字人 末長 ^か 本 の 上 を 歌 の遺人知 中詠の識 にわ•徳と 業ぞで 収上を見あ め人慕より らのふし れ大人の巻 て悟が一頭 る 徹 印 首 に る底刷を上 とを • 添 人 記知上ゑ像 憶る梓て並 し唯しあび てーてりに 居の四 上 る資方巻人 料同末直 道と行に筆 歌云が上 全っ人人後

叢 冊書

لح

う。

るで量 光 庭紙寺 冊田数本 從二弁 二十五 位 四人 わ<mark>・</mark>枚 の 日半弟 課紙 一 弟 半 弁 子 截 定 興 が と頭奈 署に良 名 從興 し 一福 てっ位寺 ゐ 庭勧 田化 前所 大に 納於 言 て 重 抄 嗣出 卿印 の行 上し 人た 讃徳

Ξ 枚二本十 ば 年わ●首 俊半三か正文に り月化解 のの元訳 冊新年を 子 刻に加 で で前へ あ江弘た る。戸経も 書寺の 林眞で 角譽 丸龍何 屋道人 甚のか 助序僧 文 侶 名がの 古あ筆 屋りに 、な 書 林又る 永文も 樂化の 屋三で 東年あ 四冬る 郎沙が 等門 の某誰 上のの

上行た徳上上 言 上間 う本書 لح の紙冊 冊わ覆三 な刻冊 本 本 で あ文☆ る 改[∞] っ ニ₌ 説 年# 教 頃九 の の[#] 聞刊報 き本行 書 で私 あの り所 格持 別本 のわ 書明 物治 で十 な七 く年 摂 又 津 別勝 に尾

ので人居ばあ徳徳 る り本本り す福 る田き州の日 て時に行老松日課ど住説誡 よに至誠人代課勧う持教聞十文。歌諺て一山之ていの士に か於る上達藩聞聞と村の書九政刊数註居冊無末ゐ るてと人わ•相書書 ベ其あの聞原と く授 り行きのな 者わ人っ一 如説難伝けのて 何教行にか印居 にの苦われ刷り 上聞行って 人書の音 施井 のが爲声決行中 事印に枯定に舎 が刷音渇をな寫 世し声すある施 にてがれやもと 喧行しどまのな 伝わわもらに つ せれが響んなて らるれ林かるゐ れとて谷と いゐにの此 善うた徹非書文 男が模す嘆に化 善如様 あ 一 丙 女きが婆る併子 が事 `心をしの 随わ・う 叮 聞 小 夏 か重く音上 し蓋がにし に梓 たしわしとまの か未れて記し奥 が曾るきしま書 わ有のくてせが

上

徳寫前徳もで天千尚徳徳た売り徳文徳尚文紀か 本化本徳化伊る 録之上元行本四国の 、年落本人人でにに人年者上年續で 詠る誠御れ千正合にが襌あ出対の徳関人紀風あ た し評本東在伊土る もて 判上下世國 の答が人向中續御 を上あ関にの風用 し ま東つこ土 り下 と記 大た き 阪書に向 で御 の面高の松 用 高のい際平徳の 橋寫のに右本節 京出書 栄 で で 治 亮 生 上 寺 と徳扨社殿地げ通 い本て奉へ久の こ行差志控 資 う 人料 そ松出村と がと取平候名奥 買し締右書主 いての京付よあ 取珍必亮控り つ重要宛 紀 たす上に徳藩 のべ其届本え 本 をきの出 差 上 も筋た増出人 私のの書 上し がでー面寺た 借あ應の • 書 す 覧るの控伝面巻 の 訊で通の紙 上 古 問 あ 院 控 壱 寫本の る で 通 し屋必 各あ との要 る 當一 つ販あ時通

東 尚 ۲ の 答 の記 事

る。

号答の の石を砌 寄因試 飯 記 長 で、 恩 紙 寺 まことに に於て、 珍 仝 地 奇な に 資料と云って差つ 有名 な 禪 寺 の 正 受 かゑ 庵 の な 住 l, 。僧 東 溟 和

わ・もあ和での上せる四川徳上上の 聞説て津月谷い信僧 書教ゐ川山書ど州 と聞る落本継み巡溟 わき所合祖名問錫和 書で谷法 あ最 る 幐 山附縁み山 尊に起た町問 ょ 光 っ 寺 のて 印 名 で刷 行 施 わ行 れし た て ゐ ŧ る の ら し 此 書 < 継 石 即 ち の 奇 徳 跡 本 わ・上 徳 人 本 最 行 初

₩

あ勧人ら 別 題 目 ഗ 説 教 要 旨 の き き 書 き で 中 1= 大 果 経 和 讃 な ێ ふ < ま れ て ゐ る

歌

冊た冊本本掲本のあ保津が本本も目 何のる尚 人で ഗ 書善無集 寫尼わ● で わ•文 あ和政 る歌九 を山年 知縣戌 ら日二 ず高月 郡に 徳 比 徳 本井本 上浦上 人千人 言原の 葉平弟 の四子 末郎本 或息岸 わ・女 上 詠な人 歌をに 諺とつ 註云い にうて な女得 き性度 歌のし 多由た くで善 記あ尼 さ るの 書 れ て又寫

者の

伝 行

に場

廿 七

(7)(6)(5)(4)(3)(2)(1)跡 処 上 跡 東 の 上 の上人を京志人 つ わ•本 • 足さ房 ょー 総 く行 τ る豆国の 遍 念 相歴 ゐわ<mark>は</mark>模を **ഗ** 旨 人武 化 藏し で た 益 ぁ の 三 る る が が が 信 濃 其 の 岐足山 りかを 阜跡に わ・於 加生け 物 賀国る 等 紀 樹 つ の伊下 て 多わ・石 余り 府勿上 縣論の ぁ に大行 る。の阪 び・ 兵 到庫 る 処 京 所

る 本 遺 五人が残 松 S 跡れ の 七 を名 を 紹を印ゐ伊全 介しし し て又事 る化上 項 の 益 で **※** ある いって、 れたるを補 の 処に が にわ大 をれら をれら れらのれもいい じかい 7別項にも説記る日本記号の1 わ植 明 た樹 がが 行 茲わ にれ わ・て そ

生 堂院寺

Ш 尊 光

和 須 日 萩 千 久 財歌 ケ 之 原 津 志 部 山谷岬 西名庵上誕 量方号趾人生 寺 石

光 #

最 勝 Ш 尊 光 寺

勝 Ш b` 尊 光 上 建 山 寺 てら わ・ を 和 歌 Ш 寺 て 縣 跡が八 日 即 ちの 郡 最 処勝に 矢 田 2在る。ここが:田村大字千津川 山 尊光寺であ Ш 徳 る 1= 本 上あ る が 数 安 珍 年 の清 姫 間 水の 行 伝 説 を で 名 た 所 高 でい 道

う 居 遺 こ そ 成 最 て っ 跡 こ の 寺 勝 を れ流 たではあか るれ あ徳とる本に てひがあ徳 b そ Ś の け現 た場私人 高わ・は行 台寧徳満れ 辺の ろ本のた に ミ 谷 渓の 日温上遺 のがあ和人 山たなの で 勝 り関 行 あ لح Щ 山の寂場 る が か とよ境 と云う あ ら、 に いで 追所あ めかるの ら で、 本 上人 千 て千津随 津川分の 千川か險 津のら阻代 の渓中なに 部流津山 落が川谷 つ と源にの 干をか ے 津発け ŧ ろ 川し西 つ 盆て北か لح 地千東と と津と想有 がへ山像意 区山を 義 し 劃峡負ての

負

う

道

辺

ഗ

千

津

か

b

千

津

Ш

に

通

ず

る

道

路

を

千

津

Ш

1=

向

か

つ

て

登

る

ら小恰谷し石段境荘の前れ燦墨闡字附おが添が並其の築が左 望橋もにたで下内厳位亜て爛痕譽が加寺弘う最んの石いあ側 むが滑水石あっにの牌相あた鮮教入さの法た勝で敷垣たるに にかか行でろた向具が大るるか音っれ大大庫山る地にの 阿なのててき師裡尊るによでお けなをあう所っわ・祈光 0 寺ら巖試ろかにて相ら正又弥る書居ゐさを風光 ٦ 、 — 右 當 ^れ 受 靈 陀 紫 で り て わ•祈 の 寺 お れ はれ盤 う て三たか書宇のにて源牌如字 つ 部 と殿も うの 奥て屋云様亦き きの奥具あ恭堂来の徳棟こ 備る公に印額本のこ行住にうのキ上岩声さ で其つ堂側 る五 さ · 尊 わ•結 が 行 高 が 五 ん わ• ° おチげ あのぎあに れて、 儀一の掲者い靈間で留此声ンら用か乃 南こ重面こな ら側名 り徳 ・四守のがと に号 、位座げ水総牌 れ 本 ゐ 徳 譲公像ら行桧堂間年居名かし しがり 上石中上 たで六 本 恭とがれ之造に口に る 人わに人 をもりた山に出土 て上合 が上 院夫安て地りな五な兼おで上 の う の行上書 し来間 人 ょ る 惠人置ゐののっ間 ね殿出品 あ水て 腰方人六 てた 及 と云う IJ 何 心とせ さ来また 掛知の字 る字よて ` た さ た垢水 は寺あ 分び 下 石れ六名 お 。額いゐ向 を り離を 面故ら 五 永其 がず字号の がか気保みら品っ 節位れ祐が建 る つ ののた がに う 又 乃 年の 事 1・ 大牌て筆掲物本て よ所た 至 無 高 奥 で 下がた いでえ 屋 姉が居大げで堂右 麗此 六 足 行 住 あ さ失 所あ落 尊安り江らあで側 での田 +軒 本 の っ 故弁儀置 おれわ軒 `龍れるあに ろし Ė た。 いれとせ左眠て う。 る袖 がたれの 如敷に 尚あら側のあ本 置 弟 ん名て堂 何のし 稍 り堂 こ , 、の の 行 ^建 二 一間に石て 此 きのそて りれに書 でで居宇 IJ 本 と 本 荒 わ・で 石れゐ洞 人あらが も 垣 わ Ш 延 廃 る和 又そ誰あ中篇建二 るなあ長上もキ のにに 内河诗 の の洞 和徳れかるに額物間 六品おチ にを向淫腰な 尚 病 いり 尚本にの 渡ふ流うぞ有塔っにがちら名が を 一渡ふ流 今 にかン Ľ がの上われ本位増巴間 が 治わ・此横七出かと ふ位人舜像堂公上瓦口 のて渡流かへな あ す無のに+来へ か牌筆恭が正の寺に一 老向るれけて書 人住上土間てのか 。。 も名院安面最のわ•間 松ふーて眞後継 で品蔵のゐ穴れ あ号殿置に勝大皆半 のが枚ゐ下年ぎ其 婆本なが屋る大た る母ーせ金山僧卍だ °師石 亭わ板るのに名の さ堂小一敷

ら光と正のけ

。堂 品

々かの ° 溪刻号ー

んに寺棟で其が垣

寺祠え わ•あ っ て の ഗ ع IJ を 物 の 語 つ て し 居 た る の 如 < 居 で が あ 山 なし てゐ す ぐ 上 手 に 白 次 神 社

藩近此のと لح 千 事 共 主在の小 に一、位 津 勧 Ш 位 化 五ケ 谿 流 の淨 ع を 所 お財 徳 して千 の 声 をも へだてて、又山であるが日あたりの 遺 が 上 跡 か っ 人 を て、 津より日 IJ の 興された時 第子 で、 高平野をのぞみゆる。 に建立されたの 宇を建立 尚 を建立してあったのを、天が、上人の行政で、 が 現 よい 在の寺 にのを、天保年いかを慕うてこのは 景勝温雅 であ 谷 なー 西 る。 方 寺代練・の行 境 北 地 に で山萩は の を 原じ あ あ 負上めとい人にに る。 堂 紀 下

れ此だを本此る南 上 の 寺 人 日直 及のを び時扶 代 持 尚わ●す べ 季そき末の田 世信畑 等 に仰 に及んでわ自然荒宮仰に生きた人々の実等の領有もなく、兄 廃寄又 の進檀 寄 時 も 多 の あかな つ うたお 。の幸 の 寺 で で あ あ ろ る う 故 のがに ん世徳

隔 時 て べに、 て 今 泥 棒にあふた事 に 澆 もあ ると云う。 無住が 惜しまれてならな ろ 從 来 い 。尼 僧 住

徳本 · 行 者 伝 上 挿 画量録

ての

寺

若

Ŧ

本

上人

時

代

の

遺

物

遺

什

がある。

今千津

Ш

の

廻り道爲助氏

方

に

保

存

さ

ゐ

一う。

初 メ テ 佛 シ

フ

몲

者 \exists IJ 枚 起 請賜 文 ヲ 授 ル 몲

得 몲

徳本徳徳徳徳徳 本本勇本本本本本 上上上上上 須日谷梵落光廻 網合明国 谷感 十上感荒 得 行 之 之 昌 昌

七六五 茂 人 ヲ之 冏 弥 陀 如 来 **|** 感 ジ 申 セ

몹

之 岬テ経 行 念 몹 몹

荒

徳 須 本 長 者 高 野 世 山尊 参 詣 謁 之 見 圖之 몲

十十九八七六五四三 徳徳徳徳□?徳応淨 徳 徳 本 本 本 本 夢 本 長 願 本本本上上上上中上山大 人人人人口?人 師 人人人大仙紀竹見夜徳伽 寛 鎌 井 洞 藩 生 中本藍 隠慶倉川御々島徳澤上之 山寺にに所公参本藏 人圖 龍にて於御授詣上司に 体於大て授戒之人 明伝 て塔授戒之圖之 神 ? 圖にす 詣る 十感養圖 ず圖 る

몲

十 三 + 徳 上上 上 感 見靈宮十之圖 授像供念圖

念 得 圖

몸 몸

法 徳 徳 飛 行親本本騨 王上上高 人山 〆圖品自末大 像期雄 一開靈 寺 行 眠 感 名 院圖圖 号 石 運 搬 몲

人

参

詣

몲

畫院 面之一

五

, 二 十 六 葉

九 寺 住 増 田 見成 師 が 、上豊 太郎氏 15 答

附

の有持呉む堂勝品 伝=等に尾 遺田せ らの身徳寺 る。 吉の本は職 田木 上西 は像人国 御に生ニ +て、身の 説 の大番 の 東 通 り京像札 、 小 唯 石 あ所 ij 唯)II 、 摂津 三 今 山 行院 陽 線 佛 島 の木 住 師 郡 吉 西応し 像と共に の 田頂羊 踏 立山紙 切 慶観 南 な音 同 る堂 側 人の作 者の 10 末 百 西 孫 日北 な 参の あ IJ IJ シ 籠 所 のに 上 上 徳 人 `本 上 寺 ഗ 遺 人あ のり 像、 品 沢 ٦ を 山 所 刻の

品西

沢 方

山 寺

あは

り現

書は

面 尼

な

ك _

度

参考

御 覧

れ IJ

ば 見

宜

敷

に汽

車

中 な

ょ

え

る

壁

ഗ

上

1=

松 樹

あ

る

寺

1=

て

上

人

在

僧

住

職

致

匹 州 尼 岐 近 越 建 和 居 捧 て 跡 塩 阜江前立歌のげーに津 ら週て徳 れ間 上唯 上御北居山野のの光所右人今 八のその 幡説の遺 よ教庵跡 りに室は 特参は 別詣極只 のせ樂今 供ら寺山 養れの上 あ 本の り後堂斈 此裏校 とのにの 云事安所 う を置に 知し枚 三ら居の 郷れれ木 八上りが 人 幡 は特此本 鴨にのあ 郷三附る 駅郷近所 の八三は 東幡郷 南に八上 山参幡人 上詣は御 に法変庵 石樂装室 鳥をにの

五 る 無 量 な 寺 IJ 寺 町 に 現 在 筋 壁 土 塀 の あ る 寺 に て、 本 堂 は 火 災 に 罹 IJ 現 在 J /١ 後

事 判 然 致 さ

て

る

な

り。

ハモベ 僧 上よ職金丸華 草菅谷も り、 غ ع 云云は 上 うう 人 山は の の地 御 中 名 木 · 頃 不 像 明 1= 及 で び す 徳 遺 正が 品 寺 あ彦 御 り根 舎 遺方 利等多 跡 面 あに りは < し古 あ が跡 IJ 多 近し 来 ₍ 近 之 江平 を 町 字 離山 澄 襌 れ に 移 転

0 之云 を う 外本徳豊 と本橋住はの妙せ山立 人りに て 人 遺 里 の 跡 伝 あ程 記 りの 0 を 所 造 今に猶徳 IJ 居 念川 り。 佛家 の菩 又 声提 志賀 屋夜絕 誕 生院に其 こえず。 寺あ 9。徳本上人にめり、此の寺の の寫本 あ 聞の り。 書 東 四方 十 約 冊十 あ町 りに 荒 大井 抵 山 はと

0 其 の

合將尺飛 軍 余 騨 高 Ш **÷** あ IJ 立 派 な ‡ 12 長 さ ー て、 門 丈 内 の に 名 툱 号 さ 石 あ 丈 り。 四四 尺 五 名 一 寸 • な IJ 幅 四 尺 余 • 周 IJ 丈

候 光に て家 の巡の台 上錫御石に のな頼は大 戸さに亀雄 隠れて形 山し口。周 ナロアり リロッルニ 古に各丈 跡は大四 多到名人 るへ 処 禄 又に高 金大五 沢な百 る石 方 名号 面 以 上 石の ŧ あ所 随 IJ <u>^</u> 分 多 琵 五 あ琶日り湖千 の 以附へ 上近は 大に十 御日 を遺間 御跡 لح 送 多 굸 IJ し う 申 割

井 上 廿 豊 七 太 日 郎 様

> 増 田 見 成

寫

を本るの深私又のそお稿本 心集 腦いは れほ 自 胆 結 うれは ぐうれはべた井 裏 関 よ心村修地 りをに練に奥くも上 消も此のあ地 もの豊 っのたたにな え で太 んて行めり疎 レみ者に、開 < あ 郎 ゐ者に ع 開 る先 たの ので又さ各。生修志敵れ地昭の つ、 し 然 行 軍 で和 τ あ し地 上先あ十な る て 千 を 上 津 筆 陸 生わ九 をと、 の一た公人 人川 惜 と昭 纂がし 云 和 れた み化光 も御 < う +つ後 寺 大 坊 疎 のが、 \ 百 を きの開恰 時余有 か家がも い年を経ってする関係 っを行太月た守は平十 この『念佛 0 られ洋 不、今、 好 日 著を知りて感 今やうやくこ 時の生期 徳 一田のに 本 激 此此 上人舍宅 あ 五 一人居もにた月 のの 傳の地 本高念 あり 僧佛堂つ勢 五 たののでれ的て日日 次事行あべに も本に 1 第も者 つ 敵家のほ で村にたれ空族敗 。に軍は色脱 あ人は

上 原梓すの 本さる如 年約はれ由き る では 程 何 十を字の中と に四要詰文々か 原化行 し 国はて る出 なべ版 くもない。世に問 もい問 ので 0 V 日た ある。 本い の 日 で ŧ あ 早る くが 裕 こ れ な 国と を な出 り、 版 、す 斯る 様に なは 書約 **も** 十 手 万 軽 円

の十半四 木月月 百 て 稿 + 紙に 月 百 + 八 四 + 五 頁 氏 に、ペンで記され 神 矢 田 八 幡 社祭 礼 てゐる。 の 日に 完 本著 成した。 寫 本 は 九 月 末 12 取 IJ

+ 庭六 秋 日

昭

風 そ ` **〈**` を な が め つ

水 郎

活 化 わ つ 07

る し平字 し た成 の た + で 七 し、二〇 又 巻 末 の 毛 現 五 筆 在 書は年 きっに ⊸ は な _ 徳 つ 本と て 上す 第 人ベー は所目 複がの 写 全 活 し部字 てっ化 添わ完 がしていたが てなあ いって る。 近お井 り上 Þ 活 氏 字其の 化の原 す 箇 稿 る所そ 予はの 定 っ ま わ•ま で あっ写

平 成 七 $\widehat{\Xi}$ 0 五 年二月 七 日

水 博

清

-	74	-	
---	----	---	--